

麥酒洋酒	一九七、六九	一七、七六一	一四、一七五、七九	一、〇六〇、四八
煙草	一七、一五三	一三、六三三	二五、三六三、五六三	二四、〇五九、三二五
合計				
其他				

日本より直接到着貨物表

品名	四十二年	四十一年	品名	四十二年	四十一年
木綿	六四、九三三	四三、七三三	砂糖	三〇、一七三	四三、四二二
金巾	一四、五二二	一〇、〇四四	麥粉	一八、二〇六	一五、七、五四四
紡績絲	二六、〇〇九	二五、〇、六五六	野菜	一八、〇、五五五	七、三、三五一
清酒	一六、九、九九	七四、〇九〇	果物	一三、四九三	一六、八、八四九
麥酒洋酒	二七、五、五四	一五、八〇〇	其他	二、九、六七七	一、五、二、七三五
酢醬油	七、六、〇五	一〇、六、四〇	合計	四、五、四、八七九	二、八、九、四、三三

○重要日用品價格並人夫賃

一米 上白一升十四五錢

一仲働並下女

月五四以上七四

- 一酒 日本上一升六十錢地上四十錢
- 一醬油 上一升四十錢並三十錢
- 一石油 一罐松函一四八十錢
- 一砂糖 一斤上白十二錢中十一錢
- 一味噌 百匁上四錢並三錢
- 一ビール 一打二四三十錢一本二十五錢
- 一豆腐 一丁四錢
- 一蒟蒻 一ツ二錢五厘
- 一木炭 一俵八貫入六十五錢
- 一理髮 二十五錢
- 一鬚剃 十五錢
- 一湯錢 三錢

- 一子守女 月三四以上五四
- 一大工、木挽 一日一四三十錢
- 一石工 一日一四五十錢
- 一日本人日雇 一日六十錢以上
- 一朝鮮勞働者 一日三十五錢
- 一旅人宿泊料 一泊一四以上三四
- 一晝食 四十錢以上
- 一下宿上等 一ヶ月三十四
- 一同 下等 一ヶ月十二回
- 一藝妓揚代 一時間六十錢
- 一料理屋の酒 一本十二錢
- 一同ビール 一本三十五錢

○新聞紙及諸雜誌配布數 (四十二年七月調査)

大阪毎日新聞

每號三百二十枚

文藝俱樂部

每號六十部

大阪朝日新聞 每號二百四十枚
 萬朝報 每號百四十枚
 大阪新報 每號百五十枚
 京城日報 每號百十枚
 朝鮮日報 每號百三十五枚
 朝鮮時報 每號百十枚
 報知新聞 每號百二十五枚
 其他山陽、九州日日、關門各新聞、東京每日
 每日電報、釜山日報其他合計三百以上あり
 實業之日本 每號百三十部
 婦人世界 每號百二十五部
 女學世界 每號百十部

○衛生機關

慈惠醫院 慈惠醫院の前身は同仁醫院なり。明治三十九年の秋地を大邱東門外にトして工を起し、

太陽 每號七十五部
 少年世界 每號六十五部
 少女世界 每號六十部
 少女の友 每號六十部
 朝鮮(京城發行) 每號四十五部
 滿韓之實業(非賣品)每號八十五部
 右の外に十部二十部宛の各雜誌七八種あり。其
 他直接郵便配達の分亦二百以上に達すべし。尙
 又朝鮮人として京城の朝鮮語新聞を購讀するも
 の四百以上ありと云ふ。特に紹介すべきは朝鮮
 中流以上の家庭には、日本内地の新聞を購讀す
 るもの甚だ多きことなりとす。

四十年の四月開院したるもの之を同仁醫院とす。同仁醫院の設立に就ては、當大邱に古參の醫家とし
 て最も信任深き藤縄文順氏が東上して奔走最も努めたる結果、佐藤博士は親しく大邱に立寄りて實
 地を調査し、位地の如きも博士自ら撰擇せられたり。醫院設立せられて池上醫學士其院長として來
 り、藤縄文順氏、盛況並ふものなき藤縄醫院を閉じて同仁に入り、副院長として池上氏を助け、専心其
 院の爲めに盡すこと茲に四年、池上院長と共に其名聲遠近に知られたり。然るに今回日韓合併の結果
 として、總督府は朝鮮各地に慈惠醫院を新設するに決し、大邱同仁醫院は之を總督府に譲りたり。四
 筒年間日韓民衆に信頼せられたる同仁の門標は撤せられて慈惠醫院と改名せり。

院長軍醫正松本繁正氏は、曾て第十二旅團附として大邱に功勞ありし人、松本軍醫正は大邱在勤中一
 般の衛生事業に援助せられたること甚だ多く、同仁醫院に至りては其相談相手となり、民團に來り
 ては吏員を督勵して消毒に遺漏なからしめ、釜山に京城に惡疫猖獗を極めたるに反し、大邱には一名
 の惡疫患者をも出さなかりしは、全く松本軍醫正の盡力に負ふ所多し。今此緣故深き軍醫正を大邱
 慈惠醫院の長と仰ぐに至りしは、大邱在住者の齊しく満足する所たり
 慈惠醫院の目的は朝鮮人の救済にありと聞く、從來衛生の何物たるを知らず、傳染病者と室を同らし
 て、食を共にするが如き危險の朝鮮人なり。この朝鮮民衆をして衛生上吾人と同一の思想を持つに至

獨身自炊となり、土鍋生活にて二ヶ年餘を送り。病苦の床にあるも知る人なくして醫士の診察を受くる能はざりしこと數回。余も布川氏の病氣を發見して慰さめたることあり。布川氏また余の一人病床に呻吟せしを發見して、醫家に走り藥を運び食物まで送與せられたること二三回あり。斯る辛酸に堪へ得て漸く今日の基礎を造れり。現在の位地は舊官存の一建造物なりき。之を求めて敷地と爲したるは、全く布川氏の朝鮮官界に於ける信用深かりし結果なり。氏が青年宗教家として信用あり、且宗門の隆盛を見るに至りしは、實に布川氏千辛萬苦の功に因る。布川氏は常に監獄傳道の必要を主張しつゝありしに、今は大邱監獄教誨師を兼任するに至りぬ。

明治四十二年七月本堂並に附屬建物の造築に着手し、十二月に至りて其竣工を告ぐ。建築費總額金四千四百圓を要し、其内八百五十圓は本山の補助にして、殘額三千五百五十圓は大邱、釜山、慶山、倭館、金泉等の信徒並に有志の寄附金に依れり。

淨土宗 首藤靜也氏明治三十八年に來りて開教し、傍ら日語夜學校を起して朝鮮の子弟を教育す。首藤氏歸國するに及びて、佐藤玄性氏來り之を繼承す、昨年の春新たに本堂を建築したり。

眞言宗は明治四十一年より、日蓮宗は明治四十二年より、共に教會所を設けて布教に従事す。

○現在の製造業

酒造業 純粹日本酒醸業者四戸あり。其最も大なるものにして造石三百四五十石、小なるもの百七八十石位にして、合計千百石前後、外に四五十石の小造酒家を合計すれば、千五百石には至るべし。其重なる需用地は大邱市内にして、附近の小都會に送るもの三百石以上なり。

醬油醸造業 大なるもの五戸、其造石合計は五百石以上にして、其販路は市内八分、地方二分の割合なりと云ふ。

製粉業 資本十萬圓の合資會社にして、目下準備中。

日本瓦製造業 五箇所あり。何れも職工二十人以上を役使し、晝夜兼業するも供給間に合はず。三浪

津及び黃洞より供給を仰ぎつゝあり。前途ますます有望の事業。

煉瓦製造業 一ヶ所のみにして需用の十分一も供給する能はず。諸官衙の建築には、龍山其他より購入しつゝあり。

煙草製造業 耕作者の多きと共に、製造業者も六七戸あり。耕作反別五十町歩以上六十町以下ならん、是れみな大邱に於て製造し、京城仁川其他各地方に送出せらる。

韓國製造合資會社 本社は朝鮮唯一の新事業にして、他に類例なく、前途の隆盛期して埃つべし。當大邱古參の名士にして法學士小倉武之助氏は、朝鮮製(ワングル)進に深く趣味を有し、心秘かに將來

を期し、研究を重ねること約三年、試験の回数三十度に及び、終に會社組織の決心を爲して、東京横濱の同志に謀り、工場を建築して會社の標札を掲げ、新事業を開始したるは四十一年の十一月なりき。明治四十三年八月同社の趣旨として、告白したるものを左に轉載して讀者の參考に供せん。

朝鮮産業ノ幼稚ナル中ニ就テ工業ヲ特ニ然リトス是ヲ以テ財源涸渴シテ國力賸ナラズ世人ガ視テ等シク慨嘆スル所ナリ弊社創立ノ目的ハ之ヲ救済スルニ在リテ微力ヲ測ラズ奮テ殖産興業ノ策ヲ樹ツルモノハ遊手徒食ノ朝鮮人ニ授産ノ道ヲ講ゼンガ爲ナリ而シテ朝鮮物産中「ワングル」ハ朝鮮ノ特産ニシテ之ヲ利用シテ花薙及疊表ヲ製織スルニ其耐久力ハ他ノ製品ニ超絶シ彼ノ内地産ニシテ最モ強靱ナリト稱セラル、七島蘭即チ琉球疊表原料ニ比シテ優ニ數倍ノ力アルニ徴シテ之ヲ知ルベキナリ加之「ワングル」ハ天然ニ特種ノ光澤ヲ有スルガ故ニ毫モ人工ヲ加ヘズシテ其質燦然タルハ一見シテ人ノ知ル所ナリ更ニ之ニ染色ヲ施ストキハ一層高尚優美トナリ實用上裝飾上他ニ比類ナキ薙蓆ナリ弊社ハ開業以來専ラ朝鮮人徒弟ノ養成ニ努メシニ其成績弊社ノ豫期ニ差ハズ需用日ニ加ハリテ現今ハ原料ノ不足ヲ告グルニ至ルノ盛況ナリ昨年來前韓國農商工部ハ弊社創立ノ主旨ヲ賛シ特ニ補助金ヲ下附シテ擴張發展ヲ獎勵セラル又 前韓皇陛下南幸ノ際ハ弊社ノ事上聞ニ達シ特ニ恩賜金ノ光榮ヲ被レリ 會社前統監、大久保陸軍大將閣下ハ親シク弊社ノ工

場ニ臨マレ作業ノ實況ヲ見テ大ニ嘉賞セラレ厚ク獎勵ノ辭ヲ辱フセリ弊社ノ名譽斯ノ如シ是偏ニ弊社ノ目的ガ朝鮮産業振興ニ在リテ其製品ガ無比ノ良品ナルガ爲ニシテ弊社ガ實ニ感荷ニ勝ヘザル所ナリ斯ノ如ク名譽アル弊社ノ製品ハ前韓國度支部前韓國駐劄軍司令部前韓國鐵道管理局ヲ首メ其他官衙ノ命ヲ蒙ムルコト頻繁ニシテ遂ニ原料不足ノ盛況ヲ呈スルニ至リタリ弊社ハ又靜岡縣ニ開催セル東洋輸出品共進會及韓國中央農會慶北支部開催ノ品評會等ニ出品シ何レモ賞牌授與ノ譽ヲ荷ヘリ上述ノ如ク「ワングル」製織事業ハ朝鮮産業振興上有益ニシテ且前途無限ノ販路ヲ有スルモノナレバ弊社ハ努メテ原料ヲ産出セシムルノ方法ヲ講ズルト同時ニ弘ク海外需用ノ花薙ヲ製出シテ朝鮮ノ富源涵養ニ盡サント期セリ即チ弊社ハ純粹ナル營利會社ニ非ズシテ國家的事業ノ經營ヲ以テ自ラ當ラント誓フ所ナリ隨テ其製品ノ精良ナル事ハ切ニ大方ノ試用ヲ希フ所ナリ會社ノ告白ハ眞實にして誇大の言にあらず。今や寺内總督閣下より特別最上品として許多の注文あり。其品は總督閣下以上の所に使用せらるべく推測し、事務員職工みな齋戒沐浴して作業しつゝあり。其製出品たる實に是れ天下の一品と稱するも過賞にあらざるべし。薙草は蘭と異なりて三角形の水草なりと云ふ余は未だ未製の原草を知らず。一莖を五六條より十數條に長裂したるものと、其中心たりし日本在來の燈心に似て三四倍大の實物を知れるのみ。燈心に似

たる其中身が、種々の紐細に使用すべく、市場の商品たるに見るも、其外皮の堅韌なるを知るに足る。従来朝鮮人の製品は大形なるは巾曲尺四尺長さ五尺四五寸にして、價五十錢以上七十錢位、小形物は概ね品質上等にして絹絲を用ひ、七八十錢以上二圓まで位なりき。余會て田舎旅行の際製織しつゝあるを見て何日にして成功するかを問ひしに、原料裂干より織上まで一枚に付五日を要すと云へり。其製品六七十錢見當の物なり。余が初めに買求して敷用せしは三十六年の十月にして、破れて放棄したるは昨四十二年の十月なりき。然るに日本の琉球表を同一室に使用一年ならずして必ず破る以て其耐久力を比較すべし。製越會社の製品にして普通懸表は一枚一圓以上一圓二十錢位、最上品に至りては二圓以上。今回總督閣下の注文品は格外にして、原料十貫目中より五六百目を撰別し、上等絹絲を織絲に用ひ、横料製織通じて一枚に對し七人を要したりと云ふ。

大邸養蠶傳習所 本項並に次項は、別に一項を設くべきなれど、記事の都合上茲に併記す。

明治三十七年三月建築成り其年の春蠶より始む。創立者は李鐘國氏にして京城の人、長野及び群馬地方に斯業を研究すること四年、歸りて郷間に同志を得ず、大邸に來りて徐相敦其他の有志に謀りて建設したるもの即ち是なり。實に南韓に於ける養蠶傳習所の始祖たり。

明治三十八年度より長野縣人篠原今藏氏入りて李氏を助け、今尚ほ其事務員たり。四十一年四月より

京都講習所出身小賀野清藏氏入りて教師となる。所長李鐘國氏は郡守に拔擢せられて新寧に赴任しぬ。今日は小賀野、篠原の兩氏専心所務に當れり。本書第六章の養蠶日誌は本所の日誌より抜粹せり。前韓國政府は特に補助して年々金六百圓を下附す

實業傳習所 機械傳習所にして、前韓國政府は年額金六百圓宛を補助せり。創立者たる所長は古莊幹實氏にして、熊本政界知名の有志なり。明治三十九年の春大邸に來り、四十年來絹糸を求めて機械を試み、終に意を決して本所を起す。製品は斜子、縮緬、羽二重、太織等を主とす。

○日韓合併と大邸

韓國は朝鮮と改名して日本の領土となれり。韓國皇帝陛下は我が日本の一貴族として、日本皇族の待遇を受くべき一家と變りぬ。然れども大邸は依然として南韓の中心たり。朝鮮總督府の方針は中央の官吏を減じて、地方の官吏を増加すと云へり。合併の結果京城の政治機關は縮少せらるゝ共、地方政務は擴張するの方針たるや疑ひなし。自今國道の新設改修、産業の奨励、土地の調査みな地方の事業なり。道路を改修して殖産工業を奨励するは暴徒鎮壓の最上方法、義軍獨立などの美名は只山賊にも名義を飾る良心の存在を證明するの語たるのみ。彼等もし山賊たらざれば餓死するの外なからん、産業を興して無職の徒なからしめば、誰か好んで暴徒たるものあらん。殖産興業の第一歩は

道路より始めざるべからず。現に其證左としては、大邱慶州間の新道十七里二十八町、日々十數臺の馬車數十輛の牛車は往來しつゝあるも、未だ曾て暴徒の難に遭ひたることなく、其沿道には内地人多く入込みて、農商の業に従事し、官吏の醜聞多き地も、必ず交通不便の方面に多し。道路の善惡に對する民衆の損害を對照すれば、左の如くなる。

一人の馬車賃

大邱慶州間の新道一里に付き金十錢、慶州まで一圓六十錢。

一人の輿賃

慶州以外の舊道二里に付き金三十五錢乃至四十錢。

朝鮮馬賃

一里に付き二十五錢以上三十錢、人は一人、米豆は一石を乗せ積む。

朝鮮人夫一人

一里に付き十二錢、米なれば四斗大豆なれば五斗を負ふ。

大邱の北方安東では、大豆一石三圓以下にして大邱までの運賃四圓、米もまた一石に對し四圓以上の運賃を要す。之を慶州道路に比較する時は、殆んど三倍となる。大邱安東間の道路改修の曉は米豆共一石に對して二圓五十錢以上の運賃を減少すべし。距今二十三年前には日本本土にも此例不少。東京では三等米一斗が一圓三四錢なりしに、東北の陸中、西部の山口縣では上白一斗が五十錢内外なりしとあり。明治七八年の候陸中盛岡附近にては、上水田一段の賣買一圓以下なりしと云ふ。是余が盛岡の名士前貴族院議員佐藤清右衛門氏、嚴父徳清翁より親しく聴くところなり。現時の朝鮮

には交通不便の爲米作を作るも其價格餘りに低廉にして、税金をも納むる能はず。四六時中休息なく働きて、妻子を養ふ能はざるの窮民は、多く交通不便の地にあり。彼等窮民こそ祖先傳來の田畑を放棄して暴徒の仲間となるの恐なきを保せず。少く共道路改修成るの日は、不動産所有の窮民は救済せらるべし。不便の地方に人多くして、荒蕪地の廣さは之が爲めなり。朝鮮千五百萬の民衆を日本的に善化せしめんには、道路の改修より着手せざるべからず。寺内總督閣下は交通機關の速成を期せらるゝと云ふ。交通だに便利とならば、暴徒の鎮定と共に、國富は一時に増進すべし。農民の増收を多からしめなば、租税の増徴に誰か不平を唱ふるものあらん。

交通機關の完成に伴ふ利益は、單に田舎の民衆のみ受くるにあらず。其物資を集散するの都會は田舎以上の利益を享けん。慶尙の中心點たる我が大邱は、少く共南韓第一の大都市たる資格を有するが故に、新政に伴ふ利益を受くること最も多き地なり。

○新生の大邱

十月一日より總督府の新官制は實施せられたり。我が大邱の政治機關は左記の如く變改せらる。官衙の減少は決して縮小にはあらず、所謂個人の小店を合して合資會社となしたるに均し。政務は益々擴張せられて、事務官には減少なし。

●●●●●●●●●● 慶尙北道廳 觀察道の改名なり。財務監督局の事務は道廳の財務部に移さる。又大邱理事廳の行政事務も道廳に移されたり。道廳の職員は、(地方官々制第二條)

長官 勅任 參與官一人 勅任又は奏任

事務官二人 奏任 通譯官 奏任

技師 奏任 書記、技手、通譯生 判任

官制第十二條に、各道に長官、各房、内務部及財務部を置く。官房及各部の事務分掌は朝鮮總督之を定むとある。土地調査出張所、勸業模範場出張所、林業事務所、測候所等は韓國政府の配下たりしものが、總督府所屬となりしのみ。

●●●●●●●●●● 大邱府廳 大邱郡衙と民團の合したるもの。内地に於ける市役所の大なるものを見れば可ならん。管轄區域は大邱市内及四方五里に渉る大邱郡の全部にして、佛國人、米國人、清國人等諸外國人も管轄すること日本内地と變りたることなし。其長官は奏任にして府尹と云ひ、道長官の指揮監督を承けて、法令を執行す云々と規定しあり。我が大邱の首腦者左の如く任命せらる。

道長官 前平南觀察使 李 軫 喬

參與官 前忠南觀察使 崔 廷 德

大邱府尹

竹崎六三郎

我が大邱に功勞多き財務監督局長 川上氏、觀察使朴氏並に理事官能勢氏は左記の如く榮轉せられたり。吾人大邱人士は自己の居住地より、特に我々の親しく交りたる人々の内より三名の道長官を出したるを誇りとす。只恨らくは三氏の内一人を我が道長官に置かれざりし一事あるのみ

平安北道長官 前大邱財務監督局長 川 上 常 郎

忠清南道長官 前慶尙北道觀察使 朴 重 陽

全羅南道長官 前大邱理事廳理事官 能 勢 辰 五 郎

以上三氏は大邱の爲めに多大の功績あるのみならず。本書出版に對して特に助勢せられ、本書巻首の地圖二枚の如きは川上氏の寄贈なり、若し川上氏等の助勢なかりせば、本書發刊は中止せしなり。余は誠心誠意三氏の健康を祈ると共に、他日又吾人を指導するの地位を立たれんことを切望す。讀者諸氏の肥憶に便せんため、朝鮮總督府の主要官憲の名を列記し置かん。

附記川上常郎氏は出發に際し、小學校へ金壹百圓、商業會議所へ金壹百圓を寄附せらる。

朝鮮總督(兼任) 陸軍大臣陸軍大將子爵 寺 内 正 毅

總督府政務總監(親任) 山 縣 伊 三 郎

大 耶 一 班

總務部長官

有 吉 忠 一

內務部長官

宇 佐 美 勝 夫

度支部長官

荒 井 賢 太 郎

司法部長官

倉 富 勇 三 郎

農商工部長官

木 内 重 四 郎

土地調査局副總裁

一五六

俵 孫 一

鐵道局長官

大 屋 權 平

通信局長官

池 田 十 三 郎

取調局長官

石 塚 英 藏

中樞院副議長

金 允 植

土地調査局總裁並に中樞院議長は、政務總監を以て之に充つとは官制の規定なり、地方長官は内地人七名、鮮人六名にして、開港地及開市場ある地、及び外國に接觸せし地方の長官に、内地人配置せられ、外交に關係なき地方には鮮人を配置せられたり。

藥種
賣藥

化粧品
寫真材料

セ

朝鮮大邱府東城町

中出藥店

電話二一九番

中出清太郎氏は石川縣小松町の人にして、大邱に來りしは明治三十八年二月なりき。氏は曾て久しく大阪藥業界の泰斗として聲名高き清快丸の本舖谷回春堂にありて、藥業上の技術を修得し、大に主人谷氏の信任を得たり。氏の大邱に來りしは全く谷氏の勸誘と其援助に依る。

始め朝鮮觀察として來り各所を巡遊して大邱將來の發展を推測し土地を求めて家屋を新築し兼て修得の藥業を以て開店したり。氏が開店の時は東部に日本人の住する者甚だ少なく、顧客の多くは朝鮮人なりし。然れども氏の希望は現在にあらざして將來にあるが故に、林しき畑中に只一戸を構へて時の來るを待ちぬ。其地は現住所向側なりき。氏の先見は適中して今は繁榮第一と稱する地になりぬ。

中出氏は藥業家として其手腕捷なるのみならず、商界の多方面に精通したる人にして、其商取引も藥業以外に甚だ廣く、信用も亦各方面に涉りて深し。大邱唯一の商業機關たる大邱勸商場の如きは中出氏の首唱にして二十餘名の共同に依りて新築し、氏は其理事となりて成功せしめ今尚ほ其任にあり。氏は天性磊落にして陰險の質なく、友情濃やかにして百事世話好の人なり。サレバ各方面に交友多く其交情皆厚し。氏は常に平和を主張し力めて爭論を避くると雖も意思に反して多數に服従する人にあらず、止むなき時は意見を言明して其席を去る。

内科 外科

皮膚病 微毒科

宅診 午前

往診 午後

朝鮮大邱大和町

那 須 醫 院

院主 那 須 敏 男

電話 二四〇番

那須敏男氏は熊本縣の人にして先代準策翁の遺業を繼承し明治四十三年三月大邱大和町の自邸に開業せり。先代準策翁は明治三十七年六月渡航して現住所に開業、翁は古稀に近き人なるが故に人多くは漢法醫と誤りたり。然れども翁は長崎仕上げの蘭學醫にして、卓越の伎倆を有したりき。

曾て余に語りしことあり。六十八の老人が朝鮮三界まで稼ぎに来るは誠に面目ないけれど、他人の保證をして身代の全部を取れ先祖に對し又一人の倅に對して申譯がないから倅が醫學校を卒業するまで學費を送るため一番發したのですと。余は其一語を聴いて無上の尊敬を拂ふと共に意氣勝なる自心の清涼劑として今に此語を忘るゝ能はず。令息敏男氏は明治四十一年十一月熊本醫學專門學校を卒業して一年志願軍醫生となり。第十二師團に入營しぬ。準策翁は昨四十二年八月二十三日令息の開業を見る能はずして永き眠りに就きぬ。翁は死に至るまで自己の扱ひし患者の爲に養生法を語りつゝ逝けり。現代那須氏は四十二年十一月滿期後見習醫官として歩兵第十四聯隊に勤務し本年三月一日解除。氏の技術は新進の學理と熊本病院及び軍隊の實地應用とに練り加之先代準策翁の長き經驗は處方録として家寶たり。本年三月氏の開業と共に先代に關係ある患者はみな來りて其伎倆に感じて喜べり。開業御草患者の多きは先代の餘德與て力ありと雖も亦氏の卓越なる伎倆の然らしむるところ、氏は重患者あれば必ず先輩の立命を要求して狼りに即断せず、謙讓の心事敬すべきかな。



確實正札

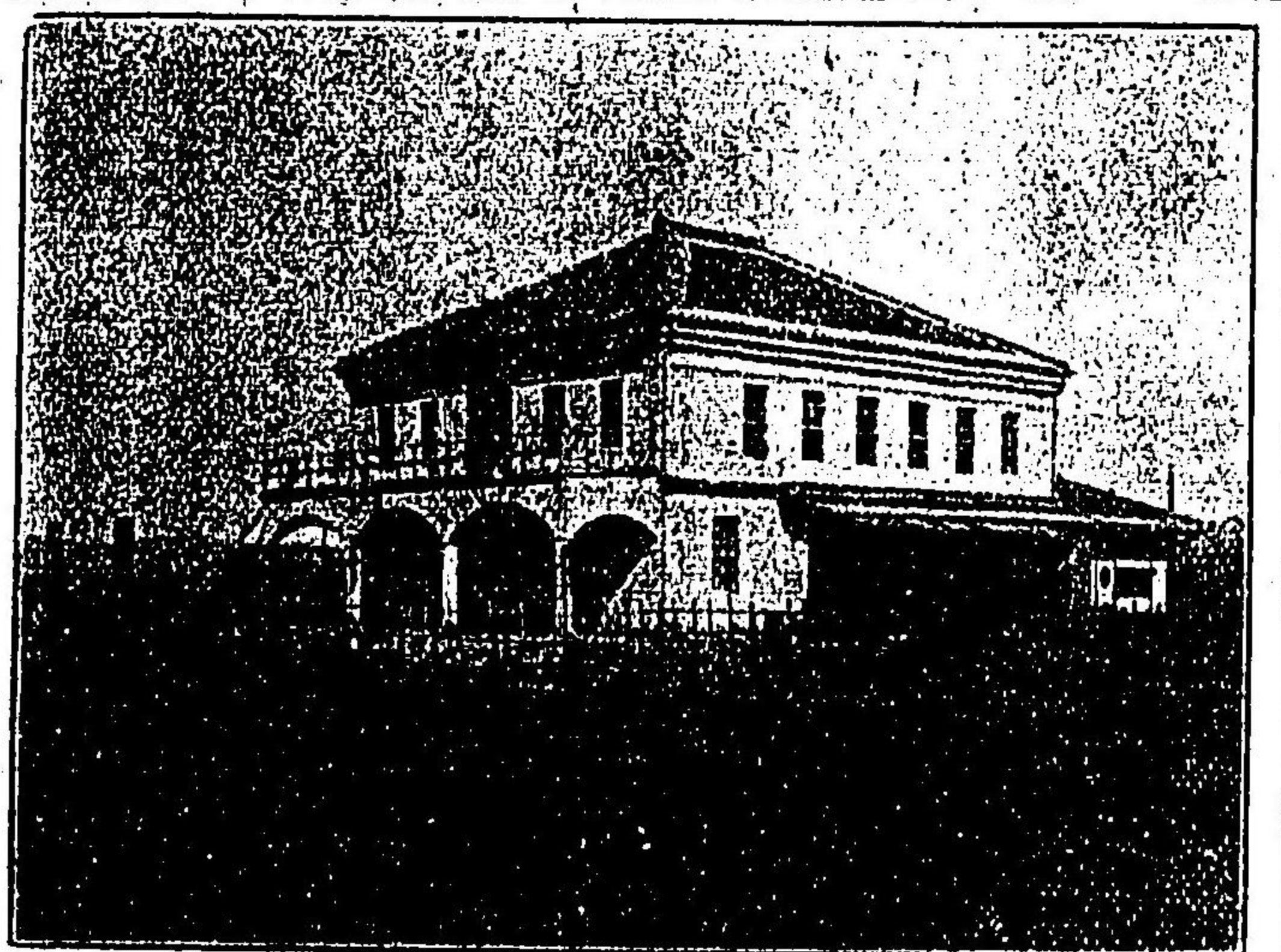
大邱元町

上田吳服店

電話一〇九番

上田呉服店主人上田謙助氏は山口縣熊毛郡麻里府の人、明治三十七年八月店員を派して支店を出し、日本向織物販賣を以て専業としたり。是我大郎に於る日本呉服店の嚆矢たり。其當時日本人未だ千五百に満たず、殊に工夫土方其大部分を占めたるが故に衣類などに留意する者なく、假令永住の決心あるも戦時の人情として時の寒暑さへ凌げば足るものと思ひ服装の如きは更に頓着なく羽織なく袴なくして、高貴の人々を送迎したるの時代なれば、呉服専業としては店員の生活費をも得る能はざりき。然れども上田氏の決心鞏固にして退却せず。自ら大郎に來りて顧客を求め、ヨシ一切の端切にても持參して不平の色なく、主人自ら雇員の如く働きて、今日の土盤を築きしなり。氏の勉強は唯大郎のみに止らず、鐵道の沿線は勿論遠く不便の安東尙州より慶州永川に迄廻り、目前の小利を貪らず、永久の信用を博する爲に努めたりし結果、今や其名は遠近に知られ、東は三浪津、密陽、慶山、慶州、永川より西は金泉、永同、大田其他安東尙州の各方面より、日々の郵便注文甚だ多しと云ふ。是れ上田氏が七年一日の如く苦心經營の功果なり。

上田氏は性質温厚にして柔和なり。顧客に對しては特に親切丁寧なるが故に、一般問胞に對して信用深く、四十二年三月商業會議所議員に擧げられて公共の機關に參與し、本願寺の世話係として亦能く勤む。佛間には常に香花の絶ゆるなく、祖先に對する禮甚だ厚し。以て其他を推測すべし。



壇花とまや

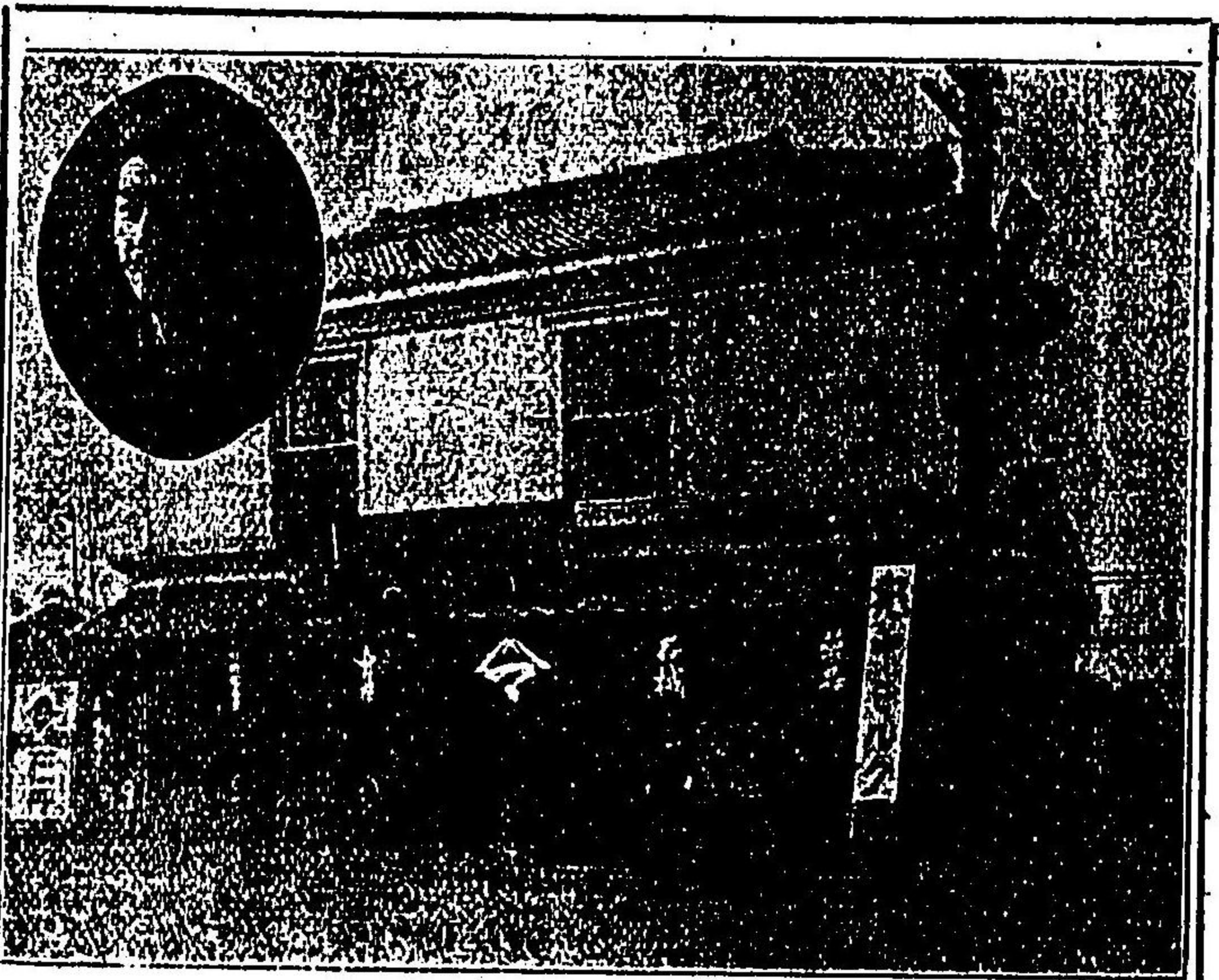
本店 やま と
 錦町二丁目
 電話三五番

西洋御料理
 會席御料理

支店 やま と花壇
 錦町五丁目
 電話二七番

やまと主人霜田吉氏は東京の生にして真正の江戸兒なり。始め第二銀行に入りて前橋支店に勤め、次に東京ビール會社に入る。其支配人北村氏大に信じて重任したり。然るに北村氏の退社するに及びて氏も亦去り、茲に給料取の趣味なき生活を悟り大阪に至りて西洋料理を始めたれ共、心中尙不足の去らざるものありて快々たりし時恰も滿洲の天地將に風雲起らんとする三十六年の十一月なり。遠征の志物々として禁ずるに由なく、氣候や寒暑を慮るの餘地なく朝鮮視察の途に就けり。恰もよし東京ビールに在りし北村氏は、釜山に在りて五八支店の支配人たり。北村氏の勸誘に依りて大邸に來りしは、三十七年一月一日雪風凜冽肌を裂くの時なりし。留ること三日再來を約して大阪に歸りぬ。三十七年四月大邸に再來して西部の市場に於て西洋料理店を開く。是大邸西洋料理の元祖たり。當時鐵道の工事中にして日本人みな西部に居住し、工事の進捗と共に北部畑中に一軒家を建築したり。是即ち現在の本店なり。明治四十二年の春花壇を新設して、洋式大宴會場を建築したり。明治三十七年以來同胞會の發起人となり、日本居留民會の議員となり、三十九年十二月には初期の民間議員となりて、公共の機關に參與し貢獻するところ少なしとせず。氏の天性は溫和なり。然れ共マケヌ氣の江戸兒性は確に存在す。堅忍よく百難を凌ぐの勇氣に富み、常人の爲し能はざる新事業を必ず成功せしむ。世人の偉として敬服する所たり。

介四二



營業種目

内外藥品	醫療機械
有名賢藥	滋養品、洋酒
理化學機械	器械油類
顏料香料	化粧品類
寫真材料	消火器類
繪具塗料	消毒材料
懐中電燈	電氣扇風器
呼鈴、室内電話	其他電氣諸器械

大邸元町一丁目

町田回春堂藥局

藥劑師 町田久吾

電話一三二番
振貯朝鮮三三六

介四三

町田久吾氏は新潟縣高田町の人にして、明治三十七年四月未だ汽車なき時代に於て大邸を視察し、直に意を決して其六月開業したり。氏は同業者の親和と其權利を保護するに努め、三十七年十一月三日天長節祝賀會の終りに、藥業會組織の必要を説く。同業者四名即座に同意し其日に發會式を市北景勝の山頂に舉行す。是大邸に於ける同業組合の嚆矢にして、今尙ほ氏は其幹事長たり。

天性剛直にして商家の常習たる巧言令色は氏の最も嫌ふところ、友に對して其情厚く、毎に其人の將來を慮り苦言以て忠告を怠らず。問々世人に誤解せらるることあるも更に意に介せず。公共の事業に對しては常に意を用ひて努力し、既に統監府より賞盃を受くる事二回以て其平生を知るに足る。明治三十九年四月日本居留民會議員七名の補欠選舉に際して、其候補者に推さる。氏注文して曰く自己一人出るも何等の效なし。自分の信ずる同志七名と共に候補たらんと正々堂々たる競争の結果、氏の指定せる同志七名の全勝に歸し、推されて副議長となり、自治機關のために大に手腕を振ひぬ。氏は民團議員の候補者に推さるゝと三回なれど固辭して受けず。常に同志を助けて奔走盡力し、其當選者に對しては後援者となり必ず之を助く。本年三月不意打を喰うて商業會議所議員に選舉せられ、其就任を拒むため四五日間委を隠したれども、多數の希望終に止むなく議席を充すとを諾しぬ。氏の年齢三十七、前途の發展疑ふの餘地なし。

介 四四

米國スタンダード製油特約店
馬票印白木綿發賣元

大邸市場北通

各種織物雜貨
輸入却商



前川商店

エビス印洗濯曹達特約店

永同木炭特約店

電話番
電略 (マ)

前川知三氏は横濱市の人其生國は近江なり。學業を卒へて大阪の近藤商店に商業見習生として入り居ると二三年にして、朝鮮大邱に近藤支店を出すに當り、特に撰抜して前川氏を其主任と爲す。時は明治三十七年の秋なり。近藤氏は前川氏に其全權を放任して何等の干渉を爲さず、自ら信ずる程に於て百事決行せしむ。三十九年十二月に至り近藤支店の業務一切を繼承して前川商店と改む。近藤氏の素志始めより茲にありしならん乎。余は未だ見ざる近藤主人の活眼と其處置に敬服す。前川氏は近藤支店の主任としての時代獨斷を以て小學校新築費並に太神宮遙拜所建設に多くの出金を爲し、百事身邊を節して公共の爲には大に盡したり。四十一年三月候補に立たずして商業會議所議員に推され、本年三月再選せられて今其常置委員たり。氏は成るべく公職を避るに努むれども知人之を許さずして止なく其任に就も一段承諾すれば其責任を全ふせざれば止まず。是信用の廣く且深き所以なり。氏は天性備はる商才あれども、自家一己の小利害に其天才を縛らず。大邱なる一團を以て活動せんこと氏の希望なり。サレバ常に社會の大勢に注目して、數字的に調査を怠らず。然かも其調査は何人にも公示して利益を分かちつゝあり。此一事に見るも其性格の高潔なるを知るべし。公共の事に熱誠なると共に友情にも厚く、其友の爲には一身の利害をも顧みざると聞々あり。亦自家の商業に對する注意勉勵到底人の及ばざるところ、年齢漸く二十七、前途の大成期して待つべし。

介四六

朝鮮總督府度量衡器委託販賣

測量器械製圖器類各種

質商 並 貯氷卸小賣業

大邱元町

青木商店

電話五六番

青木商店主青木重信氏は岡山縣上道郡の人なり。曾て中國實業界の泰斗たる岡山の杉山家嶺山部に勤務すること十年、大に斯業に關する經驗を積み、殊に測量の術に長ずと聞く。

明治三十八年四月大邸に來り地方の状況を視察して、永住的經營の目的を定めたり。氏の經營は百事秩序的にして、小より大に進むの方針を執れり。一例を挙げれば朝鮮に來るに先ち豫め書籍に依りて朝鮮の事情を調査し、其不審なるは岡山にありし朝鮮學生に就て尋ね、其朝鮮に來るや獨身生活して困苦を忍び確實なる基礎を定めて妻子を呼べり。氏の事業は始めに深き注意を拂ふが故に中途に挫折するが如ら憂ひなく、着々成功の域に進みつゝあり。

氏は百事ジミなりしたため一般同胞に知らるゝと遅く、四十年三月商業會議所議員たるを公職の始めとし、直ちに副會頭に推され、四十一年二月最高點を以て民間議員となり、其十二月再選せらる。氏は議員として學校増築委員たり、又會計検査委員たり。遠城公園期成會の幹事兼會計として大に盡せり。氏は家業に忠實なると共に公共の勤務は特に怠らず、會議の通知あれば準備せし旅行をも中止又は延期し、旅途に在りて通告に接すれば百事を放棄して歸る。其熱誠忠實他議員の及ぶ所にあらず。氏の性質は溫良にして平和を愛すれども、公共事業に關する意見は容易に譲らず。自信を放棄して他の多數に盲從するが如きは、氏の斷じて爲さる所なり。

第六章 將來の大邸

既に昔日の大邸を説き、亦現今の大邸を述べ。然れども是れ余が將來の大邸を紹介せんとする順序なり。余の本旨は實に將來の大邸に在るが故に、讀者の特に留意一讀せられんことを望む。余の淺學否寧ろ無學にして文盲なるは、前各章を讀みし諸君の推測せらるゝ所、敢て辯解の必要なからん。而して斯る一山百文の野人が、突然土堀りを中止し、伐木を休みて馴れぬ執筆に浮身を獲したるも、是れ何の爲めぞ、古來朝鮮半島の富源として知られたる嶺南の將來を、母國の同志に紹介せんとするの微意に外ならず。サレバ拙劣にして讀むに堪へざる文字も、馴れぬ筆をば執りて、人知れず苦心したる著者の心情を諒し、我慢して一讀再考の榮をたまへ。

○政治機關に伴ふ將來の發展

前章に於て紹介したる諸官衙は漸く出生して命名したるに過ぎず。未だ百日の宮参りも濟まず、况んや誕生の披露をやだ。人には天折の憂ひあるも、大邸の政治機關には其心配なく、只今後政治の變動上臺灣と同じく二審制ともならば、大邸控訴院のみは廢止の恐なきにあらずと雖も、大邸の繁榮に大なる關係あるものにあらず。例令二審制に改むるあるも訴訟事件は現在より減少すべき見込み

なく、若し訴訟事件減少して判官の必要なき時代來らば、吾人は國家のため人道の爲め、大盃を舉げて之を祝せんのみ。大邱繁榮の一部を殺がるゝが如き、敢て意に介するの必要なからん。天の時は變るあり、人の和は破るゝあり。然れども大邱の地の利は決して異動するの憂ひなし。若し日韓合邦ともなるあらば京城に於ける政治機關は縮少せらるべし、獨立の國家として必要な官衙のため、王室のために衣食したる商家は一大打撃を蒙り、京城の經濟界に多少の變動あらん、然れども我が大邱の諸官衙は觀察道と理事廳を合併するの外、一官衙たりとも減少すべきものなく、財務監督局も尙ほ擴張せざるべからず。將來兵營も新築せざるべからず。其他の官署亦皆擴張の一方にして縮少の餘地なし。將來政治機關の完成と共に、之に伴ふ大邱の發展は確實なり。

○道路改修と大邱の發展

道路は實に國家生存上一日も忽せにすべからざる血脈なり。道路の破壊は血管の破裂にして、國家の動脈は中止せらるべし。サレバ日本の如き國道あり縣道あり里道あり私道あり。國民が勝手に布設したる私道にすら租税は免除せらる。シカモ尙ほ不便として鐵道あり電氣鐵道あり。只に我が日本のみならず文明の邦國は軌を一にして積極的に道路を擴張しつゝあり。然るに朝鮮半島殆んど道なく、牛車馬車の通ぜざるはマダシモ、大なる馬さへ歩むに由なくして皆矮馬を用ふるに至れり。

明治四十三年九月暴徒討伐として來りし第十二旅團は、砲車を引き來れり。多くの騎兵と騎馬も來れり。然れども砲車の通ずべき道なく日本騎馬の飛ぶべき道なきため、砲と騎兵は其目的を達せずして歸還したり。軍隊の活動は國家の平和を維持すると共に、軍隊の進む能はざる僻地には、必ず山賊の横行するあり。是れ國家の秩序を維持する點より見るも、道路の改修は焦眉の急なり。又國家の富源を開發して、國士の富強を圖るも道路の改修より着手せざるべからず。余の極端論を主張すれば暴徒討伐に先ちて道路を改修すべし、道路の完全なる地方には暴徒容易に來らず、若し來らば山砲野砲を二頭馬で引行き、一二發にして暴徒は全滅すべし。試に見よ朝鮮暴徒の蜂起地は、必ず交通不便なる地方に限るにあらずや。國士の安寧より云ふも人智の開發より論ずるも殖産の増加を圖る點よりするも、道路の改修より着手せざるべからず。然れども道路改修は成不成の問題にはあらずして、時間の問題なり、近き將來に於て必ず遂行せらるべき問題なり。道路改修運動は只其前後遲速を争ふに過ぎず。

我が大邱は永久に南韓富源の首府たる地位にあり。晋州に至るの道路、全州に達するの道路、安東以北江原道の海岸に通ずるの道路は必ず改修して、少く其牛馬車の通行する道路たらしめざるべからず、既に本年度に於て着手したるもの玄風郡に至るの道は、一方馬山に貫き一方高靈を経て晋州

に達すべきもの。又安東道路の二十五里は安東大邱の利益に止まらず。軍威、義興、義城、青松、眞寶、英陽、禮安、奉化、榮川各地方の殖産を發達せしめ、其物貨を大邱に集注せしむべき道路なり。既に車馬の往復頻繁なる慶州大邱間十六里の新道が、如何に大邱のために利しつゝあるか、其沿道に住居せし日本人の如何に増加したるかを見れば、玄風及び安東の新道が如何に大邱を利すべきかを推測するに難からず、朝鮮永久に李朝の天下たると、合併して日本の領土となるとに論なく、道路は必ず改修せらるべし。必ず改修せらるべき道路は、大邱の發展に大なる關係を有する亦論なきなり。大邱は南韓各方面に通ずる道路の起點地にして繁昌すべき都合なり。

○農業の前途

國家農本主義は英國にこそ通ぜざれ、世界の八九分はみな農本主義なり。衣食足りて禮節を知るの語を陳腐とするも、木食上人を以て禮道の師範を仰ぐ國はあらざるべく、若しあるとするも印度、暹羅、西藏の外ならじ。朝鮮山來三南を以て國家の寶庫と稱し、殊に慶尙道其第一位にあるは今昔共に同じ、農業として重なるものは米と大豆のみなれども、從來幼稚なる朝鮮人の需用は、豆と米のみなるが故に、他の作物を爲さざるのみ。

政治機關の尙ほ改まらざりし時代には、飢饉てふ惡鬼も時々見舞ひたりき、不作一年にして餓死する

窮民も多かりき。然れども政治改善の結果は惰民化して勤勉の民となり。其日暮しも少しは貯蓄の念起り、人夫稼にして五日や十日の食糧を貯ふるものあるに至る。交通便利にして彼我相助け以て食糧の過不足を平均し、勤勉なる農民をして、稼ぐに追附貧乏なきの感を起さしむるに至れり。從來朝鮮農民の状態は田畑少なきためにあらずして、惡政の結果なり。土地廣くして荒蕪の地多きも是がためなり。我が大邱を中心として附近二十里内外の地は、最も日本人の移住に適す。氣候溫和にして日本群馬、埼玉に比すべく、冬期少しく寒きに過ぐるも、長野縣に比して遙かに暖かなり、故に現在移住者の多くは、中國九州四國の人最も多きを占むるを以て見るも、寒氣凌ぎ難きにあらざるを知るに足らん。作物は關東、東北、北海道より四國九州中國に至るまでの範圍に於て作れるものならば、何の作物にても相當の結果を收む。亦土地代の安さは前章に於て説きたるが如し。若し十里以上を距るの地ならば、上畑一反歩二十畝内外にて買收せらる。

余が故郷にては、他人の田畑を作りて生活する農家を水呑百姓と評し、五六反作りて漸く衣食するもの之を五反百姓と云ふ。朝鮮三界まで來て水呑百姓たることは、余の絶對に反對するところなれど、五反百姓は宜しく財産を賣却して、朝鮮に來るべきものと思ふ。日本に於て五六反を耕作するとも、衣食足りて子弟の教育を爲すべき餘裕はなかるべし、星を戴きて野に行き、月を踏んで家に

歸るも、尙ほ一錢の貯蓄なく、衣服破れて肌を露はし、病んで醫療の資なきが如き哀れなる百姓は五反の田畑賣飛して朝鮮に来るべし。少く共一町歩以上を買収して。一ヶ年の食料は残るならん。朝鮮に来て尙ほ五反百姓の氣で辛棒しなば、錦を故郷に飾らざるまでも、遙かに祖先の靈を祭りて妻子一團の安樂家庭は造らるべし、祖先墳墓の地を去つて、遠く朝鮮迄來るは爺さん婆さんの心には適はざるべしと雖も、祖先傳來の田畑を高利貸に取られるには優るならん。

吾人日本帝國の臣民は、最早生地に塾居を許さず。年々人口の増殖は天が吾人の前途を視する能なり。新殖民地を造れとの督促なり。我が日本帝國の皇祖大神は新世界を造らしむべく神孫を日向國に降らしめ、神武天皇は祖陵の地を去つて大和國に移り給ひしにあらすや。汽車あり汽船あり軍艦の保護迄ある今日、海外移住など朝飯前の一茶事のみ。日清日露の二大戦役も吾人の移住するにあらざれば、十萬の生命を失ふたる理山立たざるなり、空漠たる半島の地は、日本より勤勉實直なる新主人の來るを俟てり。

無資無産の人は朝鮮に來るべからず。朝鮮には金の成る木は一切なし。惡政五百年も永續したるが故に、一文錢一個も大道に落ちて居らず。勞役に服して身を立てんと思ふ人は宜しく布哇又は南米に渡航すべし。朝鮮には勞働者甚だ多く、賃錢低廉にして長き時間に休むなく、到底日本勞働者の及ぶ

ところにあらざるなり。勞働者となりて身を立てんとする者は、自國より上級の國に行かざるべからず。支那の如き朝鮮の如き何れも日本以下の國にして、殊に勞働者多し。彼等憎ければ鞭打つとも怒らず、未明より來りて夜に入るまで働く、シカモ賃錢は僅かに三十錢か三十五錢。一たび朝鮮人を使役したる者は、到底日本人を使役し能はざるなり。假令朝鮮人と同一の賃錢なりとするも其仕事は朝鮮勞働者に及ばず。是れ日本勞働者の需用なき所以なり。

書生上りの羽織ゴロツキ、是又朝鮮の禁物なり。無資無産にして日本で衣食に窮するほどの意氣地なき人々が、朝鮮に來りて何事も出來ざるは理の當然なり。中學の卒業位の人々が朝鮮に來りしとて何の役にも立たず。唯無給にて代書人の店番位が上の部なり。朝鮮には私立大學の卒業生などはイクラても來て居れど、夫れ以上正式の法學士や文學士が下宿拂が出來ずして、困難せるもの澤山ある。余の知人又は恩人より、正直にして勞働に堪へ、學力は中學三年とか四年とか云ふ紹介狀の持參者澤山ある。然れども如何に恩人の紹介又は依頼なればとて、自分の生活上に困難しつゝある身が、如何にして世話せらるべき。主人々がヨク云へり。自分は農事目的にて渡韓したれば、田なり畑なりを賃借して、農業に従事したしと。他人の土地を賃借して漸く生命を維持するが如き農事經營者は、來たとて誰も相手にする者なければ、本書の讀者は斯る人々に深き注意を與へられんことを望む。朝

鮮農事の經營者は、自分の土地を自ら作るか、多く求めて朝鮮人を使役するか、二者必ず其一なるを要す。他人の厄介にならねば飯を喰ふことさへ出来ぬ意氣地なしは、朝鮮に来るべからず。

○養蠶業

蠶業の有益なるは日本人として均しく之を認むれども、其困難なることも亦よく知れり、只單に作業の困難なるに止らず、人力を以て防ぐ能はざる災害あり。然るに國家として之を奨励し人民も亦其困難を豫期して、之に従事するは何の爲ぞ。是れ對外貿易品の主要なる地位、イナ其第一位を占め、其豊凶は國家の經濟に大關係あるが爲めなり。政府奨励是れ力め、國民亦ヨク勉む所以あるなり。人力の防ぐ能はざる災害とは何ぞ。曰く霜害是なり。余が斯業に従事せしは、僅かに十六年間なれど、大霜害に遭遇すると實に四回、其最も甚しかりしは明治二十六年にして、桑葉のみに止まらず、梢二尺位まで枯死したり。結霜の温度は華氏寒暖計四十度以下にあれば、明治二十六年五月六日は二十八度に降り、二十九年五月八日は三十度となれり。其後三十三年五月十四日、三十五年五月十六日、何れも氷點以下に降りて薄氷を結びたり。是余の群馬に於ける苦しさ経験なりき。防霜法として燻煙散霧の法あれど、三十五六度以下に降れば何等の效をも爲さず。群馬地方の蠶業家が年々困窮の状態に陥りつゝあるは、實に霜害の爲に蒙りたる損害の殘傷なり。一たび霜神に見舞はれば、其損傷は

豊作五六年繼續せざれば癒えず。是れ群馬の一縣に止らず、長野然り栃木然り福島山形皆然り。一時に全縣を襲ふが如きことはなきも、年々歳々一郡二郡又は三四郡に涉る霜害あるが故に、恰も三年目四年目に當番に當るの觀あり。關東東北の蠶業家が、年中神經を悩す決して無理ならず。

次に恐るべきは四眠前後より上簇期に至りて來る濕氣なり。濕氣の害は群馬長野栃木の地方には少なきも、關東にして千葉茨城神奈川の三縣、箱根以西より中國九州四國みなこの濕氣を恐る。濕氣甚しきときは、單に濕氣の害に止らず。少數の虫に潛伏したる病毒が、俄かに發生して全蠶に傳染し、其爲め意外の失敗を招くもの決して少なからず。霜害の如く廣き範圍の全滅には至らざれども、個人としての損害は寧ろ霜害に勝るものあり。故に群馬長野の養蠶家は、平素の話題にも霜害のことあり。關西地方に至れば必ず濕氣防禦の方法を問はる。濕氣は霜害の如く防禦出來ざるにあらざれども、未熟の人々としては到底之を防ぐの方法なく、悲惨の結果を見ること往々あり。

次には經濟問題なり。上作を以て目的とするにあらす。利益を以て目的とする蠶業なるに、近時諸物價の騰貴するに反し、生絲の相場は依然として十年の昔に異ならず。地租は増徴せられ、物價は高くなる。其生産物のみ安價にては到底永續すべきものにあらず。我が故郷の同志より一年一年に困窮の狀態を通知し來るもの多きを加ふ。實に同情の念に堪へず。サレバとて他の事業と異なり生きた虫を

養ふ業なれば、群馬地方に於ける従來の器械以上、特別の人手を省く發明品もなかるべく、余が十六年間の苦心と経験とに徴するも、日本蠶業の前途に對しては、寒心すべき問題多し。

然るに我が慶尙道の地は、朝鮮古來の養蠶地にして、今尙咸昌尙州開慶の地方を中心として、各戸みな飼育しつゝあり。既に政府は咸昌に養蠶傳習所を設置して、教師を派遣し居れるほどにて、人民亦新飼育法を眞似つゝありと云ふ。我が大邱には明治三十七年四月以來、京城の人にして李錫國と云ふ人を主任として傳習所を創立して年々上結果を得つゝあり。朝鮮國中他は未だ知らず、我が慶尙北道の地が將來の蠶業地として、有望なる點は左の三大要點にあり。

一 霜害の憂ひ絶對になきこと。

二 濕氣の害決してなきこと。

三 經費は日本に比して半額以下なること。

(1) 長野及群馬地方を始め、昔より霜害甚しき地にはあらず。山林濫伐の結果斯く頻々として結霜の害を受くるに至るとは古老一般の説なり。然らば朝鮮も今こそ霜害なきも、將來の皆無は保し難からんと思ふ人あらん。是實に遠方の想像に外ならず。一たび朝鮮に足を入れし人は皆知れり。南韓西韓到る所の山々は、暮のみ多くして樹木なく、禿山赤土は朝鮮の惡名物なり。此上の濫伐は、殘る僅

かの草の根あるのみ。尙ほ詳細は第七章氣候の部に就いて見られたし。

余の大邱に來りしは前各章に頻記する如く、明治三十六年九月なり。日本に於ける十六年間苦痛の餘波として霜害に對する感念一時も去らず。爾來霜に對する調査は決して怠らず。然るに四月中旬以降に於て結霜を見たることなし。氣候の項と重複に涉れども、大邱測候所に於ける最近三年間の晩霜期日を左に示す。測候所の見たる晩霜の如きは、肉眼には觸れざるほどの少霜なり。

明治四十年四月結霜三回あり。其最終日は四月七日。

同 四十一年四月結霜一回あり。即ち四月十四日。

同 四十二年四月結霜二回。其最終日は四月十六日。

然り而して桑葉の發芽は、四月二十日以後なるが故に、桑と霜との關係は絶對になく、今や朝鮮政府も統監府も植林を奨励しつゝあれば、禿山赤土も追々は青山に白雲の掛る時こそ來れ。決して濫伐のために霜害起るの憂ひあることなし。

(2) 是又第七章に詳説しあり。長野縣諏訪は名高き乾燥地にして、生繭一升の量六十匁迄にしてあらば、籠に入れて棚に乗せたるまゝに貯藏し、順次製糸するが故に、糸量多くして光澤佳良、百里以上の地より買入れて多額の費用を投じ、鐵道未だ通ぜざる時代は、美代田驛又は小諸驛より十數里を荷

馬車で送り、殊に稚氷峠あり和田峠あり。シカモ斯る費用を投じて群馬の製糸家より収益多きの點は、實に生繭を長く貯蔵し得ると製造費の節約にあるのみ。空氣乾燥の地は單に養蠶のみならず。生糸に成るまで大なる關係あること斯くの如くなりき。

養蠶中 最も手数を要するは稚蠶飼育にあり。收蠶の翌日より日々の手入は、面積の擴張と除沙なり。脱毛後初眠まで、少く共三回除沙せざれば、蠶座に微を生じて病蠶の原因となる。一日八回以上給與する軟桑は、桑自體の濕氣と火力の溫度とに依て微を生ずるが故に、給桑と共に濕氣の驅除に注意せざるべからず。濕氣の驅除には火力最も効あれども、火力すぎて桑に不足あらば、蠶に大害あるが故に、濕氣驅除のために火力を増すべからず。茲に於ては除沙の回数を増すの必要起る。初眠前後の少而積別に大なる手数なきに似て、其實非常の手数と技術を要す。若し空氣乾燥して除沙の回数を減じ、火力少なくて微菌の生ずる恐れなくば、全蠶期を通じて人手は半減するを得べし。濕氣の害は只に四齡五齡の期間に拘らず、全蠶期を通じての害物なり。然るに我が慶尚道は朝鮮國中特に乾燥せる地方にして、余の如き無性者は朝鮮に來て以來、衣類の土用干など爲したることなく、素より持たぬ衣類の干すべきものなきは當然なれど、朝鮮人てさへ夏冬の衣服二枚宛位はなくては濟まぬ。余が日本に居る間は、東京に居ても仙臺に居ても、群馬及長野に居ても、静岡でも愛知でも、必ず編絆

の襟には青黄色の微を生じて、洗はねば着用は出来ざりき。サレド大邱に居ること滿七年、未だ曾て襟の微を見たとなし。又大邱養蠶傳習所事務員たる篠原今藏氏は、長野縣北佐久の人なり。氏に就て養蠶期中の氣候談を聞くも、濕氣の憂ひは全然なく、二日三日除沙せぬとて微など生ずることなく、到底我が長野などの及ぶ所にあらずと云へり。

群馬及長野地方の雨期に入るは、六月十日前後なり。故に雨期に至らざる前に、上簇せしむる爲に火力を用ひて上簇期を早む。長野縣南北佐久及び諏訪筑摩の方面に至つては、桑葉の發芽遅くして、六月上旬に上簇せしむる方法なきため、雨期終りて發生する夏蠶と、秋蠶に全力を注げり。群馬埼玉は春繭高くして、夏蠶の繭は殆んど半値なるに反し、長野は春繭安くして夏繭は群馬の春繭より高價なるを例とす。是れ春に重きを置かずして、夏蠶に全力を注ぐため、桑園の仕立方全然夏蠶専用と爲したるもの多きがためなり。濕氣の蠶業に大害ある推して知るべきなり。大邱地方には其憂なし。濕氣は必ず降雨と伴ふ。サレバ養蠶期中降雨少なき年は多少桑不足の失敗者はあれど、一般を通じて必ず上作なるは、讀者の了知せらるゝところならん。左に大邱養蠶傳習所の日志より、既往三年間に於ける養蠶期中の高低溫度、並に降雨日数を摘記せん。

治明四十二年	治明四十年					降雨全日	降雨半日以下
	最高温度	最低温度	最高温度	最低温度	最高温度		
最高温度	七十一度	六十度	八十三度	四十二度	七十三度	七十二度	七十七度
最低温度	五十五度	五十五度	五十二度	五十二度	六十五度	六十四度	六十度
最高温度	八十三度	八十二度	八十六度	八十八度	八十八度	八十八度	八十八度
最低温度	四十二度	五十度	五十二度	五十七度	六十度	六十度	六十度
最高温度	七十五度	七十八度	八十度	八十八度	八十九度	六十度	六十度
最低温度	五十五度	四十三度	四十五度	五十二度	六十度	六十度	六十度
降雨全日	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
降雨半日以下	十回	十回	十回	十回	十回	十回	十回

温度は華氏寒暖計にして室外屋根なき所に掛けありしもの。降雨は雨量の多少に拘らず、霧雨にても桑葉の摘取に妨害ありしものを度とし、一時間以上を記入したり。夜中寝に就きたる後の雨は一切記入しあらず。是れ直接作業に關係あることのみ止めたる結果なり。

第七章の測候所に於ける調査は、〇、一耗以上は晝夜の別なく、且正式の調査にして、温度も傳習所の如く北に向くと南に向くとに依て、異同あるが如きものと異なるが故に、本表と多少の相違ある點は、特に讀者の諒察を乞ふ。本職と素人の調査にして決して誤謬にはあらず。蠶期は明治四十年度、五月二日の收蠶にして、六月九日上簇。四十一年度、五月八日の收蠶にして、六月十四日上簇。四十二年度、五月二日收蠶にして、六月八日上簇したり。

明治四十二年度に於ける慶尙北道の朝鮮人養蠶の数は、安東郡の千五百三十三戸を筆頭に、合計一萬三千五百八十七戸、製絲は尙州郡の千四百四十戸を首位に六千三百六十二戸あり。朝鮮人の飼育法は柵など構へるにあらず。稚蠶の間は紙の上に置き、成長して庭に移し、終には室一面に擴げるのである。残桑に糞は堆積して止むなく、之を捨つるのみ、特に除沙などを爲さず。多量に飼育したとて室一杯八尺四方のランドロ一室、二斗か三斗が關の山と見て可ならん。然れども蠶兒に對する感念は、昔の日本と同じく神虫として尊び、不淨の人には決して見せずと云ふ。殊に女子の作業なるが故に、外來の人には容易に參觀を許さず。茲に吾人の最も注意すべきは、朝鮮の在來種はみな三度蠶なり。日本に於て二度蠶又は三度蠶は、早り年に變化物として結繭すれども、三度蠶なる原種なし。余或年三度蠶の多かりし時に、種を取りしとあるも、翌年は普通の四眠蠶に復歸したり。然るに朝鮮には三度蠶のみを飼育す、奇と云はざるべからず。日本に在りても三度蠶は年々必ず發生するものにあらずして、乾燥年の變化物たるより想像すれば、朝鮮の三度蠶は氣候の關係より來る變化物にして、朝鮮の豐饒地たるを證明するものにはあらざる乎、斯業界先輩の一考すべき問題なり。氣候既に養蠶に適すると共に、桑の生育も甚だ佳良なり。殊に洛東江沿岸數十里に至るの地は從來麥一作のみにして、殆んど半荒蕪地としてありき。一年又は二年毎に大水溢れて地上三尺乃至五尺に及

ぶことあり。其浸水たる出水毎に泥土を殘すが故に、地味良好にして殆んど肥料を要せず。然れども七月下旬より八月下旬の候に於て出水の恐れあるが故に、夏作に危険あり。群馬地方にある所謂寄洲にして、桑畑には最適の地。現に四五年來桑を植附けて、少量の養蠶を試みつゝある日本人あり。群馬長野に於ては確かに一反歩三百圓、群馬縣島村の地に大差なきの土壤なるに、朝鮮に於ては仕方なき地として放棄せらる。今や政府も統監府も養蠶の奨励を爲す方針なれば、近き將來に於て、洛東江及其他大河の沿岸は朝鮮の大富源地たるに至らん。

(3) 空氣乾燥して除沙の回数減少するを得なば、蠶期通じて人手三割を減ずべし。假令炭火を用ふるなきも、何等の異状なきは知人数名の家に就て實驗する所。若し完全を望むとするも、就眠に際し五六時間火力を用ひなば十分、現に大邱養蠶傳習所は、毎朝少量の炭火を用ふるに過ぎず。火力なくして四十日以内に上簇するは、日本に於て殆ど見ざるの例なり、桑は安價の土地に栽培し而かも肥料少なくして收葉多く、現在のことは永久の例にならざれども、十年二十年の後を豫想するも、地租其他諸税合して一反歩五圓と見なば十分ならん。殊に魯桑の高木仕立としなば、一反歩より三枚の飼量即ち一千八十貫は得らるべし。人夫を節し炭を節し、安き桑を用ひるを得なば、其收益や必ず大ならん。其成品たる製絲に就ては、特に讀者諸君の熟考を望む。

日本の生糸が伊佛の生糸に劣り、其價格に甚だしき懸隔あるは、吾人の常に遺憾とせし所なり。只に伊佛に劣るのみならず、支那生糸にすら及ばずして、世界生糸の最下位に置かるゝに至ては斯業に對する奮發心も自ら消沈せざるを得ず。日本の生糸は何故に劣等なるか。光澤彼に及ばざる乎。否然らず。強伸力彼れに及ばざる乎。否不然。日本生糸の伊佛支那に劣るの點は類節多きの一點にあり。類節多きが故に縦糸たる能はずして、横糸に使用せらるゝのみ。換言せば日本の生糸は上等織物の原料たる價値なけれども、伊佛の生糸を縦糸として用ふれば、其横糸に使用するには差支ないと云ふの位地に過ぎず。伊佛の生糸は縦にもなれば横にもなるが故に、他國の糸がなくとも何の差支なけれども、日本の生糸は伊佛の御伴にあらざれば、上等織物の原料たる能はず。是れ價格の到底彼れに及ばざる點なり。類節にも二種あり。一を線節と云ひ一を質類又は輪節と云ふ。線節は女工熟練すれば皆無となるべけれども、質類は如何なる熟練の女工も之を除く能はず。其原因は繭其物にあるが故に質類とは云ふなり。質類の原因に就ては種々の説あり。余も亦意見あれども茲に説くの要なし。余は五十年前より朝鮮人の手布として所持する紬の五尺位の織物より、男女の衣類に至るまで、朝鮮地織の絹布には特に注意を拂ひ、其粗未なる生糸にも研究は怠らざりき。然るに未だ質類と認むべきものなく、昨四十二年十一月慶尙北道の農産物品評會あるに際し、其出品中繭と生品には特

別に注目したれ共、日本にては質類なき生糸を見る能はざる正反對に、精粗の別こそあれ、質類ある生糸は二品たりとも見るに由なく、其出品中二捻を買取りて、余が恩師にして横濱生糸界の泰斗たる書上順四郎氏に送りたり。其反書に曰く、

朝鮮人の出品中賞與を得る能はざる部類として、生糸二品御贈り被下拜見候處

質類皆無強力無比、若し繰糸法を改良せば、縦糸に供し得べくと存候云々。

余は恩師書上氏の撰抜にて、朝鮮政府の蠶業教師として雇はれし以來、書上氏の命に依りて各地の製糸場に厄介となれり。サレバ師弟の關係上、自分の全力を注ぎし生糸は、必ず氏に送りて評を求めたりき。サレド未だ曾て質類僅少の語さへなく、况んや縦糸云々に至りてをやだ、然るに朝鮮の粗製品を贈りて前示の返信を受く、實に意外なりき。何故に質類なきか、結局は空氣乾燥して飼育に容易なると、火力を用ひざるが故に、虫の結繭に苦しみなきがために外ならず。

又製糸業上の難事たる繭の解舒に至つては、實に佳良にして、初めに緒を得れば裸蛹になるまで切断することなく、屑糸の如きは實に少量にして、繭肉の割合より糸量甚だ多し。再繰亦小枠に傷なき限り切断するまで、只少しくネバの足らざる感あれども、是れ水の改良と女工の熟練に依て改善するの道あり。將來南韓が一大蠶業地となるの日は、朝鮮生糸を縦とし、日本在來の地方糸を横として、日本

特得の織物を以て、米佛の碧眼を驚かすに至らん。南韓蠶業の前途誠に多望なるかな。

○果樹栽培業

苹果は果物の王として、歐米人士の嗜好するのみにあらず、近時我が日本人も梨又は蜜柑以上に賞用するに至れども、秋田青森岩手の三縣及び北海道の外には多く適せず。従て其價高く、九尺二間の裏住までに普及する能はず。苹果が洋の東西を問はず均しく賞用せらるゝ理由は、果肉が身體の營養に補益あるが爲なり。果して身體に補益するあらば、上王公貴人より下士百姓の我々までも、日用の必要品たるにあらずや。其日用品を自分に食ふ能はざるは、敢て意に介せざれども、愛兒がネダルのをば制止するほどツラキことなし。余が明治二十四年始めて朝鮮に來た時、仁川に於て苹果の樹を見し以來、朝鮮には苹果が出來るとの感念は消滅するなく、大邱に來て猪額大の土地を求むるや、直ちに苹果五株を植ゑたり。余と同年又は其次年より苹果を植うる日本人増加し、今や大邱の一大産物たらん形勢とはなりぬ。大邱にて苹果栽培の元祖は、米國宣教師アダムス氏にして、最早十年に近かるべく、其結實は一株數百の多きに達し、秋期アダムス教師の庭園を視觀しなば實に羨望に堪へざる美觀を呈せり。朝鮮中苹果の適地としては、我が大邱を中心として東は三浪津より西は京城に至るまで、殆んど結實せざる所なし。大邱に於ける實驗家としては中原房一氏あり。影山秀樹氏あり。三輪彌

吉氏あり、神谷豊功氏あり。其他余輩と同じく五株十株の栽培は枚擧する暇なし。何れも大邱が苹果の最適地たるの證人なり。苹果は青森秋田の産を以て最上とし、北海道の産は之に次ぐと聞く。余昨年春山口縣に於て、北海道旭川の大農家と一日を共に送りたり。其時談話苹果に移り北海道の果實青森に及ばざるを云うて、其原因那邊にあるかと判断を求めらる。素養のなき余の判断出來得る道理なく、御茶も濁さずして別れたれど、爾來余が研究の材料となり、人に就き書に探り、又自ら北海道に居りし時の氣候に考へ、終に自己發明の斷案は成れり。斷案とは何ぞ北海道苹果の良好ならざるは温度の不足即是なり、北海道の門港たる函館に、桃や櫻の花咲くは、五月下旬か六月の始めにして、小樽札幌旭川はみな函館よりも遅し。苹果亦桃花と同時ならん。而して余の居りし明治十六年は十月十二日に初雪降り、十四日より日々年末まで降り續きたるを記憶す。サレバ現今と雖も九月末には苹果や梨實を採收せざるべからず。六月初めに開花して九月下旬に成熟するとすれば、其間僅かに四ヶ月のみ。右手秋田青森は函館に比して十五日早く、また初雪の降るも十五日遅し。北海道より苹果の樹梢に在ること一ヶ月長く、光線を受くる度大に異なれり。實例を擧ぐれば北海道の大根茄子木瓜の類みな太くして其肉緻密ならず。蒔の如き名高き秋田の三四倍あれども、肉締らずして味なし。苹果の肉緻密ならずして、青森産に劣るの原因、亦同一にはあらざる乎。

大邱地方の桃や櫻の花は、四月中旬より二十日までに咲き、東京より遅さと約二週間なり。苹果も亦同時に開花す。苹果の成熟は、早生は七月十日前後に始まり、晩生の國光及柳玉は十月中旬に成熟するが故に開花より成熟に至るまで六ヶ月間、積算して温熱の高きのみならず、東北々海に比して温熱平均して高きは第七章に表示するが如し。東北々海は寒くして濕氣多く、大邱地方は暖かくして乾燥せり。余は如何なる點が果樹に適するかを明言するの智識を有せずと雖も、短期間に成育する果物及び穀物に善良なるものは稀れなり。果穀の別なく雨量多き年の品は、出來の善惡に依らず其實質必ず早り年の品に劣る。此事實より見るも温熱に觸ること長くして、乾燥せる地方の品が善良なるべしとの推測は出來る。朝鮮各地の苹果を全集するも、在韓日本人が十日間の需用にも足らずして、需用の九分九厘まで、日本及支那よりの供給を受くる今日、大阪市場に送りて北海道との對照を求め、又は貯藏して耐久力を比較するの餘地なしと雖も、東北々海の産額は名古屋を境界線として東北に供給すべく、朝鮮の産額は名古屋以西京大阪中國四國九州に送るとせば、其産額如何に多くとも決して販路に困ることなきは明かなり。現在に於ては産額少なきため價格高く、一顆五十匁位にして小賣五錢、春になれば七錢乃至八錢恰も藥物の感あり。是れ今日需用の少なき所以にはあらざるか。吾人は日用必要の果物として、裏店住ひの小兒までが其恩典に浴せんことを望む。

苹果の早生は四年目に一株二三十順、を六年目に至れば百五十乃至二百順。結實す是までは余の
 實驗、アダムス教師の庭園に就て見るに、十年位にして五六百順は確かに結實す。晩生種は早生種よ
 り二年遅れと見て可ならん。彼の東京地方より贈れる苗木屋の營業案内に書立たる如き利益あると
 思ふは誤り、若し苗木屋の主張の如くならば、苹果百株あれば優に一家の生活出来るべし。余の成案
 にては、一反歩に對して五十株即ち六坪一本の割に植ゑ、二十年平均して一株二百順重、量約十貫、
 此卸賣代金二四とすれば一反歩より百圓を得らる、肥料手入一切の費用一株二圓あらば可なり。差
 引益金五十圓となる。豈莫大の利益ならずや。

余は群馬縣の一平民なれど、生れ故郷は山口縣の萩の隣村なり。彼の有名なる夏蜜柑の發見は明治五
 六年にして、余が其味を知りたるは明治十一二年のころと思ふ。明治十二三年には一順十五錢乃至二
 十錢にして、余の如き土百姓の口に入るべき品にあらず。萩町の從兄の家で一片か二片を食したるに
 過ぎざりき。明治十五年に東京に出て、十九年に歸りし時は一順七錢か八錢、尙ほ未だ萩の名産たる
 價値なかりき。明治二十四年に歸りし時は一順四錢乃至五錢、其時白米の小賣が一升六錢、余が生家
 て玄米四斗入一俵一圓七十錢に賣れたると云ひしを記憶す。玄米一升と蜜柑一順の價同格、然れど
 も尙ほ養蠶以下の收入にして、甚だ盛んなりとは云ふべからず。然るに昨四十二年久しぶりにて歸省

したり然るに驚くべきは蜜柑の發展、三十六萬石の領主毛利家の御城下として、六十余州に名を賣り
 たる長州萩の城下は全く夏蜜柑に占領せられたり。只に萩町のみならず、萩を中心として東西五六里
 は蜜柑軍に包圍せられ、北面の海には日々下關より蜜柑専用の汽船が往復し、其應援として和船あり
 西洋形帆船あり。近郷近在の竹藪はみな斬り出されて蜜柑籠に作らる。古屋は片端から打破されて
 蜜柑の陣地とせられ、只に民家のみならず神社の神聖こそ穢され、御寺の境内まで黄色に變じたり
 き。夏蜜柑一個の小賣一錢より一錢五厘、卸賣が七厘乃至飛上一錢、個人に就て收穫を問へば一反歩
 上作二百圓中作百五十圓と云ふ。余は之に信を置く能はずして夏蜜柑輸出組合事務所に就て問ふ
 に昨四十一年度の成績一反歩百五十圓以上の平均なりと答へり。萩は古來神社佛閣の名産地なり。其
 多くの神社は何れも基本財産を積立て基礎を鞏固にし、余が近親の菩提寺五六院に墓參せしに、何れ
 も三十年以前の如くにして更に廢頽の模様なく、何れの墓も清掃して枯花の捧げたるものなし。領
 主毛利氏は山口に引移り亞て長州征伐の苦境に陥り、兄弟喧嘩で焼打せられ廢藩となり、明治九年の
 内亂となり、アラユル苦境に遭遇せし萩が、今日の命脈を維持し、多くの神社佛閣をして舊觀を保た
 しむるもの、全く爺さん婆さんの信仰心にあらずして蜜柑の効力なることを確信す。一順五錢十錢で
 は買人がないから多く作らず。一錢以下とならば澤山の買手があるから澤山に作る。所謂多く作り

て數てコナスにあらざれば物産とはならず。物産とならざれば收益多からず。價格高き時は其土地のみの需用にして所謂同志喰なり、安くなれば遠地に送るが故に、他より金が入るため其土地を益す。余は小供心にも夏蜜柑の發見時代より、今日までの大略を知り、而して其發達の状態は、吾人が將來の經營に大なる教訓を與へしものと信ずるが故に、特に紹介して參考に供す。

● 葡萄 葡萄の栽培は日本に於ては最も難事の業とせられ、昔から名高き甲州は別として、現代では越後の川上善兵衛氏あり。群馬に小澤善兵衛氏あり。其他各地に大栽培者起りしも、如何なる事情なるか未だ其高名を聞くまでに至らず。然れども日本に於て葡萄栽培の容易ならざること、實驗ある人の證言なり。反之朝鮮の地、特に大邱地方の葡萄栽培に容易なるは、殆んど意想外なり。植ゑて肥料さへ施せば何種類でも必ず結實す。桃の葉にはアブラ蟲つら梨の葉はコガネ蟲が喰ふ。苹果の若芽にも多少のアブラ蟲あり。然れども葡萄のみは何等の蟲害なく、只ジンファンデル種のみ成熟に至りて袋の必要あらんかと思はる。ジンファンデル種は大穂五六百匁に及び、多肉にして皮薄きため蜂の附く恐れあり。同種は栽培困難との説あれども、蜂の來る外他に何等の困難を見ず。蜂の來るは成熟の甘味を探る爲なれば、二週間前後の短期間に過ぎず。青き時より注意するの必要を認めず。シカモ是れ庭内の空氣流通不良なる所に栽培したる葡萄の結果なり。畑また山に果樹園としてある所には

梨の葉をコガネ蟲が喰ふの外、桃も苹果も何等の害物を認めず。葡萄に蟲害さへなくば、其他は枝の切込みと、蜜着せし粒数を摘取るのみ。大邱の東一里二十町にして東村と云ふ地あり。明治四十年の春葡萄百株ほど植ゑし日本人あり。然るに昨年八月葡萄成熟の時に、大水溢れて濁水に浸さるゝこと殆んど一晝夜。余は葡萄の被害を視察するにあらずして、苹果の水害程度視察に行きぬ。苹果も桃も更に被害を認めず、葡萄のみ泥土に汚されて見る影もなき有様なりき。其後園主は泥土附の儘大邱に持出して販賣せしに、一貫匁八十錢他の一貫より二割安にて皆賣れり。余は其品名を知らざれども越後の川上氏より苗を取りたりと云ふのみ。泥水に沈むこと一晝夜にして更に腐敗せず、東村葡萄の名却て大邱に知らる。葡萄は水に浸りて甚なきものか、氣候が適し居る爲果實硬壁にして浸水にマケざるか、余は未だ其理由を知らず。只葡萄栽培の安全なるを確信せしのみ。大邱より北方四里にして八公山なる長嶺あり。其背脈に一面葡萄のみ繁茂せし地ありと云ふ。大邱林業事務所技手伊藤熊三郎氏の發見談なり。又西北三十里にして開慶郡に烏嶺山なる高嶺あり。野生の葡萄甚だ多く人夫の持來るもの一負五十錢位と云ふ。斯く到處に野生種あるは、葡萄に適應するの實證ならずや。朝鮮野生葡萄の一房は五六十匁に達し、果粒又サルタナ種の上にある。大邱市場に朝鮮人の販賣しつゝある白葡萄は即ち八公山の野生種なり。

南韓の地皆葡萄に適するとして、斯く多くの栽培を爲すに至らば、如何にして之が販路を求むるかとは多くの人の心配なり。然れども是れ杞憂のみ。遠き昔はイザ知らず、余が東京に居る時代にして、甲州甲府へ三十八里、其間管子小佛の難所もあれば、人車に乗りて三日を要し、駄馬にて四日掛る。然るに甲州葡萄唯一の販路は東京なり。汽車なき時に四十里の東京に送りて、何等の損傷なかりき。自今朝鮮の葡萄は九州中國四國の各都會に販路を求むるを得べく、東は大坂西は京城、原價さへ安ければ何百里の輸送にも差支なかるべし。特に葡萄としての用途は、乾燥葡萄として價高く、葡萄酒として其需用は殆んど無限と謂て可なり。現在葡萄酒及び三鞭酒其他乾葡萄等の外國より日本に輸入し來るもの莫大の額なり。若し朝鮮に於ける吾人日本人が、到る處に之を栽培するに至らば、統監府は必ず葡萄酒の醸造を計畫して斯業の發達を助くべし。是吾人の空望にあらずして、京城園藝模範所は其準備として葡萄栽培に重きを置きしにあらずや。葡萄も亦苹果と同じく多く作るほど販路は廣くなりて産物たるの基礎鞏固となるに至らん。

葡萄栽培法は棚作と垣作の二法あれど、何れが利か未だ年淺くして斷案は下し難く、余の大穂のジンファンデル種、又はバレンスタイン種の如きは棚作り可なるべく、短穂の種類は便利上垣作りが可なりと思ふ。葡萄の適地たることは實驗上の紹介なれど、作業は實際の駈出し説たるところで他人の請賣り、自説を吐くは十年後のことならん。乎サレド讀者の參考として、自己の胸算即ち自ら着手して居る空算に基きて少しく述べん。違算あるも御咎めは御免を蒙むる。

余は一坪一本六尺四方の間隔にて植ゑたり。一年二年は無收穫の積り、三年目の收穫が一株一貫一反歩三百貫四年、目より五百貫乃至六百貫の胸算なり。賣上は生食醸造兩用平均して一貫十五錢一反歩より七十五圓乃至九十圓を得る考へ、肥料と手入平均一株十五錢と見なば十分、一反歩四十五圓。苹果より利益少なければ共、苹果は五年目に始めて少量の收穫あるに反し、葡萄は三年目より收穫あり、若又一貫三十錢にも賣れば、收益増して倍額となる。是れは豫算にあらずと雖も、昨年が一貫二圓なりしより考ふれば、三年後の三十錢無望のことにもあらざるべし。兎に角一反歩三十圓以上の純益あらば、双肌ぬぎて掛るべき有望事業と斷案を下して可ならん。

桃 桃は古來大邱地方に多く産する品にて、是又何種にても出来る。桃栗三年の名に背かず葡萄と同じく三年目には必ず結實す。現今日本人の桃園五六ヶ所あり。早きは七月初旬より、晩生は九月中旬まで順次市場に賣出されつゝあり。吾人の考ふべきは、遠距離の運搬に堪へざると貯藏の出来ざるの點にあり、桃は採取して二日以上を経過すれば、殆んど食するに堪へず。日本より來る品が全然賣品たる價値なく、朝鮮人が日本の桃はマズくて食はれぬと云ふは事實なり。

然れ共桃の鑑詰は、又美味にして貯蔵久しきに耐ゆるが故に、將來鑑詰事業を起すに至らば、必ず有利の果物たらん。長野縣北佐久郡の小室町、及び三岡村は桃の産地として名を出し、三岡には桃養合資會社ありて、盛んに製造しつゝあり、明治四十二年の桃鑑詰は三岡村のみにて十五萬鑑以上なりと云ふ。小室及び三岡に洋桃を輸入したるは、基督教の牧師にして故田口卯吉氏の令兄たる木村熊二氏なり。木村先生の小室に塾を開きしは、明治三十年の春と記憶す。其塾生に小室町の豪商小山久右衛門氏あり。三岡村の素封家鹽川孝吾氏あり。木村先生は米國にある十三年、果物は嗜好の首位にあるが故に、小山鹽川兩氏に桃の栽培を勧め、洋種の最良なるものを取寄せて、兩氏に分配す。是れ即ち小室、三岡が桃の名産を出したる原因なり、大邱にして若し小室、三岡、の例に則らば、桃も亦有望の産物たるに至らん。

梨も亦よく成熟す。朝鮮由來梨多しと雖も、小形にして水分少なし。然れども間々大なる種類の上等品あり。苹果と同じく決して土地に適せざるにはあらず。倭館の如き三浪津の如き見るべき良品四十一年来賣出し居れり。只梨には一の大敵あり七。月上旬毎夜コガネ虫又は夜盗虫と呼ぶもの飛び來りて其葉を喰ひ盡す。其時間は毎夕點燈の頃に來り、翌朝未明には何れにか姿を隠す。夜盗の名真に當れり。期間は十日乃至十五日位にして止む。此一專最も困難なり。果樹栽培上特に注意すべし。

きは苗木の購入なり。余は一昨四十一年に東京内藤新宿の日本種苗株式會社に注文して、大々の損害を蒙り、加之偽物を送られて甚しく迷惑して居る。本年は京城の大韓勸農株式會社に注文して又々欺かれた。果樹は他の種子と異なり、二年三年の後に至りて、其欺かれしを知ること多きが故に、暇令少數の苗木たり共、苗木屋の本性を細密に探究した上にて注文せざれば、余の如き失敗を招くに至る。前車の覆るは後車の戒めとか、余は種苗會社及勸農會社に欺かれた恥を自白して、讀者諸君の注意を促し置く。

○商業の前途

相手が未開の朝鮮人として粗製の商品を送り、一時の少利に重きを置き、永久の損失を顧みざるは日本商業家の慣用手段なり。朝鮮は如何に日本の保護國なればとて、粗製品を買はねばならぬ義務はなかるべし、朝鮮人みな粗悪なる物品の異名をワエームルと云へり。即ち倭物にして日本物を指す。只に朝鮮人のみならず、日本人も亦和製と稱して、日本品は舶來品に劣るを自認する程なれば、朝鮮人をして日本商品に信頼せしむることは一大難事ならん。然れども確實なる物品は、漸次に信用を博するが故に、母國商業家の革新を希望せざるを得ず。

朝鮮人は百事無器用なれども、日用の器具は最も堅牢なる物を撰めり。一見再見熟見しても、朝鮮人

は平均して貧乏なり。其貧乏人、而かも日雇ひ稼ぎの下等人までも、金の碗にて飯を喰へり。金の匙にて飯を掬へり。金の箸にて副食物を取れり。足に穿つ草靴は、泥土に浸して破損の恐れなく、藁製の草靴も日本草鞋の三四足分に耐ゆ、飯糰釜の如きも、安くて四五圓上等十四位まである。鉢や皿も多くは眞鍮製にして落して破れる如き軟弱の品に非ず。器具は何れも簡略なれど、堅牢の點に至つては恐らく世界第一ならん、百事堅牢の品を欲する朝鮮人に對して粗造軟弱の品を賣附けんとする日本人の考案は、全然失敗に歸せざるを得ず。余は日本の商業家がモ一少し朝鮮人の心事を研究せんことを望まざるを得ず。

今や教育の端緒は開かれ、朝鮮青年は喜んで學ばんとせり。貧乏しても學問せんことを望むは由來孔孟の教の布かれし結果なりとす。新教育を受けたる朝鮮青年は、足の靴から頭の帽まで改造せんことを望むに至れり。青年風俗の變遷は、即ち朝鮮風俗の改良となる。將來此方面に向つて細密に調査し、且機先を制するの必要あらん。朝鮮人は貧乏なり。故に高價なる物品は買はざるべしとの斷定は全然誤れり。朝鮮人は貧乏であるから、成るべく丈夫で長持のする物品を好みりと斷ずのが正當なり。富者は年々同じ衣服は用ひぬから、軟弱でも外形の美を注意するの必要あらん。反之貧者は一枚の衣服を五年も七年も使用せねばならぬから、外形美ならずとも實質が堅牢でなくては困る。是れ當然の

要求にあらずや。支那商人の賣品は何等新奇の物なく、品數亦少しと雖も、朝鮮人の信用は日本商人の上にある。侮るべからざる潛勢力は支那商人にあり。朝鮮永久に獨立國たると、又日本の領土となるとに論なく、商戰界の行動は別なり。日本人は日本に居てすら、舶來品を賞用するにあらずや、商品は其需用者の希望を探りて、人氣に投ぜざるべからず。朝鮮の飯碗は上等壹個一圓三十錢より二圓、下等品にして六七十錢、汁碗が上等一圓四五十錢下等五六十錢、飯匙一本二十錢より三十錢、箸一組が十四五錢より三十錢、合計最下等にして一圓五十錢、二人分三圓。是れ唯喫飯専用の一具のみ。朝鮮人夫が一日三十錢、十日分を投じて夫婦の飯碗を買ふに過ぎず。中流以上は冬は鍮碗なれども夏は陶器を用ゆ。是れ夏期は銷臭の多きに依るものならん。サレド中以下は四季通じてカナワンのみ。其日稼の夫が陶器を避けて、高價なる眞鍮碗を求むるは決して贅澤にはあらずして、所謂積極的節約主義なり。却て上流の人々が安價なる陶器を用ひるは、是贅澤の遺方なり。所謂安物を買つて鼻を落すとは、日本人が云うて朝鮮人が警戒して居る。下等社會には五人の家族あるも三人分しか飯器のないのが多い。兩親のは必ず別々に騰立すれども、夫婦は合併即ち一碗で食ふ者が少くない。此邊の消息を承知して朝鮮人の心事を探り、以て人氣に投ずるのが、商家の機略とも稱すべきものには非ざるか。如何に社會が進歩發達するにもせよ。堅牢なる品を嫌惡して粗惡の品を喜ぶ時は來らざるべ

し。朝鮮人が文明の恩澤を受くると共に、益々日本品の粗悪を排斥するに至らん。粗悪品に對するの
 ボイコット起るも、保護國又は主權國の勢力を以て、抑壓することは斷じて出來ず。
 我が慶尙北道は朝鮮國中に於ける寶庫と稱したる地方にして、論より證據納稅額に於て其第一位に
 あり、納稅の首位にあると共に、貴族即ち兩班の多きこと京畿道の次にあり。京畿道は京城あるが爲
 に第一位を占むるに過ぎず。然り而して慶尙北道の兩班と京畿道の兩班は、其多數の實質より論じて
 大に其趣きを異にす。即ち京畿道の兩班は政治的兩班にして、官吏となりて良民の膏血を吸ひ取るの
 が先祖代々の本業である。政治の變革より生活の道なく、京城に在りて地方の良民を煽動し、出て暴
 徒の領袖たるもの、是れ京畿道の兩班なり。兩班救済云々の問題は、京城兩班を云ふなり。慶尙北道の
 兩班は全然其本源を異にせり。第二章に於て説明したるが如く、惡官吏の誅求を免れんには彼れに對
 抗すべき官位なかるべからず。金にて官位の買はれるは朝鮮の特有筆法なり。事餘談に涉るの恐れ
 あれど、思ひ出したから一寸書いて置く、明治三十七年の一月日本人某が任官の辭令書を二十枚ほど
 持參して余の寓所に來り、余の通辯柳某と種々談話せしも素より朝鮮通の日本人、余は其談話は更に
 解せず。余が日本語にて聽きしは、其任官辭令書なるものは、京城で買つて來るのである。内部か宮内
 か確に記憶せざれども、立派な大判が捺してある。其官名は主事と參奉にてありき。其價格は主事が

二十五貫文、參奉が十五貫文と云へり。當時の相場で一貫文一圓五十四五錢の割なりき。日本人某は
 余の通辯に、賣却の周旋を頼みに來りしなり。余の通辯も五六枚は周旋した様に思ふ。京城政府は財
 政困難の結果か又は上官其人が私腹を肥すためかは知るに由なきも、任官辭令の御買りは確實で
 ある。參奉が最下級にして其上が主事である。京城で直々受けた辭令も、居ながら買収した辭令も、普
 通人民に對して威張るには區別なけれども、仲間同士には多少の差がある。所謂直買と又買の區別は
 直買はどうしても威勢がよい。朝鮮は日本と異なり地方長官たる觀察使に依らずして、直々の官吏
 とされる。結局參奉と主事は官位か官吏か其人すら説明が出來ない。
 斯る始末なるが故に、財産家が京城に登りて高位高官を買得するは當然にして、上下共一人として怪
 ひものなく、讀者試に大邱市内始め朝鮮家の上等と見るべき所の門票を見よ。十中の八九は正三品
 又は正二品の肩書がある。是れみな買得官位である。兩班中には貧乏人もあれど、大邱附近の兩班に
 は貧乏人は殆んどなく、唯に貧乏人なきのみならず、慶尙道では兩班とは富者の異名となり居れり。
 サレバ京城兩班は大邱附近の兩班を侮蔑して、彼等は眞の兩班に非ず。商人上り又は百姓上りが官位
 を買つたに過ぎぬと冷評して居る。朝鮮に於ける眞正の兩班は先祖代々官吏となりて、良民を苦し
 め、民衆の生血を吸ふた種族でなくてはならぬ。幸にして我が慶尙北道には眞正の兩班なくして富

者兩班のみあり。將來の商業に對して特に注意せざるべからず。慶尙北道は日本に於ける新潟縣の如く大地主甚だ多く、大邱近在に徐相龍と云ふ所謂富者兩班あり。慶尙南道の金海郡方面より梁山郡、及び晋州方面に多くの水田あり。昨年余の知人山井某を頼んで測量に着手し、三ヶ月にして未だ半分済まずと云へり。大邱の徐相龍氏の如き、仁同の張氏、慶州の崔氏みな徐相龍氏の上にある。崔、張の二氏最も富めり。慶尙北道の富豪は、慶南、全北、忠北に涉りて多くの土地を所有するが故に。他道より吸收する財力少しとせず。是等は日本商業家の最も注意すべき要點にはあらざるか。先年仁同の張氏が觀察使たりし時に、余に語りて云ふ。一昨年の牛疫流行の爲に、牛を千二百頭ほど殺され、今では二千五六百頭しかありません。朝鮮の富豪はみな小作人に牛一頭二頭づゝ與へて置くから、牛の頭數で財産の大略が知れる、三百や五百の牛を所有する富豪は決して少なくはない、其牛はみな田畑の所在地たる慶尙南道にあり、全羅道にあり、忠清道にあり。江原道にあり、反之他道の富豪は慶尙北道に土地を所有し居るものなし。以て古來より富の中心は、大邱にありしを知るに難からず。山形縣酒田港の長者たる本間家が、佐竹領に土地あり鶴岡領に土地あり村上領に土地あり。然り而して酒田港其地に利益多かりしが如く、慶北の富豪が他道に多大の財産を有するは、確かに慶北の利益にして、慶北の首府たる大邱の利益たるや論なきなり。

金礦の探見者は草鞋を穿ちて嶮山に登り幽谷に入り、ピカピカ光らない石を取りて金の有無を探る。ピカ附石に金質はない。日本の實業家や政治家が朝鮮視察に來ても。未だ慶尙北道より二千頭以上の牛で耕す土地の所有主と會見して居らぬ。此大地主は京城の役所では知れぬ。大邱の役所でも詳細には知れぬ。朝鮮の風習として小作の名にて納税し居るが故に、官署の臺帳には地主が記名してない。近き將來に於て、土地整理と共に大地主が現はれる。大邱の藁小屋を見て慶北相手にならずと素通りする視察議員の報告位では、慶北の真相が判明する理由がない。萬一日韓合併、十三道が十一月三日を以て大祭日とするの時來らば、京城の國家的組織は大々的縮小せらるべし、然れ共大邱は何等の影響なきのみならず、五百年來の潜伏長者は財産保護の安全なるを得て東方を遙拜すべし。國家の基礎未だ定まらず、暴徒は蜂起して富豪を苦しめつゝあり。彼等富豪が未だ日本の實力を知らざるは當然なり。彼等富豪は祖先傳來の活動的手腕あり。彼等致富の原因は京城兩班の評冷する如く商と農とに依れり。日本商品の粗製は中以下の人のみ嫌ふにあらずして、彼等富者兩班の最も嫌惡する所なるが故に、朝鮮向商品の改善を要する、實に焦眉の急なり。道路の改修は軍事上より見るも國家經濟の上より見るも、一日も忽諾に附すべからざる問題なり。道路改修の曉は、慶尙、全羅、忠清、江原の中心大市場は、大邱以外にはあらざるべし。

○將來の宗教

米佛宣教師が排日思想の鼓吹者なりとは、日本人一般の輿論にして、余輩基督教を奉信する者と雖も全然之を非認するを得ざる事實あり。然れども吾人も亦基督教の教理に照して論ずる時は、非難を受くべき弱點あるを認む。基督教は其本領として、世の罪惡と戦はざるべからず、ソレバ救主耶穌は、我は平和を出さんが爲めに來らず。刃を出さんが爲めに來れりと宣言し給へり。惡魔が退陣して罪惡の種がなくなるまでは、靈的戰爭を繼續するのが基督教の主義である。故に偉人ブリス先生は自ら大將と稱して救世軍を組織し、軍律を以て全世界の信徒即ち兵士を統一せり。ブリス先生が宗教家としての偉勳は、古往今來其類例なし。先生の偉大なる人物と火よりも熱したる信仰に基くと雖も亦其組織が軍隊的にして、救主耶穌の聖旨を其儘一點の飾りなく戰爭的に實行したること、實に先生の偉功を却したる所以なり。基督教は佛教の如く賣淫婦も破倫の徒も、共に信徒として同一に待遇するを許さず。基督教は全然死人に對して引導せず。生命ある内に改悔を迫るのである。斯る宗教の宣教師が朝鮮に在る日本人の行爲を非難するは當然の職務なり。然れども其職務を悪用することありとすれば、寛假すべからざる問題のみならず、實に基督の聖名を濫稱して社會を欺く惡魔なりとして排斥せざるべからず。唯吾人は慎重に宣教師の心事を探究するの要あり。新殖民地の風俗壞亂は日本民族

の專習にはあらず、英國民は印度に於て品行方正なりしか、香港及シンガポールの英國民は品行方正なるか、明治の初年横濱に於ける外人の品行如何、横濱、神戸に外國婦人が賣淫業を爲したることなきか、鎌倉地方及び相州各地に於ける新平民の娘が横濱に出てラシヤメンと云ふ名になる。この新平民即ち昔の穢多の娘と一時或は永久的に夫婦暮しをするのは外國人にはあらざるか。支那人を滅亡に誘ひし亞片の賣込み商人を保護するために、清國と戦ひしは何れの國ぞ。西班牙國と戦うて玖馬島とフィリッピンを取りしは米國にはあらざるか。何等の失策なき妙齡の女王を追放して布哇を横領したるは米國にはあらざるか。トランスバルとラレンジの二小國を亡して、南阿の寶藏を奪ひし國は何れぞ。諸文明國の罪惡が表面の問題とならず、國民の品行が世界に知られざるは統治者と宗教家との關係にあり、印度の傳道は英國人の手にあり。布哇の宣教師は米國人なり。政府と政府には秘密の交換あり。國民と國民には情義の關係あり。故に露國の政治家でも朝鮮及支那に居る日本人の惡口は云はぬ。日本政府も米國政府の横領主義に横槍は入れぬ。米國宣教師が如何なる報告を爲すとも決して何等の問題とはならざれども、宣教師が朝鮮人に對して日本人を罵詈するのが大なる妨害となる。日本人の罪惡を遂ぐべき妨害となるならば、宗教上の立場として寧ろ稱賛すべき事なれども、朝鮮人をして日本國を排斥せしむるに至るが故に、信徒にして暴徒に投ずる輩が出

る。宣教師の言論中若し排目的の事あらば、良民をして暴徒たらしめ、日本軍隊に依りて之を討伐せしむるに至る。其結果より論ずれば宣教師は日本軍隊を利用して、朝鮮人民を殺戮せしむる大悪魔なりと攻撃せざるべからず。之を宣教師の心事に探りなば、百事みな反對の結果を來したるならん。(以上六月 上旬脱稿にして以下九月十日修稿したり)

日本新領土たる朝鮮の宗教は朝鮮兵眼者の一問題となり、政府亦之を度外に措かざるが如き觀あり。佛教は李朝五百年間の迫害に其根底を失へり。近時日本の佛教家が朝鮮の佛寺を配下として、佛教復興の希企を爲しつゝありと聞く。朝鮮寺院の財産横領主義ならばイザ知らず、現在の僧尼を利用しての希企ならば全然不可。現在各寺院に集閉せる圓頂の徒は、決して僧侶と稱すべからず。高麗、新羅、百濟の時代寺院には多くの領地を附しあり。李朝佛教を排斥したるも寺院を破壊せず、寺領を奪はざりしが故に今尚ほ多くの財産あり。サレバ蟻の甘きに集るが如く、衣食に窮する輩が剃髮して寺院に集り、運動的に經文を誦讀して衣食するのみ。其内より氣力あるもの出て農商に歸る。自他共に之を出世と云ふ。朝野目して最下級の種族とし、又自身も斯く認め居れり。自他共に最下級と認むる種族を利用して、佛教復興の企圖を爲すは、木に縁て魚を求むるより尙難し。然らば朝鮮將來の宗教として、何れの宗教が是乎。

余が一己の信念よりすれば、日本人を以て基督教を宣布すべしと云ふにあり。然れども國家又は社會觀より見る時は、一宗教に局限するを許さず。朝鮮の民心と其社會の狀態に鑑みざるべからず。朝鮮全土に三四十萬の耶穌教信徒ありと雖も、誠心誠意其教理を信するもの果して幾何かある。之に反して侍天教及天道教の信徒六七十萬人は確かの信徒なり。彼等が國難に處して、一時教旗を卷きて一進會の政旗を翻し、朝鮮は日本に合併するの外國是なしとは、始終一貫せる政綱なりき。堅實に親日主義を執て活動すると八ヶ年、其間妻子は敵に應殺せられ、家財は賊火に燒燼するあるも斷じて思想を變せず、暴徒四方に蜂起して一進會の危険其極度に達したるの時に於て、日韓合併の意見書をば、遺漏なく全朝鮮に配布したり。彼等は明治三十七八年に於て全部斷髮し、郷間の謗言も社會の攻撃も馬耳東風に附して活動したり。今や一進會の政綱全部遂行せられて、千五百萬の民衆は日本の治下に合し、永久に且つ確實に生命財産の保護を受けることになりぬ。一進會は功成り名遂げて其身退くの聖訓に遵ひ、近々解散して侍天天道の教域に引揚ぐると云ふ。八十萬の信徒を提げて民衆救済の爲めに、八ヶ年間政界に活動して一糸を亂さざる侍天天道の教派は、確に具眼者研究の價値あるべし。將來の宗教界に活動せんとする者は、先づ侍天天道の教義を探り、此教徒と提携して活動するの必要あり。侍天天道の兩派は絶對的の親日派にして、日韓合併の首唱者たることを忘るべからず。

從來日本の佛敎家は一、死屍に對して讀經引導すること(二)、死者の名刺たる位牌に向ひて念珠をツマグルこと(三)、爺さん婆さん相手に死後の淨土を説明するにあり。日本は一千五百年來の佛敎國として習慣性となり、死人に向ひて讀經引導の奇風も敢て怪しむ者なく、木牌に供物禮拜するも何とも思はざれども、眞面目に考ふる時は生者すら解する能はざる經文と引導の文句が、魂魄去りし死屍に了解の出来る等なく、極樂淨土に往生すべき人の靈魂が、位牌に留りて禮拜供養を受くる理由をも認むる能はず。教義に四大原素の空なるを説き、六道輪回の因果を教ふるに、全然反對の行動なり、吾人の信仰は現世にあり。現世に於て上天の聖旨に遵ふが故に死後も必ず救はるべしと信するにあり。現世に於て上天に逆らひ、未來のみ救はるべき理由は吾人の認むる能はざる所にして、耶穌敎の重きを現世に置くは即ち是れなり。日本佛者の如く信徒中に、病者あるも敢て意に介せず、夫婦喧嘩あるも更に取合はず。一家に破倫の罪惡が行はるゝとも、法律上の犯罪者が出るとも、良人の不品行に妻の泣き悲しむあるも、離縁沙汰を耳にするあるも、日本の佛徒は決して關係せざるなり。斯る無情冷酷の宗教家が朝鮮の新領土に布敎せんとするは、絶対に不可能と謂て可なり。吾人は佛敎と云はず神道と云はず將た基督敎と云はず、言行一致以て諸外國宣敎師に優る博愛主義と献身の信仰心とあるにあらざれば、朝鮮傳道者たるの資格なきを斷言す。

新領土朝鮮は日本宗敎家の試煉地なり。朝鮮半島狹しと雖も約一萬三千七百八十里にして、日本本土に比して較小なるのみと云ふ。人口少なしと雖も精査せば一千五百萬を下らず。半島宗敎界に於ける勝者は、日本本土將來の宗敎界に勢力を占むるや疑ひなし。總督府は宗敎家に對して特に保護を興へ、内外宗敎家の新國民開發に努力せんことを望むと聞きぬ。苟くも日本帝國の宗敎家たるもの身命を賂して、新領土の開發に貢獻なくして可ならんや。資本なきを云爲するは無信を隠蔽するの口實のみ。侍天敎の人々は妻子みな殺され、家産一切焼燼されたる者少なからずと雖も、毅然として一進會の政旗を卷かず。朝鮮八十萬の侍天敎徒にすら此決心あり。東洋第一の強國民を以て自認する日本帝國の宗敎が、侍天敎徒に劣るが如きことあるべからず。奮起せよ日本帝國の宗敎家、憎眠より覺めよ、佛敎各宗十萬の僧徒。

四十一年度

備考表

統監府調査

教派	宣敎師	信徒	教會	學校	教派	宣敎師	信徒	教會	學校
米國長老教會	101	14,660	1,031	1,122	天主教會	2	6,220	1	7
米國監督教會	76	16,077	33	4	澳洲長老派	1	7,931	1	8
英國宗古教會	3	4,447	4	2	英國聖公會	3	未詳	1	1
加奈陀長老教會	14	3,800	4	2	正教會	4	未詳	1	1
救世軍	6	3,000	5	1	其他	2	未詳	1	1

生皮、生牛、海草、藥草、食鹽

販賣問屋

絶白ラブリー浮石鹼

○印洗濯石鹼

◇印洗濯石鹼

右各種製造販賣

朝鮮大邱府西市場

會社資 三九商會

業務擔當社員

内田六郎


電話三二番

慈善病院
諸官衛

御用 純良牛乳 搾取販賣

三九商會は内田六郎氏の經營するところ、内田氏は武州本庄町の人、夙に遠征の志ありて殆んど郷に
 あらず。常に東京、大阪、神戸に在つて商業に従事し、明治三十五六年は上海其他南清の内地を漫遊し
 て大に得る所あり。三十七年日露の平和破るゝと共に朝鮮視察の途に就き釜山京城仁川を廻りて大
 邱に來りしは其四月なり。氏は地勢上より大邱の將來に望を懷き、終に意を決して其九月牛皮の買
 入を試み、其結果として生牛を買收し次て牛乳の搾取を始めた。實に大邱に於ける牛乳搾取業の嚆
 矢たり。氏が牛乳の搾取は素より營利的にあらざりて試檢的なりき。故に損失を覺悟の事業なれば規
 模は大ならざりしも、乳質善良なりし爲需用甚だ多く、遂に和洋數種の乳牛を買收して一事業となす
 に至りぬ。内田氏は會て日本居留民會の議員たり。又公園期成會の幹事として公共の事業に盡瘁し、
 明治四十一年十二月に民團議員に選舉せられ、會計検査委員として今日に及べり。又石油組合の常務
 員として功績あり。其在任中釜山組合の管轄を離れて、スタンダードオイル會社と直接取引の組合と
 爲すに至り、單に同組合の利益を圖りたるのみならず、亦一般需用者のために利したるなり。
 内田氏は又洗濯石鹼の製造を開始して好評を博しつゝありしに、今又純白質ラブリノ浮石鹼を發明
 し、品質善良にして價格低廉とは一般の公評なり。氏は斯く事業に熱誠なると共に社交亦廣く大邱實
 業界の名士として重望を荷へり。

介五〇



加

和洋
御菓子司

砂糖製菓原料
萬砂糖漬掛類

本 店

大邱錦町一丁目

電話一八八番

電署サ又サカ

工 場

大邱三番町

支 店

大 邱

本 町

大阪毎日新聞

報知新聞

東京毎日新聞

萬朝報

毎日電報

京城日報

釜山日報

朝鮮新聞

部 聞 新 堂 進 日 堺

大邱錦町一丁目

電話一八八番 電署サ又サカ

堺萬次郎氏は大阪出生にして本姓は藤井なり。明治四十年其伯父に當る堺家を相続したり。幼時父母に隨うて伊勢の一身田に移り、同地に於て成長したるが故に三重縣人を以て自認す。

明治三十六年釜山に來り三十七年六月大邸を視察して、直ちに菓子製造と原料の卸賣を開業したり。然れども氏は店頭に坐して、顧客の來るを待つが如き呑氣の人物にあらず。店は家族と雇人に放任して、金泉、永同、善山、尙州等の地方を廻りて、取引範圍の擴張に怠らず、當時鐵道工事の爲め田畑は取られ墳墓は動かされ、民心甚だ穩かならざるに、氏何等意に介することなかりき。

明治三十八年十二月尙州よりの歸途、善山附近の朝鮮宿に泊りたるに、夜半多數の草賊に襲撃せられて身に數箇所の重傷を負ひしも、更に屈せずして賊を撃退し、凶器三個を奪取して怖るゝ人夫を叱咤し、暗夜五里を徒歩して金泉に來り、大邸より醫士を招て治療を受たり。氏の勇氣斯の如く今尙盛也。明治三十九年十二月初期の民團議員に舉られ四十一年十二月再選せられ今日に及ぶ。又商業會議所議員となり。又其副會頭となり。公團期成會の幹事となりて始終一貫公共の爲に奔走盡力す。明治四十一年七月大阪毎日新聞社より、特に同新聞の取次店たらんとを依頼せられて、止なく新聞取次を始め、爾後各社の委託を受けて新聞部を置に至りぬ。是氏が何の用意なくして突然大邸第一の新聞店たるに至りし原因なり。氏の言論は短刀直入的なるが故に割合に敵多けれ共其心事甚潔白也。

獵銃獵具

鑛山火藥

ダイナマイト

道火線雷管

朝鮮大邸錦町

内外銃砲
火藥商 佐藤銃砲店

電話二二一番

活版印刷

大 邸

元町一丁目

木 村

文 庫

電話五九番

店

質金貸貸家

介五五

介五四

佐藤周藤氏は鳥取縣倉吉町の人にして明治三十七年五月大邸に來れり。氏の本業は銃砲火藥商なれ共、當時の大邸は未だ其時機に達せざりしが故に試験的に二三の事業に着手して時の來るを待ちぬ。三十九年に至りて銃砲火藥店を開き日に月に信用大に加はり、前韓國内部土木局出張所、大邸財務監督局、黄洞輕便鐵道、其他尙州及洛東附近に於ける鑛山業者は皆佐藤商店より購入し居れり。本國に於ては因伯鐵道の一手納附を始めとし取引甚だ廣き老舗たりき。

氏の事業は銃砲店のみならずして農事の經營に着手し、殊に多くの果樹を栽培しつゝあり。大邸停車場より東北の小丘に見ゆる白壁の土蔵は氏の火藥庫にして、其南麓の日本家は氏の農場、其又前而後背は果樹園なり。

氏は大邸内地人間に剛直なる人として信用頗る廣く、三十九年二月日本居留民會の議員となり。學校建築其他の自治機關に參與して貢獻する所多く、剛直の名ますます高し、四十二年三月商業會議所議員に擧げられ、今尙ほ其任にあり。氏は民團議員の選舉ある毎に候補者に推るゝも固辭して受けず。然れども同志のため晝夜奔走して其必勝を期せり。

氏の天性は世評の如く剛直なり。心に思ふことを口にし、口外したることは必ず之を實行するが故に又他人の無責任を咎むることも嚴なり。又公共心に富めると共に友人に對する信誼甚だ厚し。

木村竹太郎氏は岡山縣都窪郡早島の人、明治三十九年一月大邸に来る。氏の事業はみな質素にして派手ならず。是木村其人の性質と財政の根底鞏固なるが故に、百事アセラズ機を視て活動するにあらざり、時の來るを待つ。サレば將來の見込確實にして有望なる方面のみに投資するが故に、他人と競争して目前の利を圖るが如きコセクリを爲さず。

明治四十年三月商業會議所初期の議員として擧げられ、四十一年三月退任して再び出でず。四十一年十二月民間議員の候補者として推薦せられたれども固辭して受けず。四十二年十月の補欠選舉に際し、知人有志の勸誘切なるため、止むなく候補に立ち最高點を以て當選したり。

氏は店頭に座して平身低頭客に媚ぶる小商人にあらず。天性剛直にして自ら信ずる所を語り、自ら欲する所を行ふのみ。多數の壓迫又は人氣取りのために、言行を變更するが如きは斷じて爲さず。

氏は寡言實行の人なるが故に甚だ愛嬌に乏しく又酒を飲まざるため、其方面に交友少く世人より傲慢なりとの誤解を受るとあるも事實は全く之に反し所謂交際下手なるのみ。氏の交友は多く實業家方面にあり。友に對する情義甚だ厚く交ると長くして、天賦の美質自ら露はれて隔意なきに至る。公共の事業に對しては特に注意を拂うて、之を助くれども名譽の爲に出金せず。事業其物の實質を調べて出金額の多寡を定む。決して他の振合などは氏の念頭になし。以て其一斑を推測すべし。



本店 大邸元町

三井呉服店

支店 晋州城外

電話 一一二番

三井の店主中江富十郎氏は滋賀縣神崎郡五ヶ庄の人にて、夙に遠征の志深く殊に朝鮮は高瀬氏の發展地なりしが故に、少年時代より朝鮮經營の志を懐けり。明治三十七年十一月、志中江五良平氏の渡航するあり、共に渡りて各方面の調査に着手し、傍ら中江二氏及中村平川郎氏と共同して三井なる朝鮮人相手の雜貨店を開き、中江五良平氏長者として其代表者たりき。

三人の目的は三方面にあり、調査の針路は各自異なれり。然れども三井商店の事業は歩一歩只進行するのみ。然り而して店則整然として一絲を亂さず。大邸に於る有力なる朝鮮向雜貨店として人に知らる。誰か此信用ある店の解散を夢想する者あらん。然るに四十二年三月三井商店を閉塞して、各自別々に事業を開始したり。是三氏始めよりの目的にして、他人の之を知らざりしのみ。

富十郎氏は多年の經驗を積める呉服店の開始に決し、四十二年六月新築家屋に三井の商號を繼承して盛大なる開店の式を揚ぐ。富十郎氏は機業の本場たる江州の人にして、京都大阪は年來の取引地たり。其信用の鞏固なるに加へて資本充實し、物品の豊富と低廉販賣は氏の自信する所なり。

天性溫和にして着實の人、殊に天賦の愛嬌性は顧客を引くに力あり。氏が顧客に對する親切は只に商買柄にあらずして、本心より出るが故に時と人にと依り厚薄あるとなし。富十郎氏が大邸に在る六年未だ會て公共に關與せざりしは、三井代表者五良平氏其任にありしが爲めなり。

内外科婦人科
耳鼻咽喉科
入院隨意

十字堂醫院

診察午前並夜間九時迄
往診午後

東城町一丁目
電話二二九番

院主 相田 小八

十字堂醫院の相田小八氏は長崎縣大村町の人にて、曾て岡山醫學專門學校に學びて醫術を修め、卒業後は岡山病院に入り實地練磨の功を積み、亞て姫路に聘せられて令名大に擧る。昨年の秋郷里大村の人士は氏に歸郷して開業せんとを勸むるより、氏も亦其勸誘に應じて歸國するの決心なりし。然るに岡山在學中の親友にして、現時大邸に居る數名の人士相田氏の郷里開業を聞き、一步進めて大邸に來らんとを勸誘したり。相田氏又知己の親情に動かされ且つ前途興味深き大邸の開業を快諾しぬ。相田氏は大邸に來りて地勢を觀察し、確固たる決心を以て準備に着手す。土地を求め醫院病室を新築したり。氏は借家住の腰掛主義を執らず。始めより永住の實を示して三月一日開業したり。是氏が自己の技倆を自信せしが爲に外ならず。開業に際しては何等人目に觸るべき廣告をも爲さず、自然に人の來るを待つのみ。氏は實に大家たる態度を以て大邸の新天地に臨みぬ。

開業當時十字堂の門前は甚だ淋しかりしかど、日に月に患者を増し、其患者は實驗上の談話を以て氏を社會に紹介せり。今や開業日尚ほ淺しと雖も、其信用と患者の數は決して古參者に譲らず。天性濃厚君子的人にして何事も多く語らず。患者を遇する甚だ親切なれども更に巧言令色なく、寡言にして要領の外に語らざれども、自然に人心を引くの徳性あり。人に接する貴賤貧富の區別なく患者を診る病症の輕重に關せず丁寧なり。或人評して曰く、相田氏は醫者らしき人なりと。



白田新助氏は福島縣唯一の温泉地たる飯坂の人、本姓は齋藤にして父君の雅友に白田某あり。遺子なくして逝く。父君の友情として其祭祀を絶たしむるに忍びず、二男新助氏を以て友家を相続せしむると共に生家の資産を分與せんとす。然れ共新助氏は既に父の義心に従つて白田家を繼ぐ、生家の助力を受くるは其好まざる所、終に意を決して東京に出て日露の平和破るゝと同時に朝鮮に渡り、大邱に來りしは明治三十七年の二月洛東江水氷結して人馬を通ずる嚴寒の候、單身徒步險を冒して來りぬ。生家の業にして自ら經驗を有する藥業を以て一身を處するに決し、朝鮮人家の一室を賃借して開業したり。現時本國人間及び朝鮮人間に於ける信用の深きは、氏が堅忍自ら造りたるの基礎なり。明治三十七年八月日本居留民會の組織成るや、氏は其組織すら知らざるに議員に舉げられ、三十八年八月辭任して三十九年四月亦議員となれり。明治三十九年八月總辭職以後斷じて出てざりしに、本年三月町田氏等と共に商業會議所議員に舉げられ、同志の勸誘切なりしたため止むなく就任したり。氏の天性は平和を好む圓滿の質なれども、自信を曲げて多數に従ふが如き海月的の人物にあらず。然れども其友のためには全力を注ぎて助け、自身に不利と認むるあるも友を捨つるに忍びず、欺むける友をも尙ほ絶交せずして其改善策を講じつゝあり。年齢漸く三十三、前途有爲の士として、市民全體の重望を荷ふ。

確實ニ法律事務ヲ取扱フ

辯護士 下山清一郎法律事務所

朝鮮大邱東本町一丁目

辯護士下山清一郎氏は三重縣上野玄菴町の人、即ち荒木又右衛門の武名と共に其名を知られたる伊賀の上野なり。明治四十二年六月始めて大邸に來り、前途有望の都市たるを認めて法律事務所を設く。明治四十一年八月より大邸控訟院並に地方裁判所等開廳せられ、慶尚南北及び全羅南北の四道は、大邸控訟院の管轄區域となりし爲、各地より來れる辯護士數名ありしかど、内國人朝鮮人共に氏に對する信用は日に月に加はり、其事務所は日々事件の依頼者を以て、充ち三名の事務員は日曜日すら休む能はざる程なり。下山氏は溫和篤實にして君子的人なり。法廷以外に於て人と爭論するなどは特に嫌ふ所にして、法廷に於けるもコジツケ理屈などは断じて爲さず。依頼の事件は精密に研究して裁判の結果を豫測し、被告たる人に對して一時的慰安を與ふるが如き言を爲さず。法廷に於ても亦然り。自信なき奇論を喋々して關係者の歡心を求むるなどは氏の排斥する所たり。

氏の法廷に於る辯論は正々堂々たり。法理に訴ふる餘地なき被告に對しては、始より情狀に訴へて判官の哀を求む。免るべからざる被告には結果を豫告して覺悟せしめ、宣告を聽て失望落膽するが如きことなからしむ。又同情すべき事件に就ては、自ら進んで無料辯護を引受け、事實を隠蔽して法網を免れんとする者には特に忠告して卑劣の態度を戒むるなど、其心事實に高潔にして判官の感情を動かすこと少からず。氏の辯論に就ては、結果の如何に依らず被告みな満足せり。

内科 外科

朝鮮大邸東城町

久野醫院

一般患者ノ

診療ニ應ズ

院主 久野敏雄

入院隨意

電話二三四番

久野敏雄氏は福岡縣太宰府町の人、明治四十年十月大邸に來りて開業す。始め本町に居住し東本町に移り、本年八月東城町なる新築醫院に移れり。

新事業として最も困難なるは縁故なき地の一本立なり。特に信用の一點を以て基礎とする醫士辯護士産婆の如き、押賣も利かざれば行商も出來ず、亦新知人としても一朝過たば人の生命に關するが故に猥りに紹介も出來ず、唯單に信じて來るを待つのみ。

久野氏は實に一人の知己なくして開業したり。來る患者は感冒か下痢位に過ぎざりき。然れども氏ヨク耐忍して一年を経過しぬ。患者は東北部に於て増加し、其技倆は多くの人に信認せらるゝに至り終に居を東部に移せり。氏は患者に對して親切と謂はんより、寧ろ病源の研究に熱心なるの人なり。未熟醫の慣用手段たる曖昧の病名を附して、探り藥を投ずるが如きは、氏の斷じて執らざる所にして、知れざれば知れずとして先輩の立會を求めて匙を執る。是氏が青年醫家にして一頭角を露はす所以ならん乎。患者にして貧困なりと推察すれば豫しめ告げて曰く、身體さへ健全ならば金錢は何時ても儲かる。藥價などに心置なくイクラデモ飲め、全快して働いて拂へば夫れてよいと。氏は如何なる人も貧困者として待遇せず、又施藥するとは云はず。若し自己の患者より傳染病者の出るあらば時々避病院を見舞うて之を慰め其貧困なる者には自ら投藥して失望することなからしむ。

代書
測土登戸
地記籍
賣手其
量買續他

書畫骨董美術品商

大邸府

守永宗一

守永宗一氏は山口縣萩町の人にして三輪家の出なり。大邸に來りしは明治三十七年一月なりき。其年八月日本居留民會の組織成るや議員に選舉せられ、三十九年四月民會に入りて書記となり、民會長の補佐役として功勞多し、民團法實施後は影山民長の信認甚だ深く、其職に留りて民長並に戸倉助役を佐け、自治機關の活動に關しては氏の參與せざるもの皆無と謂て可なり。明治四十二年六月職を辭して商界に入る。代書は氏の好まざる所なりしも、氏が能筆にして諸規則に精通せるより氏の知人皆代書業者たらんことを希望して勸誘切なりしより氏の心遂に動き兼業として始めたりしに今は代書事務甚だ多く事務室は書類を以て山を爲す。

營業種目

書籍 雜誌

京筆 奈良墨 古梅園墨

朝鮮 風俗 風景 繪はがき

朝鮮 鶴の箸

其他 鶴骨細工品色々

内地行土産品販賣

大邱府元町一丁目角

玉村書店

電話番

店主玉村氏は去明治三十九年八月英園を懐きて渡韓し先釜山を視察して己が推察の空しからざるを認むるや更に大邱に來り専心諸般の情態を見聞し此地にそ有るなれ大に爲所あらむと悠然意を決して細關に降り實の一助を親族に求めしに悲しひ哉當時未だ朝鮮の實況を知る者少なき結果徒らに斷斷して之に應ずる者なく歸還の計蓋は水池に歸しぬ。故に於てか氏は斷然依頼心を抛棄し獨力以て初志の貫徹を期し漸然郷里を去て再び大邱に來る然れども素より資金有るに非ざりし故に己が目的たる光明を認むるも直に是に迫能はず、乃ち身を屈し銀を合せて同仁醫院の備人となりて兩腰を渡ぐ。爾來二春秋殆んど一年一日の如く彼の寒暑は勿論常に誠意同正を主として忠勤しつゝある間に職者の知るところとなり何か他方法を講ずるの可なるを勸むる者二三に止まらざるに至れり。氏にとりては龍の翼を得たるが如し。即ち蟻龍何日迄も地中の者にあらす四十二年十二月醫院を辭し翌年一月有志たる書店を開けり。從來書籍の購求に不自由を感じ居たる折柄なりしかば其發行甚だ多し。爲に日に其規模増大し開業未だ二年ならず既に朝鮮の屈折の書店たるを得たり。是全然氏の熱心鋭意且觀察敏を得たる所以にして而して郡小策家の遠く企及し能はざる所也。尙氏が利ある業の他に於て此海の利の業を營むは常に當面の得失を目的とするに非ず偏に朝鮮の發展に資する所ありと欲するの意に外ならざる也。吾人は氏の如き公正なる且熱心なる經營者ありて益々當地の開発するを喜ぶと同時に氏が將來の一大成功を祈るや極めて切なり。

第七章 大邱の氣候

余は明治三十六年以來大邱に常住せしが故に、大邱の氣候は遺憾なく説明が出来る筈なれども、生來の惰性盡瘁する時間はあるも日誌を作る氣力なく、多少の記憶はあるも具體的に表示することが出来ぬ。ソコで苦しまぎれに大邱測候所に附き、所長福田覺平氏の特別なる好意に依り、精細なる表を調製して與へられたり。測候所は凡て攝氏寒暖計に基きあるを、夫れては普通一般に困るとて又々華氏に換算して費ふなど非常に手数を掛けたり。

土地の狀況を知る上に於て最も必要なるは、飲料水と氣候なり。如何なる作物が出来るとして正式に氣候と對照するにあらざれば、一時間かの工合で上作てありしか、氣候の然からしむる所で永久に望みあるかは最も必要なる調査である。北海道は大邱より寒く且つ雪も雨も多し。青森然り秋田然り岩手然り。然るに大邱は非常に乾燥する、然り而して北海及東北に名産たる苹果が大邱の名産たらんとする是れ何の原因なるか。氣候は東北に類して、九州中國と同一の作物が出来る。是何の故ぞ。斯る疑問は何事に就ても起る、其解釋を爲すものは表なり。諸君が各地方の氣象と對照して余が前章に於ける事業の紹介文に思ひ及ぼしたまへ。

既往三ヶ年間月別平均温度表

年別	月別											
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
明治四十年	三六、一	三一、五	四三、〇	五四、五	六四、二	七〇、五	七五、七	八一、〇	六九、三	六〇、三	四五、九	三一、八
明治四十一年	三三、〇	三〇、七	四二、三	五三、四	六三、五	七二、三	七四、七	七九、五	六九、四	五九、四	四二、八	三四、九
明治四十二年	三三、五	三二、〇	四〇、一	五五、二	六四、四	七二、九	七九、〇	七八、六	七一、四	五七、七	四五、三	三一、八
年平均	三五、三	三二、七	四一、一	五三、二	六三、五	七二、三	七八、〇	七八、六	七一、四	五七、七	四五、三	三一、八

既往三ヶ年間月別高低温度表

年別	月別											
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
明治四十年	最高 六二、六	最高 五九、九	最高 七七、九	最高 八〇、六	最高 九二、一	最高 九五、九	最高 九五、九	最高 九八、六	最高 八七、八	最高 八〇、六	最高 七四、五	最高 五七、二
明治四十一年	最低 一四、〇	最低 一一、七	最低 一六、九	最低 三〇、九	最低 四一、一	最低 五二、〇	最低 六一、五	最低 五九、四	最低 五三、四	最低 四一、二	最低 二二、六	最低 一三、三
明治四十二年	最高 六一、三	最高 五五、四	最高 七〇、三	最高 八一、三	最高 八五、一	最高 九二、七	最高 九五、〇	最高 一〇〇、〇	最高 八六、五	最高 七九、五	最高 七〇、九	最高 六一、九
年平均	最高 六二、六	最高 五九、九	最高 七七、九	最高 八〇、六	最高 九二、一	最高 九五、九	最高 九五、九	最高 九八、六	最高 八七、八	最高 八〇、六	最高 七四、五	最高 五七、二
年平均	最低 一四、〇	最低 一一、七	最低 一六、九	最低 三〇、九	最低 四一、一	最低 五二、〇	最低 六一、五	最低 五九、四	最低 五三、四	最低 四一、二	最低 二二、六	最低 一三、三
極日	八月十七日	二月二日	八月五日	一月五日	七月七日	七月七日	七月七日	七月七日	七月七日	七月七日	七月七日	七月七日

既往三ヶ年間降雨月別表

年別	月別											
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
明治四十年	四	二	七	一一	一一	一三	一四	一一	五	七	一〇	二
明治四十一年	一	〇	五	七	一一	一四	一四	一六	一六	七	三	一
明治四十二年	二	二	二	九	六	七	六	六	六	一	一	一
年平均	二、三	一、〇	四、六	六、三	六、一	七、七	七、七	七、七	六、三	四、七	三、八	二、九

既往三ヶ年の終霜及霜初

年別	終霜	霜初
四十年	四月七日	十一月五日
四十一年	四月十四日	十月三十日
四十二年	四月十六日	十月二十四日
四十年	四月三日	十一月二日

速度十米突以上の暴風

- 四十年度
 三月二回、五月一回、十一月一回、
 十二月、一回
 四十一年度
 五月一回、八月一回、十一月三回、
 十二月一回
 四十二年度
 二月三回、三月三回、四月二回、十
 一月一回

○大邱の氣象

大邱測候所長 福田覺平氏寄稿

當大邱に於ける最近滿三ヶ年間の氣象成績左の如し。

- 一 氣温 年平均氣温は華氏五十五度攝氏十二度八を示す。各月中高温なるは八月にして華氏七十九度七攝氏二十六度五、低温なるは二月にして、華氏三十一度四攝氏氷點以下零度四なりとす。而して絶對最高氣温に至りては、明治四十一年八月五日に起りたる華氏百度、攝氏三十七度八の高温を示し、韓國中階、暑最も甚しき地方の一と稱するを得べく、更に絶對最低に於ては、明治四十三年一月三十一日及二月二日に華氏五度九攝氏氷點以下十四度五を測り、京仁地方よりは遙かに暖かく、釜山地方に比して僅かに寒威強きに過ぎず。サレド之を日本に比すれば寒暑の季節甚だ長く、春陽秋好の時期至つて短きの感あり。亦晝夜の氣温較差は割合に大にして、間々華氏三十六度攝氏二十六度以上に達することあり。
- 一 風 風速度の年平均は僅かに二メートル三(毎秒)に過ぎず。暴風日數の如きも年中に平均七日を數ふるのみにして、韓國中風速度弱き部位に屬す。而して風の方角は暖候に於ては概ね東南を占むるも、寒候に際しては殊に北西風卓越す。
- 一 湿度 湿度の年平均は六十九「パーセント」にして、八、九月の頃降雨の季節に際すれば、稍濕潤して月平均八十「パーセント」附近を示すことあるも、日本に比すれば可なりに空氣乾燥するを知るに足る。

一 雨量及び蒸發量 雨量の年總量は七百四十四「ミリメートル」(一坪の面積に對し約十三石六斗三升)にして、韓國中に於ても降雨の部位に屬し、日本の一般に比すれば殆んど二分乃至三分の一に過ぎず。春夏に降雨多く、秋冬に少なきは各地と其趣きを一にす。

蒸發量に於ては年總量千九百九十五「ミリメートル」にして可なり大量と稱するを得べし

其他各天氣日數に就て述べれば、一年につき雨天日數九十九日を算す、即ち三日乃至四日毎に多少の降雨を見る割合となる。降雨日數は年中に十四日あるも、積雪寸餘に達すること稀なり。而して暴風日數は年に七日、雷電日數は十三日雹霰等は至つて少く僅かに二日に過ぎず。又濃霧を見ること殆んどなし。降霜日數は年中に六十七日あり。日平均氣温の氷點以下に降る日數は、年中四十二日にして、最高氣温の九十五度以上に昇ること十日前後を算す。

要するに、大邱は夏季に於て暑熱可なりに強きも、寒氣は割合に嚴しからず、氣温較差は稍大にして概して風弱く空氣乾燥し、雨量雨天數共に少なし。

嗣つて韓國全體に就ての氣象特徴を記述せんか。各地共亞細亞大陸の影響を受けて、寒暑共に稍劇

しく、大邱地方の如く夏季氣温高極の百度附近に達する處あり。一方に西北隅に於ては冬季中低極の零下十五度攝氏氷點以下約二十六度以下に降るの地あり。概して寒候に於ては滿州地方の氣壓上昇と共に、氣温甚しく下降し、寒氣凛烈にして北西風之が助勢を爲すと雖も、氣壓下降するに連れ（多く當地方に低氣壓の襲來せんとする場合等）氣温上昇し寒烈衰ふ。恰も數日毎に寒暖相交代するの觀あり。之れ韓國に三寒四温の里言ある理由ならん乎。寒候に西北風の卓越するも、亦之れ滿洲大陸よりの氣壓上昇に因る爲とす。降雨日數は日本に比し甚だ少なく、時に或は晴天旬餘に渉ること少からず。又日本に於ける梅雨なるものなく、八九月の候に雨期らしきものあるも、梅雨の如く陰濕ならずして、寧ろ雷雨性のもの多し。又韓國に於ては人體に感ずる如き地震は甚だ稀にして、日本の或る地方に於ては數百回、少なきも數十回を算するに比し、特異現象たるの感あり。之れ日本の如く火山の多からざること等、原因の重なるものなるべし。(丁)

○素人の氣候論

本職の福田測候所長の氣象論を掲げて、又素人論を述ぶるは只に蛇足と云はんより、寧ろ錦上に花を敷く代りとして、塵芥を散布するの嫌ひあらん、サレド又氣弱き諸君の爲に、老少の參考資料となる點もあらん。幸に一讀の勞を惜しむなからんことを。

一晝夜の温度に三十五六度も較差があると聞きて、驚く人もあらんなれど、群馬地方の如きは八十八夜が通り過ぎた後に、七八十度の氣温が急轉直下三十度前後になりて大霜害となると時々ある。一晝夜三十五六度は別に珍氣候とは云ふべからず。又三寒四温は四寒三温に變ずることもあれば、五寒十温となることもある。寒くなる時には過ちなければ、俄かに暖かくなり、一月二月の近寒中に六十度以上に昇ることあり。其時俄かに薄着になると感冒の恐れがある。初冬の候より注意して、成るべく厚着せぬ様にするのが最も必要なれども、一たび厚着の習慣つきなば、中途で薄着になるは不可なり。余は元來スボン下が嫌ひ、襟巻が嫌ひシャツが嫌ひである。サレド明治三十六年の冬、特別の寒氣と始めての朝鮮なりしたため、シャツを着したる習慣が止まず、漸く一昨四十一年度よりシャツを全廢し、嚴冬華氏の十二度に降りし時も、褌袴と單衣と縮入及び羽織のみ。外出するにも襟巻などは絶對に用ひず。シカモ十二月月上旬より三月末まで、更に増さず減らさず寒暖一切區別なくして通したれど、一回の風邪もなく、二年無事に経過したり。

大邱在住の日本人六千人、中共七割は暖國の稱ある四國中國九州の人なれども、別に苦しいとも云はず。野菜屋もあれば豆腐屋もある。ウドン、ぜんざい、ヨタカンバ、寒風吹き荒む夜の一時二時まで賣り歩く。夫ても別に病氣もせず、稼ぐに追附く貧乏あれど、儼らく體に病なし。四國中國九州の人が、

小供や老人を伴ひ來りて、何とも思はぬ大邸なれば、北陸東山關東の人々には、本國以上の良氣候として永住地に適當と思はる。素人の氣候論は自己の實驗談である。

第八章 新移住者に警告

門に入る者は先づ額を見、郷に來る者は長に従へ、久しき經驗は机上の空理に優り、老農の坐説には學士も耳を傾けて謹聴せり。日本より新たに來る人々の内には、金線眼鏡に五ツ紋の羽織、襖中僅かに五六百圓、古參者の門を敲きて傲然眼鏡も外さず、頭を横にチヨツクリ下げて、我こそは何縣の中學卒業生、一年志願の役終りて、國家の爲に韓國經營に來た。君等は古參者の事務として宜しく、便宜を計られたしと云はぬばかりの態度で來る、少しく謙遜に出でるとますますツケアガリ、古參者の柔弱を罵り朝鮮人の愚昧を嘲り、主客位地を顛倒して、古參者は聽者ならざるを得ざるに至る。斯くの如き人に對しては善導者のあるべきなく、其左右に集る新知人は何れも曰く附の人々のみ。新米の來るを待構へたる一文なしの財産家もあれば、中學の門に入らざる卒業者もある。來たばかりの古參者もあれば、寸地のない農業者もある。巧言令色其説明に掛けては百年の實驗家と雖も恐らく三舍を避けざるを得ず。新米先生怒り乘氣になり、百萬の味方を得た心地して、甘々彼等の奸計に陥り、所持の金銭は捲揚げられ、宿屋からは責められ、金線眼鏡も投賣り、五ツ紋附も質に入れ、何時となしに自身も亦偽古參者偽農業者と化けて、新米の來るを待つ仲間入を爲すもの決して少しとせず、笈を負うて

郷間を出づ。學もし成らずんば生きて再び郷に歸らず。田畑家屋敷を賣飛して、朝鮮三界迄渡りながら、惡漢の仲間入を報知する譯にも行かず。今は人手に渡れ共、昔の家には老母父あり、妻は良人の成功を祈りつゝ、嬰兒を養ふ。一年立ども吉報來らず、二年になるも金も來ず、老先短き兩親と空閑守る若き妻は、生活難と心配とに苦みし結果、家財道具を賣拂ひて旅費を造り朝鮮まで來て見れば前記の始末、田紳先生マサカ追返す譯にも行かず、所謂仲間相談して、家は借りたが生活の道なく、漸く手解きの出來た下手の脅喝に駈出しの詐欺、忽ち警官に細打たれて囹圄の人となる、老たる父母に養はれたる妻は、泣くにも泣かれぬ慘狀に陥る。コレ余が空想を描きて警告するに非ずして、事實を擧ぐればイクラモある、東京の惡書生が清國學生と同盟して新來の留學生を喰ふと云ふ。朝鮮にも日韓合同の不良團が澤山ある、本書の讀者は朝鮮移住の希望者には必ず、警戒を與へられんことを望む。朝鮮各都會を合して、無職の徒約三萬より四萬人とは新聞の報ずるところ、無職浮浪の輩に限り其多くは中等教育を受けし人々なり。警戒すべき事にあらずや。

小學校より中學に入り、父兄の仕送りて「リーダー」の四か五までも讀んだ人から見れば、五年七年朝鮮に居て、世界の大勢にも通ぜざる我々は木冠を戴きし狼とも見へん、過る十九世紀の殘廢物とも思はれん。事實眞に或は然らん。然れども同胞未だ多からざるの時、排日官憲の權勢最も盛んなるの頃、一身の危険を賭して來り千辛萬苦幾回か失敗を重ねて、漸く今日迄漕ぎ附けたのである。一朝の遠算生活に困るを覺悟して、活動する勇氣は消失したり。前車の覆轍を警戒するに非ずして、自ら爲したる失敗を三度四度と繰返す勇氣なきに至りしなり。新來の人々が朝鮮人を見たならば、愚味に見へん、怠惰にも見へん。然れども是又五百年間の惡政に苦しめられ、年の始には一年中の無事を祈り、毎朝其日の無事を求め、何とかして官憲の誅求を免れんと欲するのみ。他に何等の計畫を立つべき餘裕なし。五百年來の獄外囚人たりし朝鮮人に對しては、寧ろ諸君の同情を希望す。

志眞に朝鮮の經營にありて、多少の資本を携帶し來る者は、先づ古參の士に就て土地の状況を誠實に調査すべし。一月二月の下宿料は決して惜しむなかれ。輕舉誤つて失敗すれば、回復は容易ならず、サレバとて是も信じ彼も信じて、聞く物ごとくに心を散してはだめ、誠心誠意古參者の指導に信頼して秩序的に經營すべし。其古參者選擇は特に注意するを要す。古き人々みな善良なりとは保し難く、新來者を欺く古參者も各地に散在して、新來の入荷を待ちつゝあり。然らば誠實なる古參者は如何にして求むべきか。曰く理事官に就て聞け、理事官は行政の首腦者にして、在來の居留民を保護するの義務あると共に、新來者指導の大責任あり。移住目的の新來者決して羽織や袴の用意は入らず。理事官は職責上新來者を教導すべく、又指導者を紹介すべし。若し理事官不在等の故障あらば觀察道又は

銀行に就て尋ねべし。銀行は種々の關係上、新移住者に對して便宜を與へつゝあり。理事官又は其他より紹介を得たる古參者に對して決して傲慢の態度あるべからず、理事官と雖も古參者に對しては依頼的紹介にして決して命令にあらざり、傲慢者に對して誠實の指導を爲す仁者は朝鮮に居らず

○土地賣買の順序

土地買收は殖民政策上最も必要なる條項たり。農事經營の志望者は必ず土地を買收すべし。借地は甚だ不經濟にして日本よりも却て不利なり。他人の田畑を借りて農業する位ならば、決して來る勿れとは第六章に説明したるが如し。土地の價格は市街との遠近に依りて、大差あること日本と同じ。大邱附近將來の市街地たるべき所は一坪七八十錢より一圓乃至二圓、大邱より二十町位の所にして二十錢より三四十錢、一里の遠きに至れば十五錢以下、大邱市街は第五章にあり。朝鮮人より土地を買收するには必ず仲介者を要す。由來朝鮮人は土地家屋の賣却を非常に恥辱とすたる故、直接に談判すれば如何に賣り度とも賣るとは云はぬ。若し地主が中流以上なれば仲介人も直接には談判出來ずして其下人に申込み、夫れから主人に相談するが故に二日や三日で約束は整はず。賣ると決して主人は決して立會せず。下人即ち番頭を以て案内せしむるに過ぎず。明治三十六七年の頃は中流以上は其名を出さず下人の名を以て賣りたりき、金家の土地ならば金奴何々と書く。金

家の下人誰と云ふ意なり。現今にては所有主の名にあらざれば洞長が證明せぬ故本人署名するに至れり。朝鮮は元來銀行なるものなく、現金貯蓄の方法なきため財産はみな田畑となれり。止むなく必要の場合には田畑を賣りて金にすること、恰も日本に於ける延金使用の如し。サレバ今でも其風習残り中流以上の人士が賣りに出すことあり。其賣物は仲介者に尋ねれば概ね知れる。前項に述べたる不良團體の人々が、仲介者に頼めば手数料が高から直々に御周旋しますなどとして釣り込み、却て高き土地を買はしたり偽物をソッカマセたりする。偽物とは地名不案内を好個の材料とし、地形似寄りの上等地を見せて、其實方角の違ふ粗悪地を賣るのである、其案内者が本人でないのと官衙にも未だ土地帳がないため買主の損害となる、案内者に責任はあれど始めより欺く手段であるから、家あり妻子ある者を案内者とはせず。其日稼ぎの宿なしに假りの案内を頼むのである、余は何れの仲介者が善良なりとは紹介せず。是又理事官及銀行等に就て頼めば確實なる人を紹介すべし。土地賣買の約束成立すれば、双方連署して査證願を郡守に差出す。郡守の査證は十日掛るか二十日掛るか豫告は出來ざれども、郡守の手續結了するまでは決して代金を渡すべからず。郡守の證書濟みしならば理事官へ査證を申請するに付、其申請書に賣主の捺印を求めソコ代金の全部を拂ふべし。郡守の證明結了し賣買双方の捺印あらば、理事官は必ず査證する故代金を拂ふも失策なく、又拂はねばならぬ書類は買

主に下附して、賣主は更に關係なきものとなる。

二反三反の土地なれば一時に買収出来るも、一町歩以上とならば目的の中心を買取り、其附近は半年も一年も掛る積りにて氣長に買収すべし。一時に纏めんとすれば、無法の高價を出さざるべからず。尤も一里二里市街を離れれば五町三町の賣物なきにあらず。此邊の事情亦よく調査すべし。目的の事業と土地との關係は特別に注意を要す。一年二年位では水害及早害の模様など、決して知れるものにあらず。コレは仲介者では知れぬから矢張り古參の人に聴く必要あり。大邱附近には田にして畑より安き地が多くある。コレ五年目か四年目に一回位植付の出来る水田である。又高く見えても二年目三年目に大浸水の地あり。只地形と地味のみ調査するは甚だ危険なり。

○失敗の告白

明治三十六年九月釜山出發、龜浦より川舟にて三浪津に上陸し、夫れより馬背にて密陽溫谷溝道を経て三日掛りて大邱に着した。其途上三浪津に於ける江岸の廣地、密陽附近不耕の地多きにも拘らず多くの農民は未だ熟せざる稻穂を摘採しつゝあり。草根を掘りつゝあり。大邱に來りて鐵道材料の關係にて、沙門とは時々往復して田舎農民の窮狀はよく知れり。ソコデ余は朝鮮農民の救済は甘藷の栽培にありと斷定した。其理由は日本に於て甘藷栽培の盛んなる地方には、飢饉の迫る民衆なし。と

は是れ余の机上論にあらず。甘藷の栽培を爲さざる北陸並に東北地方には、時々飢饉の災厄に遭遇すれども、甘藷を常食の如くする四國中國九州の島々、及び水田少き海濱の地には、殆んど斯る災害なく、殊に出雲の大守某侯は薩摩より藪種を取りて國中に弘め、屢々起りし飢饉の難を救ひしとて諸大守の名あり。國中到る所に神として仰げりとは、少年の時に聞きし話なり。然るに朝鮮人は甘藷を好めること老幼の別なく、其價また實に不廉、斯く好める甘藷を荒撫地同様の地に栽培しなば、單に朝鮮人を飢饉より救ふのみならずして、其餘波は米穀の輸出を多からしめ、賣米多ければ従つて購買力を促がし、日本雜貨の販路擴張の一段ともなるべしとは、余が創造の名論なり。余は多くの人に意見を述べて、可否の批評を乞ふ。聞くものみな名案と贊して實行せよと云ふ。明治三十七年の春一四十錢の運賃を拂うて、甘藷一貫目と里芋一貫を取寄せ、試験栽培に着手して良結果を得たり。其秋大邱より三里の西方洛東江の要津たる沙門津に地味佳良なる畑の賣物あり。其價格一坪約四錢五厘、殊に其當時輕便鐵道の敷設中にして京釜鐵道會社に就て聞くも永久保存の意見なりし故、この安價なる土地を求めて甘藷栽培せば、必ず有利の事業たるべしと信じて、余が恩人横濱の書上順四郎氏に自己の意見を通信したり。然るに三萬坪斗りを買収すべく送金し來りし故、鐵路を中心として、最高最良と認むべき地點三萬坪斗買収し、其翌三十八年の春大分縣佐賀關町より甘藷栽培の教

師を頼み、十町歩の全部に甘藷を植込みぬ。其年不幸にも七月十九日より九月二日まで、雨の降らざる日は僅かに五日ありしのみ。水田の稲苗殆んど腐敗して平均三分作と稱したるの年なり。九月一日は終に大洪水の慘狀を來し、洛東江の増水二十六尺に及び、余の甘藷栽培地は水平面より二十一尺の高地なるに、浸水五尺五寸、停滞すること五十時間、夏作の全部腐敗の災害を蒙りたり。退水後の天氣良好なりしたため、十月三十日の初霜來るまで手入れして、十一月一日より堀採に着手し、全部の收穫約三千五六百貫、上等の分二千五六百貫あり。其大なるは一個五六十目なりしに見て、平年ならば必ず上作すべしと信じ、又教師も斯く云ひし故、上等分全部を翌年の種として貯藏したるに、一ヶ月ならずして貯藏の甘藷皆腐敗しぬ。土地代金より家屋、耕牛、種藷、教師の給料一切合して三千二百圓餘は、書上氏及び横濱の有志三四人の損失に歸したり。單に余の失敗に止らず、同區域にある日本人所有地相森某氏の三十萬坪以上を筆頭に、六七人にて五十萬坪以上の地は、同一の運命に遭遇しぬ。只に沙門のみならず、近くは密陽三浪津より馬山線に沿ふ村井氏の大農場、群山地方に於ける日本人新經營の水田數千町歩、皆同一様の慘狀を呈したり。余が沙門に於ける經營の隣地に、須田三平氏が四五萬坪の面積に桑を植ゑたり。この桑樹のみは最良の結果を以て今に残れり。以上は余一人が實際の失敗談にして、當時の大邱人士はみなよく知れり。余は書上氏其他に對して

辯明の餘地なく、殆んど詐欺師たるの位地に立てり。余は明治三十六年以來紋附羽織で田紳を氣取りたることなく、一個の貧乏百姓として、粗食に甘んじ粗衣に馴れ、日本人に對し將た朝鮮人に對して、僅少の損害だに掛けたることなく、利益問題に關しては多大の損失こそ蒙りたれ、未だ一人の余を恨むものなきを自信し、且つ公言して憚らず。然るに沙門失敗の事件は、實の父母よりも恩ある書上順四郎氏、其友人石井研二氏等に於て大損害を掛け、一言の辯解だに爲す能はざる弱境にあり。余はセメテの罪滅しに、以上の事實を告白して、新移住者の篤と爲す。讀者請ふ諒せよ。

○言語と動作を慎め

余は北海道のアイヌに就て大に學びたることあり。アイヌ人が大議論を爲すに當りては、一方の敵が如何に讒謗罵詈するとも、黙して之を謹聴し、中間に於て辯駁するとか、腕力に訴ふるが如きことなく、相手の議論終るや、順序正しく夫れを辯駁するに、一方は位地を交へて之を謹聴せり。傍聴如何に多くとも一人として妨害するものなく、其最終に至りて辯駁出來ざる者が謝罪するか、傍聴者が仲裁する。明治二十三年の國會が開けたなら、必ずアイヌ以上の禮儀ある論戰が聽かれると、樂しんだ甲斐は讀者諸君が千も御承知の始末である。余は明治十六年の夏アイヌの談判法に感じて以來、人と議論せねばならぬ場合に至るとは、アイヌの論法に則る。余が議論法の師はアイヌである。

鳥に反哺の孝あり。鳩にも三枝の禮がある。獅子は愛兒を千尋の高さより蹴落して、猛烈の氣性を養ふ。古人は鳥に就き獸に依て學び、然り而して人道の禮節を定む。千萬年の大昔より人類一定の禮式ありしにはあらず。是れ人類に依り國土に依りて、禮法の異なる所以なり。相手の如何に拘らず、其長を取り我が短を補ふ。其心掛けありて始めて人類たるの價値あるなり。

朝鮮に在る日本人にして、野蠻の極致を演ずるもの決して少しとせず。野蠻の極致とは何ぞや、曰く、
一、褌布一つにて裸體を公衆に示して平然たり。甚しきは陰部まで露出するものあり。

二、婦人の身として腰巻一枚にて平然たるもの少からず。一陣の大風見るに忍びざる事あり。

三、婦人立ちながらにして、路傍に放尿するもの多し。余は常に道を避くれども令夫人平然たり。

四、淫猥極まる醜語を、公席に吐露して平然たる紳士然たる人少からず。

其他細事に涉らば、十項二十項の材料に乏しからず。以上の事實は日本人部落を注意して一週しなば、必ず目に觸るゝほどの常習と謂つて可ならん。余輩は之を以て、文明國にもある習慣とならば何も云はず。然れども西洋人の嫌ふ蠻風にして、日本の禮法亦野蠻の遺風として排斥しあり。支那人の嫌惡するは古來威儀禮法の國と尊ばれしほどに殊に甚し。朝鮮人はイタク之をイヤガル。中流以上の人士は以上列記の醜體を目撃すれば、必ず道を避けて去る、恰も毒蛇を避くるが如し。

文身裸體の勇み肌は、徳川時代の江戸名産たりしと傳へ聞く然れども勇み肌の兄さんには國政に參與する權利もなければ、國家の干城として戰場に出る義務もない。納税の金額少ければ、代議士選舉の權利はなけれども、衆議院議員の候補者として當選を争ふ權利あり。昔の雲助勇み肌は武士に向つて無禮の言行あらば、手討にせられて訴ふるに所なき哀れの境遇なり。日本の昔は文明と野蠻の二階級に分ちて組織せられ、武士にあらざれば人たるの價値なかりき。吾々士百姓や勇み肌の兄さんは、人間に似た動物として名のみありて苗字なき人なりし。由緒正しき名家でも落ぶれては苗字を名乗る能はざりき。反之して武士には、苗字あり姓あり名あり名乗あり。故に堀源左衛門藤原虎雄と名乗る。一方には福井村百姓太郎と云ふに過ぎず。サレバ花は櫻木人は武士の語ありき。武士の落第者が町人百姓とならず、浪人となりしも所以なきにあらず。然れども今日の日本人は徳川時代に於ける牛馬同様の百姓。町人にはあらざるなり。家來の家來、三品武士に低頭平身したる吾々百姓の今の身は、畏れ多くも天皇陛下の直臣たり。陛下の詔勅又は勅語に。爾臣民とあるは吾人一般のことにして、特に華族を指したるにあらず。特に士族を指したるにあらず。サレバ三品武士に低頭平身したる勇み肌の兄さんや士百姓の昔と異なり、陛下の直臣となりたる吾人は、大昔の牛馬時代の風俗を爲す能はざる位置にあり。自由とは亂暴勝手の意味とは異なれり。權

利は利己主義の遂行を許すものと解釋すべからず。吾々日本人は國家の體面を維持するの義務あることを忘るべからず。苟も日本帝國の臣民が朝鮮人にまで、侮辱を受くるが如き動作を爲すは、昔の牛馬扱を受けたる時代に退化したる者と謂つて可ならん。

朝鮮人は禮法を知らざる日本人を賤しむこと甚しく、決して中流以上の人士は近寄らず。只に交際せざるのみならず、最下等人種として特に賤しむ。日本人としても、止むなく撥斥するが故に、有形無形ともに損害少からざるべし。旅は道連れ世は情、朝鮮三界にまで来て、朝鮮人には賤しめられ、日本人にまで排斥せられては、決して立ち行くものにあらず。百姓漁夫士方人足の飛出では多少の窮屈はあらん。然れども日本に居るとは異なり、朝鮮まで来れば、眞に上下の隔てなく、論より證據、余の如き水呑百姓の成れの果ても、少しく早く来ただけの功勞にて、一度は日本居留民會議員に選舉せられたこともある。行儀作法は品性を高め、信用を博する士業となるが故に、特に新來の諸君は深く注意せられんことを望む。

第九章 地方の紹介

大邱は慶尙北道四十一郡の首府にして、其關係上全道を詳説するのが正當の方法なれども、之は小雜誌たる本書に掲載すべき餘地なく、其最も關係深くして、商取引の頻繁なる地方のみを紹介すべし。本年三月十七日附を以て慶山、永川、慶州、清道、密陽、三浪津、倭館、臬州、金泉、州、尙安東の十一ヶ所日本人會に向け左の件々を照會したり

- 一、貴地に於ける主要物産、並に一ヶ年の取引商概略。
 - 二、日本人の發展状況、並に其人口。
 - 三、市日取引の状況、並に朝鮮人の戸數。
 - 四、將來に於ける發展の豫想。
 - 五、其他發表すべき必要の條項。
- 右照會に對する回答は三浪津を第一着として、永川慶山倭館の四ヶ所より來りしのみ。殊に安東は大邱より道路改修上密接なる關係を有するが故に、再度の照會狀を發したれども回答なし。素より文筆の才能なく大邱の地にさへ其名を知られず、無學文盲の士百姓たるに過ぎざる余が、無分別にも大邱一斑など書かんとするのであるから、詐欺師、山師、半泥棒の仲間と認定せられて、回答なきは當然にして、何等不足の申分なけれども、前記四ヶ所の外正當に紹介する能はざるは、余の

甚だ遺憾とする所のみならず、讀者に對して責任を全うせざるの點は謝するに辭なし。全く余の信用なき結果なれば、讀者の幸に恕されんことを望む。

○慶山郡慶山

慶山は大邱の東方三里にして、京釜鐵道大邱の東隣驛たり。大邱邑誌に高麗顯宗王の時、更に京山府管下に屬せしめ、縣令を置き、統治せしめたりとあるに見れば、六百年前には慶山は府にして大邱の上にあたりたるを知るべく、樞要の地點たるを推測すべし。慈仁、河陽、永川等の米産地を控へ、米豆の産額甚だ多く、京釜線中倭館に次ぐ米豆輸出驛たり。

第一銀行員小高二郎氏等の創立せし韓國拓殖株式會社は、始め大邱に於て事務を執りしも、農事經營に重きを置ける會社として、慶山に根據を置くに決し、明治四十年の春、完全なる事務所倉庫社宅等を新築して移れり。是慶山第一の建造物にして、停車場の北隣にあり。慶山の市街は汽車の窓より見ゆる瓦屋根の古建築物と樓門ありて、其四方韓家の多くある所なり。停車場より約十四五町にして、日本人は殆んどみな驛の北隣地にあり。邑内にある者は朝鮮人相手の小商人のみと云ふ。

日本人會長たる堀家虎造氏は、韓國拓殖會社の支配人にして、香川縣選出の前代議士なり。性質溫良智德備はる好個の紳士にして慶山の重鎮、田舎の小都會に於て、會社事務のみに英才を埋むる

は人物經濟上甚だ不利の感あり。堀家氏尚ほ春秋に富む。今後の朝鮮は氏の如き好紳士活動の舞臺なり。幸に自重して時の來るを俟て。慶山驛穀物の輸出は、多き年は十四五萬噸に及び、少きも十萬噸を下らず。昨明治四十二年は穀物の商況不振なりしにも拘らず、左の如き成績なりし。

- 一米 五萬七千三百二十六噸、之を噸に換算すれば四千八百四十二噸なり。
- 一大豆 五萬六千二百二十六噸にして、四千三百六十九噸なり。
- 一雜穀 一千六百四十二噸にして、百三十二噸なり。

計 十一萬五千九百九十四噸にして、九千三百四十四噸なり。
人口は二百十九名にして戸數六十六、香川縣と德島縣其多數を占む。朝鮮人は慶山郡全部にして二萬一千〇三十九人。戸數五千三百三十七なり。(四十二年三月末日現在)

○漆谷郡倭館驛

大邱より西方六里の地にして洛東江の東岸、慶尙北道中物資の集散地として大邱の次に位す。倭館とは日本人の家と云ふ義にして、實の倭館は驛より約二十四五町の西、洛東江の西岸に在り。始め停車場を倭館に置くの豫定なりしを、鐵道速成の都合上今の地に變更し、驛名のみを存したり。現在の驛は漆谷郡瀾面回洞にして、本倭館は仁同郡若木面なりとす。豊臣氏征韓の役に於て、小西行長が星

州城と對陣するため、城廓を築きし地にして、城趾今尚ほ存す。人口は僅に二百前後、戸數五十餘に過ぎざれども、其名は廣く知らる。本書に紹介するは、驛の所在地にして即ち新倭館なり。明治四十年前の倭館は殆んど日本人なく、驛員の外には郵便所長佐藤氏一家と、森耕一、山内清三郎の兩氏、及び本倭館に山口松衛氏ありしのみ。森耕一、山口松衛の二氏は、明治三十七年四月鐵道工事の未だ着手せられざる時に來り、森氏は商業を以て新倭館にあり。山口氏は本倭館にありて、農業の傍ら朝鮮人教育の觀湖學校を創立して、自ら教育の任にあたり、無報酬にて朝鮮青年を教育すること三年、其生徒は星州、仁同、漆谷の方面より來り、米なり麥なり持參して共同自炊の學問、又山口氏は自ら教ふるのみにあらずして、特に朝鮮人の先生を入れて、漢語を學ばしめたり。朝鮮内地に於て、韓人教育に従事したる日本人多しと雖も、自ら農業に生活しつゝ、教育を施したる者は稀れなり。山口氏今は倭館穀物購買組合の事務主任として新倭館に移り、本倭館の家は朝鮮人の教育場として、無賃に使用せしめ居れり。

明治四十年九月各地に山賊的暴徒起るや、倭館は中隊本部となり、俄かに小商人の入込あり、穀物購買商の來るありて、前日の寂莫を破り、鞏固なる新部落を現出するに至る。今日倭館の有力者として紹介すべきは、森賢吉即ち耕一氏の令息、松原米吉、山内清三郎、倉員彦三郎、奥村治助の五氏なりとす。特に紹介すべきは、倭館人士共同一致の行動なり。濃厚篤實の先輩たる森耕一氏の如きありて、幹旋宜しきを得たるの結果なりと雖も、五人を首腦とせる團體が、何等の故障なく、殆んど一家の如き感あるは、恐らく他地方に見る能はざる美事なり。四十二年度までは各自勝手に穀物の買入を爲しつゝありしも、未だ會て競争らしつゝ行動なく、仕向け地の電報に依りて、其日の價格を定め、五店何れも定格を潰さず、若し買入不足の人あらば多き、者は少きに譲り、其間口錢などの遣り取りなく、知らざる人より見れば、殊に親密なる兄弟間ならんと疑はるゝに至れり。

始め新倭館は寒村と云ふよりも、一の野原たるに過ぎざる故、穀物の買入はみな二里三里の近在は素より、遠く善山、洛東、尙州、安東までも出張したり、其不便を除く爲、新たに市場を設けんとし果さず。終に四十一年來冒險的に活動を始め、附近五里七里にある朝鮮人商人に前貸して廻はらしめ、新倭館に來たりさへすれば、如何なる日にても買収すべく遊説せしむ。持來りし者には、決して無理の値押などせず、米穀招集のみに盡力したる結果、四十二年に至りては毎日の出穀五百呎より一千呎の多きに達し、又從來の葉錢は、五厘以下の端錢にあらざれば使用せず。絶対に新貨のみを以て買収したり。雨さへ降らざれば一日の休みなく、多額の穀物を購買し得べきの地は、新倭館の外にはあらざるべし。是れ森、松原、山内、倉員、奥村五氏協同一致の功蹟なり。豈偉大ならずや。

斯く少人数の新倭館には、停車場より洛東江岸に至る十町餘の輕便軌道あり。三百餘圓を投じて作りたる新道あり。七人の生徒しかなきに二千圓を投じて尋常小學校を新築したり。又五人の穀物商は本年度より組合組織に改め、三里以内の地に於ては、各自勝手に買入を爲さざる規則にして、其名稱を倭館穀物購買販賣組合と云ふ。其主任者は前記の山口松衛氏、斯業に就ては經驗と信用との兩利劍を有するの人、組合のため其人を得たるを祝す。

其組合は、今日の買入高を夕刻に至りて、京城、仁川、大邱、釜山、其他の取引先に電報して翌日之を公入札に附す。五人の組員たりとも、此公入札にあらざれば、自儘に引取ること能はず。京城仁川大邱釜山よりは、多く電報入札を爲せり。以て信用の厚きを推知するに至る。組合の資本金は一萬二千五百圓にして合資組織とせり。又該組合は本倭館との聯絡を必要として、架橋の計畫成り、秋期に至りて着手すると云ふ。其工費七百圓の豫算にして、毎年流出するものと見込み居れり。豈度量の大なる仕事ならずや。本年三月末の人口は、日本人五十三戸にして百八十三人、朝鮮人百三十一戸にして四百五十餘人、是れ新倭館の現状なり。

又新倭館及び本倭館共、果樹栽培地として最も適當し、山内氏は明治四十年來多くの苹果梨及び桃を栽培し、既に昨年より大邱京城釜山に送荷しつゝあり。其他五六名大々的に着手したり。將來南韓

の果樹栽培地として必ず其名を高めん。

明治三十九年度より四十二年に至る倭館停車場積出しの穀物左の如し。

- 明治三十九年 約三萬噸、一噸容量五斗二升以下同之
- 明治四十年 約五萬二千噸
- 明治四十一年 約八萬四千噸
- 明治四十二年 十四萬〇八十四噸

米

雜穀

- 此内日本仕向け 八萬三千二百七十五噸
- 朝鮮内地仕向け 五萬六千八百〇九噸
- 九萬一千二百五十五噸
- 四萬八千八百二十九噸

明治四十二年中輸入諸雜貨

- 食 鹽 約八百噸代金一萬六千圓
- 噸 十五萬枚代金一萬七千圓

石 油 三千二百箱代金壹萬五百餘圓

明 太 魚 四千個代金二萬五千圓

加 諸 雜 貨 代金約三萬四千圓

此外洛東江上倭館より釜山間を上下する朝鮮川舟五百二十三十隻あり。穀物の積下げ雜貨の輸入、決して少からずと雖も、未だ調査の機關あらず。

〇三 浪 津

馬山線の分岐點として其名は廣く知らる。驛の南方二十餘町にして一驛あり、洛東江と云ふ。是即ち眞の三浪津にして朝鮮人の市街地なり。茲に紹介するは驛の所在地即ち新三浪津なり。今の日本人會長を橋詰好と云ふ。此地の古參者たり。常に土地發展の指導者として、公共の事業に盡瘁し、後輩を誘導する甚だ親切、殊に三浪津特有の殖産事業に對して深き注意を拂ひ、確實なる販路を求め、農事經營者をして、専心他を顧みることなからしむ。氏の如き實に得難き好個の首腦者たり。余は八年前三浪津の沙漠を通過して、甘藷の栽培を思ひ附き、之がため回復すべからざる失敗を招けり。三浪津の移住者は果樹栽培に眼を附け、苹果、梨、桃、葡萄を植込み、現に多くの産品を釜山及び馬山に送荷しつゝあり。三浪津に於ける果樹栽培者として、古く且つ大なるものを林田氏と

す。只に成果の販賣に止らず、弘く苗木販賣業をも營めり。林田氏の販賣苗木は、日本各地の苗木屋が大々的廣告を爲して注文を求め、其送金を以て他より買取り、出荷するが如き山師とは、全然其撰を異にす。自園栽培の果樹にして、其結果の善良なる種類のみ苗木を取りて販賣するが故に、同家に就て直接に説明を求むるを得べく、販賣の苗木はみな責任を負ふと云へり。三浪津郵便所長に太田勝三郎と云ふ人あり。氏は大分縣竹賀關町の素封家たり。佐賀關は古來遠征の志に富む者多く、漁家の青年の如きは、南は臺灣に北は朝鮮に、珊瑚の採取に従事するあり、捕鯨船に乗込むあり。海軍御用の測量船には、多く佐賀關の青年乗込みり。毎年三四月の候、一船五人七人宛分乗して、琉球より臺灣に至るもの、朝鮮海より日本海に漕ぎ往くもの、各船五色の船旗を飾り、親戚朋友の送別會場より家に歸らずして直ちに乗船し、全町の老若男女は波止場に送りて萬歳を唱ふ。其祝聲に送られて漕ぎ出す。各船殆んど戰場に向うの壯觀なり。太田氏は此地の郵便局長たり。年々歳々斯る青年隊の首途を祝する毎に、雄志勃勃として禁するに由なく、郷間を去つて朝鮮に來りしは、明治三十六年の秋なり。太田氏の嗜好亦果樹と殖林にあり。三浪津に至るも志茲にあるがためなりき。今や令息を指導して、苗木仕立に杞柳栽培に、且又瓦の製造に従事せしめ、慶山より三里の慈仁郡には氏の大なる農業地あり。人の訪ふあれば喜んで實驗を語る、三浪津の商取引は朝鮮通商の

市日なり。陰曆一六の日は新三浪津にして、四と九の日は舊三浪津なり。取引商品の重なるものは、米、大豆、麥、綿布、石油、明大魚、野菜等、所謂なくてはならぬ日用一切の諸雜貨、其取引高は毎市平均して約二千圓内外、一ヶ月二萬圓以上に至る。明治四十二年中他地方へ積出したる諸雜貨左の如し。

- 一、苗 木 四百萬本代金一萬六千圓
 - 二、果 物 一萬三千三百貫代金六千六百五十圓
 - 三、米及大豆麥 七千三百五十石代金二萬二千六百圓
 - 四、瓦 四千四百噸代金七千〇四十三圓
 - 五、水産物(鰻其他) 七千貫代金二千百圓
 - 六、畜 産 六千八百十噸代金六千八百十圓
- 其他取引品全體に對する四十二年末の調査は、

- 一、輸出總高八千〇九十六噸價約三十二萬三千八百九十七圓餘
 - 二、輸入總高千五百八十八噸價約四萬一千二百七十四圓餘
- 人口 日本人百七十九戸、六百〇三人、朝鮮人千六百六十三戸、五千二百〇一人(本年三月末)

三浪津は單に鐵道の分岐點たるに止らず。果樹栽培として實利一方の地のみにもあらず。百花爛漫として都人士の眼を驚かすは、晚秋四月の中旬より約一ヶ月間、慶尙南北の大平原を洗うて流す通路は、單に三浪の一門あるのみ。濁流十里に沙りて、其壯觀筆舌の盡すところにあらず。萬波活躍して、江舟を翻弄するの奇觀は、恰も龍王の大游泳を見るの感あり。是れ年々八月上旬より下旬なり。大雨晴れて五日七日の後なるが故に、何等の危險あるなく、好事家の話種として、一覽の價値十分。川魚として鰻の名産あり。大鯉あり鱸あり。タマには鮭あり鱒あり。料理の巧拙は、余が保證の限りにあらず。洛東江流水澄ひの時は、船を浮べて釣を垂れ、大公望を氣取るも亦妙ならん。

○永川郡 永川

大邱より東北方八里慶州大邱間の中央にあたる。物産は米大豆、麻布にして米豆一ヶ年の取引高約八千五六百石、仕向け方面は釜山と大邱、麻布一ヶ年の賣高は、十萬匹に達すと云ふ。金銀は昔より其名高けれども、未だ大事業と爲すに至らず。將來大邱延日間の直通道路開通の曉には、永川の發展見るべきものあらん乎。現在の交通は、大邱慶州の中繼驛なるが故に、牛車馬車の來往、日本の田舎などの及ぶところにあらず。魚類は新鮮なるもの、日々延日より來るが故に、何等不自由を感ずることなし。

市日は月六回、陰曆二と七の日にして、取引金高毎市五千圓以上八千圓に達することあり。人口は日本人三十四戸百三十八人、朝鮮人全郡一萬一千百三十三戸にして四萬七千五百〇五人。(三月末調)

○新羅の古都慶州

一名東京と稱す。大邱の東方十六里の地、日々馬車あり牛車あり人車あり。自轉車又自由に通ず。慶州は千年の歴史を有し、舊蹟の見るべきもの多きが故に、志賀重昂先生も行き、關野工學博士も往き、前統監曾嗣子爵もまた遊べり。余は大邱に居る八年、未だ慶州を知らず。土百姓の悲しさ、其日の稼ぎを怠れば、妻子は飢饉に迫らざるを得ず。遊んで旅費を使つて、見物などは我々の柄になき事と、諦めは早くに附けて居る故、別に殘念とも思はざれど、本書の發刊上止むなく照會したれども、何等の返事がない。然るに大邱警察署警部清宮仙之助氏、曾嗣前統監に隨從して至りし時、調べて置いた物ありとて、東京誌一部を贈與せられたり。新らしき慶州の代りに、面白き記事あれども、原文は六ヶ敷朝鮮的漢文、中譯に轉載するもの漸く左の一項なり。

●始林 脫解王九年、王夜中金城の西にあたる始林の樹間に、鶏の鳴聲あるを聞き、大輔孤公を遣はして視るに、金色の小櫃が樹枝に掛けあり。其下に白鶏が鳴いて居る。王金櫃を取りて之を開きしに、小男兒あり。王喜びて曰く、是豈天が我に令胤を遣はすには非ざる乎。乃ち收めて之を養ふ。

名を關智と曰ひ、金櫃より出づるが故に姓を金と云ふ。其林に因みて、雞林と稱し以て國號と爲すと、依之、觀之、雞林は八道の異名にあらずして、新羅の別名なりしなり。

新羅の始祖は、姓を朴名は赫居世と云ふ。漢の宣帝五鳳元年甲子の即位にして、在位六十一年なりしと。新羅は朝鮮の東端に都を構へ、東方日本を窺うて、常に吾人の祖先を煩はしたるの國なり。新羅は日本の善隣にあらずして強敵なりし。後李氏に亡されて、其墳墓を敵の蹂躪に放任したること五百餘年、今は日本の保護に依りて墓下に安眠するを得たり。始祖の靈若し地下にあらば、其感如何。瞻星臺は有名なる新羅の天文臺なり。當時の文學盛んにして、技藝の進歩も大に見るべきもの多しと云ふ。佛寺佛像として、千年の歴史を傳ふるもの少からずと云へり。善徳女王の建立せし芬皇寺には、三十六萬六千七百斤の重量ある藥師如來のありしと云へば、小國と雖も侮り難き大膽人物多かりしを知るに足る。

現時の慶州は紹介するの材料なきため、理事廳の調査に基き、只其人口のみに止めん。
日本人九十一戸二百三十六人、日本人會長を梅岡敏夫と云ふ。

○金 泉

金泉は慶尙北道の西端に近く、鐵路未だ開けざる時代には、慶尙忠清全羅の三道に跨るの取引地と

して、商業甚だ殷盛の地なりき。サレバ未だ鐵道なきの時代より、日本人との商取引關係あり。鐵道漸く開通したるの頃は、大邱以上の資産家あり。早くより瓦屋根の日本家屋も建築せられたり。鐵道開通して、忠清全羅の取引なきに至るも、金山、開寧、善山、洛東、尙州等有望の地方を控へ居り。居留民にして一致協同の公徳心さへあらば、將來の發展は期して俟つべし。本年三月末日現在日本人百九十二戸にして六百二十八人あり。慶尙北道中大邱に次ぐの都會地たり。

○星州郡星州

新倭館より三里にして大邱より七里あり。産物は米、大豆、薬用人蔘、毛皮類なり。星州は昔小西行長と對陣したるほどの地勢なるが故に、貧弱の地方にあらず。先年東學黨の亂に荒されし以來、資産家は多く市街にあらずして、近在に散在せるがため、一見殆んど荒村の觀あれども、外形よりは實質よし。本年三月末日現在日本人二十九名にして戸數僅かに十二。

○尙州郡尙州

金泉驛より八里にして、釜山京城間の國道に沿ふ小都會たり。物産は米あり大豆あり麻布あり。殊に古來よりの養蠶地として絹布の産出地なり。將來の蠶業地として、其隣郡咸昌には官立の養蠶傳習所あり。又近時金鑛熱盛にして、尙州郡には到る所に良脈ありと云ふ。視察に入るもの少からず。

果して良鑛の發見さるゝあらば、國家のため將た地方のため大なる幸福ならん。

尙州には警察署あり、憲兵分遣所あり、財務署あり、農務署あり、農銀出張所あり、軍隊の駐屯するあり。慶尙北道中屈指の郡にして、本年三月末本島人百戸にして二百五十六人あり。

○安東

安東には一時觀察府を置きしほどにて、慶尙道中樞要の地點たり。朝鮮人口八萬九千八百七十七人を算し、戸數一千九百〇二十一、本島人五十二戸にして百七十一人とは本年三月の調査なり。米大豆は最も地方産物の主要たるべき等なれども、道路未だ改修せられず。百貨みな馬背に依て運搬するが故に、賃錢甚だ高く、洛東江上の舟便は、夏期僅かに四五日間のみ。サレバ土地の農民は米穀の作物は地方の需用に止め、木綿と麻布を以て特種産物と爲しぬ。大邱より安東間駄馬一頭の賃錢三圓五十錢乃至四圓、其積載量米七斗大豆八斗金巾二十四疋石油三兩。大邱市場十圓の米は六圓以下の原價ならざるべからず。七圓の大豆は三圓以下ならざるべからず。之に反して一罐一圓八十錢の石油は二圓四十錢以上となり。一函四圓の燐寸は五圓に近く、大邱の農民が大豆一石を七圓に賣りて、石油一罐を買へば殘金五圓二十錢あるに、安東の農民は二石三圓に賣りて、僅かに六十錢を餘すのみ。是れ彼等が土地に適して、作業の容易なる大豆を作らずして、手數の掛る麻を作る所以なり。

らん。

安東は尙山奥の僻地たるに過ぎざれども、道路だに改修せば、我が慶北の一大富源たるの地方なり。交通の便開けて牛車馬車の通ずるあらば、運賃は四分の一乃至五分の一に減すべく、米豆一石に對して二圓前後の差を來し、三圓の大豆は四圓七八十錢となり、二圓四十錢の石油は二圓乃至二圓十錢にて買はるべし。本年二月我が大邱商業會議所は大邱安東間の道路視察團を組織して、自轉車、乘馬徒歩の三部に分れ、西北の寒風雪さへ混へし二月の十六日、一行勇ましく安東へと進行を始めぬ。沿道各地の日韓人士は、多大の同情を以て之を迎へ、特に安東の人士は縁門を造り、煙花を揚げ、其他未曾有の準備を以て一行を歓迎し、盛大なる日韓合同の大歡迎宴會を開催したりと。

踏査團を待受けたる大邱の同志は、慰勞の宴會を催すと共に、邱安道路期成會を起し、各方面に對する運動を開始したり。軍司令部、觀察使、理事官、財務監督局の應援は、特に同志の勇氣を増して、熱誠運動したる結果、中央政府の容るゝところとなりて、本年度の豫算に計上せられ、既に實地の測量は結了したり。大邱安東間二十六里を、馬車に眠りて往復するの日も近きにあるべく、此道路の將來は、江原道を貫きて元山に至る道路の入口となり、尙進んで元山大邱を連結せしめて、日本海を援護する鐵道線路の豫備事業たらん。邱安道路に直接又間接に利益を受くる郡部は、大小十七

郡にして、其人口合計五十二萬七千〇六十四、戶數十一萬四千三百四十八あり。其内本島人九百二十五人、慶尙北道の人口百〇六萬二千九百九十一に對照しなば、西北貫通道路の急設を要するや、實に一目瞭然たり。安東道路の開通は、大邱のために一大富源を起すものにして、亦安東外十六郡の死地に居る民衆を救済するの大事業たり。本道路のために多大の奔走を爲したるは、理事官能勢辰五郎氏を筆頭とし、觀察使朴重陽氏、財務監督局井上常郎氏等の功勞を深謝せざるを得ず。

第十章 道勢之比較並參考表

土地の盛衰は交通の便と不便とに基く。我が慶尙北道が他地方に比して富有なるは、天興の洛東江ありしが爲めなり。左に朝鮮地内大江の稱あるものを略述して、參考に供せん。

洛東江 洛東江は上流を禮安江と云ひ、源を大白山脈に發し、禮安、安東を経て洛東津に至り、倭館を下りて大邱の西方沙門津に出て、三浪津を経て金海に至り、茲に三角洲を作りて數派に分れ、多太浦の西に於て海に注ぐ。其流程百餘里、江口より洛東津まで六十五六里の間は舟楫の便あり。水量十分なる時は、更に安東に遡航し得べし。本江は大邱の平野を貫通して、灌溉の便あるのみならず、江口は釜山港に近く、且其流域には、金海、龜浦、三浪津、密陽、靈山、星州、倭館、尙州、安東等の大市場を抱擁せる南韓唯一の大流にして、運輸の利便極めて大なり。

漢江 漢江は源を大白山に發する南江と江原、咸鏡兩道の境上鐵嶺より發する北江とが、京畿道高安附近に於て相合し、一大江流を成し、更に龍山、揚花津等を経て、鹽津江及び禮江を併せ黃海に入る。其江口に於て江華、喬桐の二大島を抱擁し、流程約百三十里にして、沿岸都邑の主なるものは、狼川、春川、加平、寧越、永青、丹陽、清風、忠州、龍山、楊花津なりとす。且消費力の最豊

富なる京城の北東南外廓を半輪帶控して緩流するが故に、貨物の運搬往來頗る頻繁なり。

大同江 大同江は源を狼林山に發し、平壤及び兼二浦を経て鐵島に至り、茲に載寧江を合せて、下流著しく廣濶となり、數千噸の汽船をして自由に碇泊せしめ得べく、之より西流して鎮南浦に出

て、幅員愈々廣くして、渺茫宛も海灣を望むが如し。漁隱洞に至りて更に大江と爲り黃海に注ぐ。鴨綠江 鴨綠江は滿洲と朝鮮の境界を劃する長流大江にして、源を白頭山に發し、山岳重疊の間

を縫下して、義州に出て、清國安東縣を経て龍岩浦を過ぎ海に入る。其幅員甚だ廣けれ共、水淺くして岩礁多ければ自ら激流奔湍を爲し、爲に淺吃水の汽船を以てして、僅に安東縣に通航するに過ぎず。

豆滿江 豆滿江は朝鮮と清國吉林省並に露領烏蘇里の境界を成し東海岸唯一の大江なり。源は鴨

綠江と同じく、白頭山に發して東北に下流し、茂山、會寧、穩城、慶興、慶源等を経て日本海に入る。

錦江 錦江は水流七十餘里、源を全羅、慶尙二道の界なる蘆嶺に發し、忠清南道の南部を貫流し、公州、扶餘、江景等の都邑を経て庇仁灣に注ぐ。群山は其南岸にありて江口に近く、群山、江景間は十餘里にして日々小形汽船の往復しつゝあり。

以上を朝鮮の六大江と稱し、其他小江としては榮山江あり。源を忠清道の秋月山に發し、全羅北道の平野を貫通し、榮山浦を経て木浦灣に注ぐ。木浦、榮山浦間は約十三里にして、日々小汽船の便あり。

國有地及民有地推定面積

四十一年十二月

地方	國有地		民有地		合計
	田	畑	田	畑	
京畿道	四、九七〇	九、三三〇	六、七〇〇	六、九六〇	一四、九〇〇
忠清北道	一、三三三	二、三三三	三、〇四七	四、一六六	六、六六六
忠清南道	五、〇七三	七、七七一	一〇、五九三	一五、四四一	二七、〇六六
全羅北道	二、四三三	四、五五五	一五、七三六	六、九四八	二二、二六六
全羅南道	四、三三三	七、七七一	一五、七三六	六、九四八	二二、二六六
慶尙北道	四、三三三	七、七七一	一五、七三六	六、九四八	二二、二六六
慶尙南道	三、三三三	七、七七一	一五、七三六	六、九四八	二二、二六六
黃海道	四、三三三	七、七七一	一五、七三六	六、九四八	二二、二六六
平安南道	二、三三三	二、三三三	一五、七三六	一〇、二二二	一七、三三三
平安北道	四、三三三	八、七七一	一〇、二二二	一五、七三六	二二、二六六
江原道	六、三三三	一、三三三	一〇、二二二	一五、七三六	二二、二六六
咸鏡南道	一、三三三	二、三三三	一〇、二二二	一五、七三六	二二、二六六
咸鏡北道	八、三三三	一、三三三	一〇、二二二	一五、七三六	二二、二六六
總計	三三、三三三	六七、七七一	一〇〇、二二二	一五七、三三三	二六〇、二六六

咸鏡南北兩道の民有地は田を畑に含む

大邱一斑
市場總況

四十二年一月調査

二四〇

地方	市場數	平均				其他雜品	合計	平均市場
		農産物	水産物	織物	百貨			
京畿道	七	三,四七五	五,〇一〇	五,四六〇	五,四六〇	一五,三四〇	一五,三四〇	
忠清北道	三	
忠清南道	三	
慶尙北道	三	
慶尙南道	三	
全羅北道	三	
全羅南道	三	
黃海道	三	
平安南道	三	
平安北道	三	
咸鏡南道	三	
咸鏡北道	三	
江原道	三	
總計	八	

本表集散貨物にして分類不明のものは其他の雜品に扱上せり

朝鮮人口並寺刹僧尼數

四十二年度調査

道別	戸數	男	女	計	寺刹	僧尼	合計
京畿道	三,三三三	一,五〇七	一,三〇〇	二,八〇七	一七	六〇	七七
忠清北道	二,七三三	一,三〇〇	一,一〇〇	二,四〇〇	七	二七	三四
忠清南道	二,八〇〇	一,三〇〇	一,一〇〇	二,四〇〇	七	二七	三四
全羅北道	三,三三三	一,三〇〇	一,一〇〇	二,四〇〇	七	二七	三四
全羅南道	三,三三三	一,三〇〇	一,一〇〇	二,四〇〇	七	二七	三四
慶尙北道	三,三三三	一,三〇〇	一,一〇〇	二,四〇〇	七	二七	三四
慶尙南道	三,三三三	一,三〇〇	一,一〇〇	二,四〇〇	七	二七	三四
黃海道	三,三三三	一,三〇〇	一,一〇〇	二,四〇〇	七	二七	三四
江原道	三,三三三	一,三〇〇	一,一〇〇	二,四〇〇	七	二七	三四
平安南道	三,三三三	一,三〇〇	一,一〇〇	二,四〇〇	七	二七	三四
平安北道	三,三三三	一,三〇〇	一,一〇〇	二,四〇〇	七	二七	三四
咸鏡南道	三,三三三	一,三〇〇	一,一〇〇	二,四〇〇	七	二七	三四
咸鏡北道	三,三三三	一,三〇〇	一,一〇〇	二,四〇〇	七	二七	三四
計	三,七三三	一,七三三	一,五三三	三,二六六	九六	三〇六	四〇二

寺院には多くの財産があるが故に、僧徒其寺領に依て衣食す。慶尙道昔時佛教の隆盛を證するに足る。

第十章 道勢之比較並參考表

二四一

面積人口大別表

明治四十一年末調査

面積	人口	本州	四國	九州	北海道	臺灣	樺太	朝鮮	其他
一、四、七、〇、〇〇〇	一、四、七、〇、〇〇〇	一、一、八、〇、〇〇〇	二、六、七、〇、〇〇〇	五、〇、〇、〇〇〇	三、三、四、〇、〇〇〇	六、一、〇、〇〇〇	一、三、三、〇、〇〇〇	一、四、九、〇、〇〇〇	一、四、九、〇、〇〇〇
一、四、七、〇、〇〇〇	一、四、七、〇、〇〇〇	一、一、八、〇、〇〇〇	二、六、七、〇、〇〇〇	五、〇、〇、〇〇〇	三、三、四、〇、〇〇〇	六、一、〇、〇〇〇	一、三、三、〇、〇〇〇	一、四、九、〇、〇〇〇	一、四、九、〇、〇〇〇

合計

面積朝鮮を除きて二萬九千三百二十六方里四六、朝鮮合計四萬三千四百四十九方里四六
 人口朝鮮を除きて五千二百七十三萬三千八百二十人、合朝六五、二一八、四四一人となる。
 朝鮮の面積は日本本州に比して少しく小に人口は本州三分一なり。優に一千萬人を容るに足らん乎。

水田一段歩に對する收支

明治四十二年六月調査

地方	平均購入價格	支		地租	計	出	
		耕作費	種代肥料代			收入(概及)	對資金利合
京畿振威	三、三〇〇	五、五〇〇	三、〇〇〇	〇、二〇〇	六、八〇〇	一〇、一〇〇	一、一〇〇
慶北玄風	四、〇〇〇	三、六〇〇	五、五〇〇	一、一〇〇	六、九〇〇	三、三〇〇	三、六〇〇
慶南密陽	三、五〇〇	三、〇〇〇	一、〇〇〇	〇、三〇〇	六、〇〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇
忠南公州	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一、〇〇〇	〇、三〇〇	五、九〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇
全北全州	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一、〇〇〇	〇、三〇〇	六、六〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇
全南光州	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一、〇〇〇	〇、三〇〇	六、六〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇
黄海黃州	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一、〇〇〇	〇、三〇〇	六、六〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇

輸出入品價格國別 (圓)

輸出重要品價額 (圓)

國名	明治四十二年		同四十二年		品名	四十二年		四十一年		四十年		三十九年	
	輸入	輸出	輸入	輸出		輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出
日本	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	米	五、三、三、七、七〇	六、四、四、八、八〇	六、四、四、八、八〇	七、七、八、八、〇〇	一、六、〇、〇、〇〇	一、六、〇、〇、〇〇	一、六、〇、〇、〇〇	一、六、〇、〇、〇〇
清國	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	大豆	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇
露領亞細亞	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	小豆	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇
英國	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	海參	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇
北米	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	乾鹽魚	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇
其他諸國	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	棉花	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇
總計	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	生牛	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇	三、二、八、八、〇〇

大邱一班
輸入重要品價額

物價對照

二四四

四十二年平均

品名	四十二年	四十一年	四十年	品名	單位	大邱	京城
生金巾	1,150,000	1,250,000	1,250,000	品名	單位	大邱	京城
シーチング	3,300,000	3,200,000	3,000,000	玄米上	一石	1,100	1,000
晒金巾	1,200,000	1,200,000	1,200,000	白米上	同	1,100	1,100
白木綿	1,100,000	1,200,000	1,200,000	大豆上	同	1,100	1,100
麻布	1,200,000	1,200,000	1,200,000	砂糖(四温)	百斤	1,100	1,100
絹布	1,200,000	1,200,000	1,200,000	清酒正宗	一挺	1,100	1,100
烟草	1,200,000	1,200,000	1,200,000	麥酒札幌	四打入一函	1,100	1,100
木材	1,200,000	1,200,000	1,200,000	石油松標	一函	1,100	1,100
綿織物	1,200,000	1,200,000	1,200,000	燐寸	二百打入一函	1,100	1,100
石炭	1,200,000	1,200,000	1,200,000	食鹽	八斗入一俵	1,100	1,100
砂糖	1,200,000	1,200,000	1,200,000	麥粉	五十封入一袋	1,100	1,100
清酒	1,200,000	1,200,000	1,200,000	石炭	上一噸	1,100	1,100
石油	1,200,000	1,200,000	1,200,000	紡績糸	二十五入一俵	1,100	1,100
紙類	1,200,000	1,200,000	1,200,000	洋金巾上	五十反入一釜	1,100	1,100
マッチ	1,200,000	1,200,000	1,200,000	セメント上	一噸	1,100	1,100
鐵類	1,200,000	1,200,000	1,200,000	牛皮	十斤廻百斤	1,100	1,100
				打綿上	一	1,100	1,100

以上の比較表並に参考表は、著者自身が平素座右の記憶に資するため、必要を感じたる故、或は讀者中にも、余の如き健忘性の人あらんかと思つて、卷末に添記したり。

投筆するに臨みて、特に謝辭一言を讀者諸君に呈す。余の如き無學文盲の輩が執筆して、大邱の真相を紹介する能はざるは理の當然なり。然れども今日まで、誰れも大邱の紹介書を作らざるが故に、時勢の要求上止むを得ざるに出でたるのみ。諸君は嘸かし一讀に迷惑を感じられしならん。余は茲に謹んで、讀者諸君が一讀の榮をたまひしを感謝し、併せて大邱なる地の將來を研究せられんことを祈る。

大邱一斑終

明治四十四年一月廿五日印刷
明治四十四年一月廿八日發行



著作者

發行者

印刷者

印刷所

發行所

發賣店

大阪市東區北渡邊町

朝鮮大邱府元町

朝鮮大邱一斑與付

正價金七拾錢

群馬縣前橋市北曲輪町
當時朝鮮大邱府東本町

三輪如鐵
大阪市東區北渡邊町八十九番地

杉本
東京市京橋區西紺屋町廿六七番地

石川金太郎
東京市京橋區西紺屋町廿六七番地

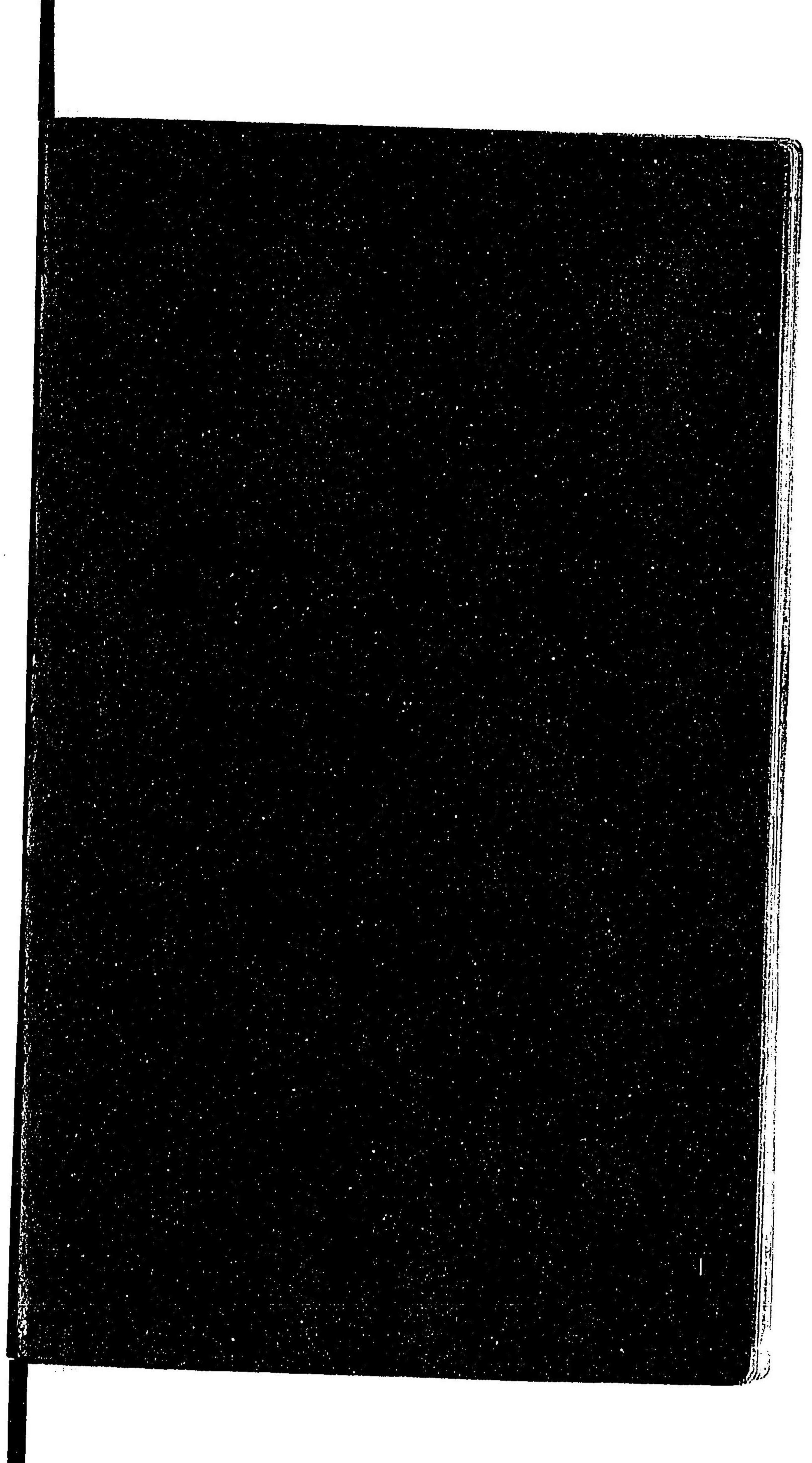
株式會社 秀英舍

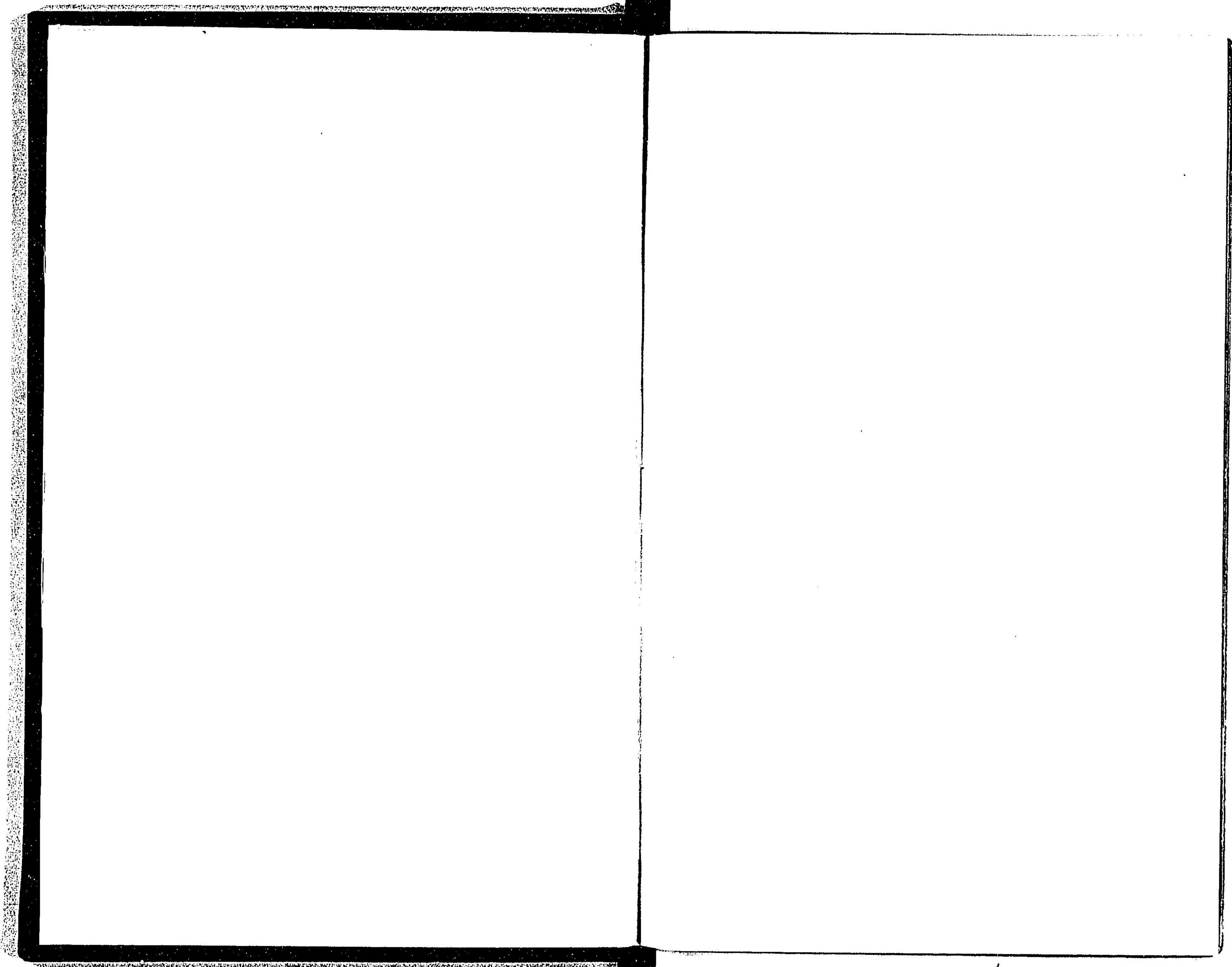
杉本梁江堂

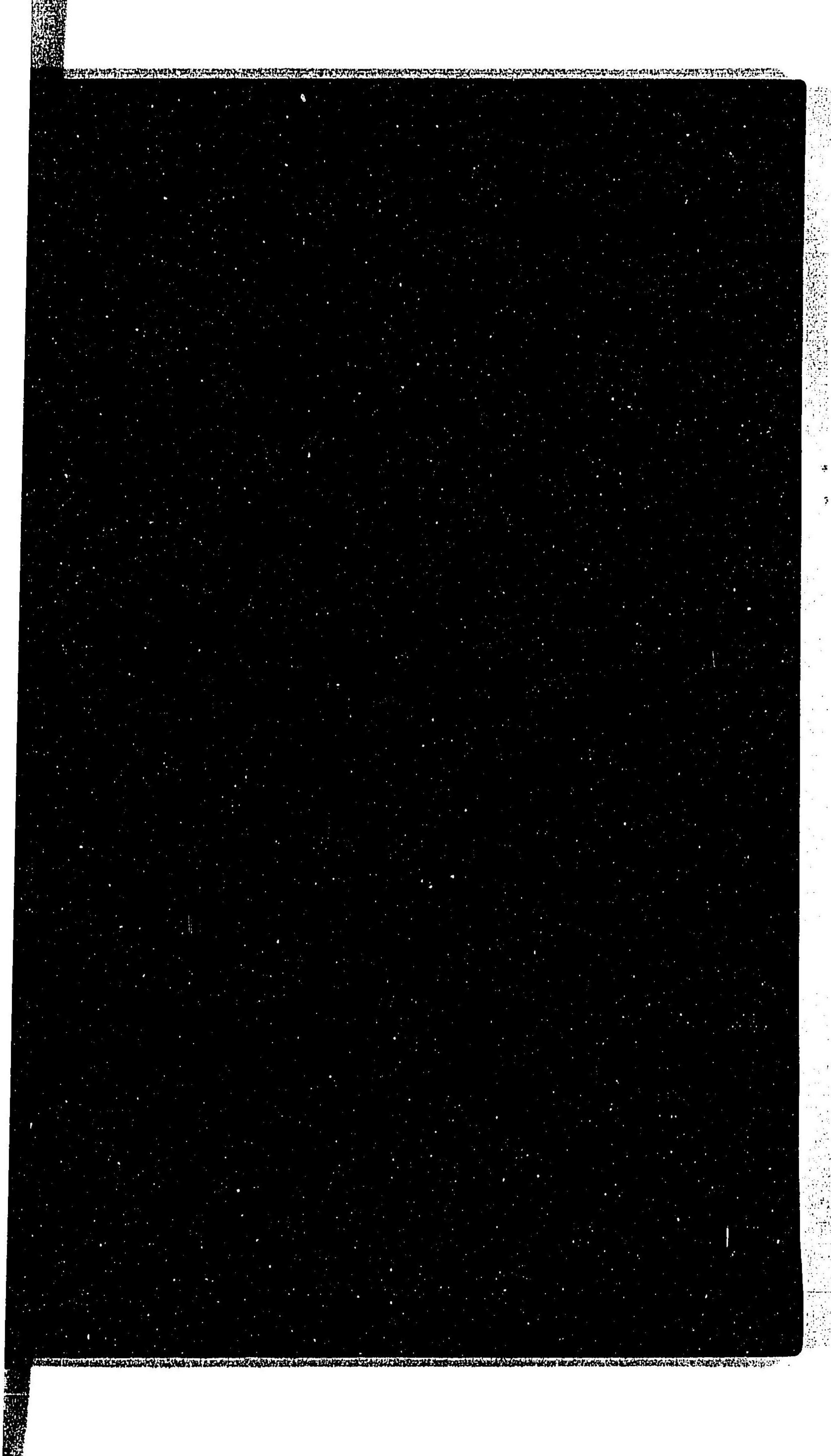
玉村書籍店

855
122

79







335
122

026417-000-2

335-122

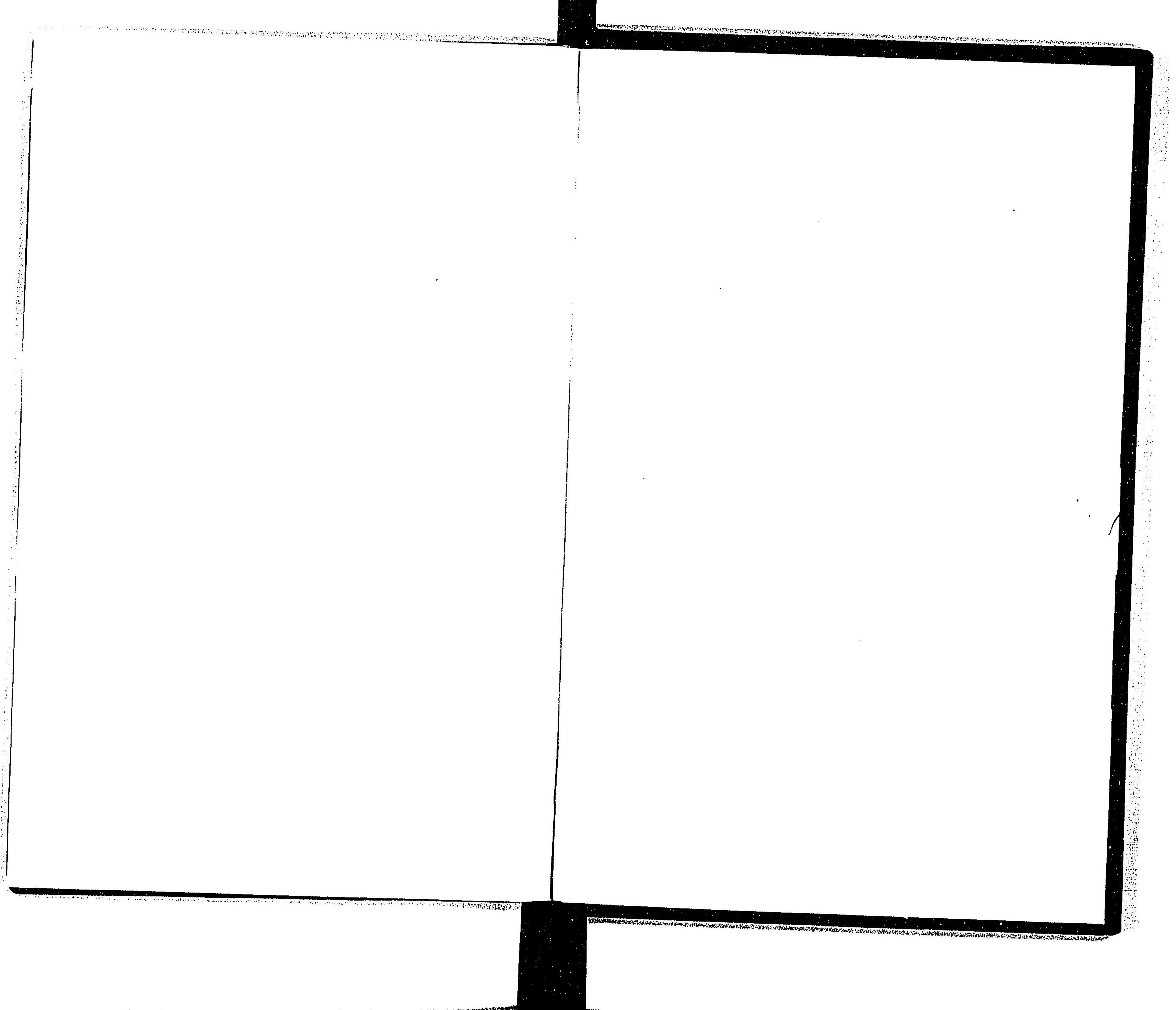
大邱一斑(朝鮮)

三輪 如鉄/著

M44

ADD-0070





三輪如鐵著

朝鮮
大邱一斑

東京
大阪
杉本梁江堂發行